

MEN'S ONLY01

更新情報誌

ゴトチヒ×
五島千尋

Architecture
Product
System



最新更 新情報



ブラキオザウルスの模型
ではなく退化前の山田

最新の更新情報はこちら

最新の更新情報はこちら

[MEN'S ONLY02](#)

コンテンツ案内

[ネタ 受賞者](#)

[メモ ガンバレ！ピンポンフォロワー](#)

[批評 嘶家とシェラザート](#)

[随筆 十分どん兵衛VSゆで時間半分](#)

はみ出したネタは横本の方に

[デビルフィッシュ](#)

[ぼくとキミの似顔絵塾（にがおえずく）](#)

[ルナイズマインのテキトーなこと](#)

[四コママンガ 善（音を同じくする“前”の意）](#)

[四コママンガ 悪（ほとんど今までの使いまわしの“悪”）](#)

2015年12月27日 おそらく今年の最終更新

たぶん、「セヴンスリーワン」が更新されているはず。

されていないかもしれない。

早く、先に進まなくちゃならないから、具体的に六活動の説明していないかもしれないが、それは『遊びと人間』を読めばいいので、大丈夫。数の話の方が大事だから。

どうも、仏語原典と英訳されたモノと、日本語版を読み比べないと、いけないと少し思った。そうになると、本当にゲーム研究になっていき、誰も研究書なんて読まないから、忘れられてしまうのではないだろうか？ したがって幽環派が勝つことは無い。仙田先生の本すら、忘れ去られたものであった。そういえばウォルト・ディズニーのドキュメント番組を観たけど、晩年の都市計画エポットがどれほど遊環構造になっていたのか、検証しないとイケない。

今年は「GRC」をボリューム3まで三つできるはずが、一つしかできなかった。来年はなんとか、残り二つを作って、文読も作って、『第三ライトノベル』とか溜まったネタを出して、なんとか溜まった宿題を片付けたい。

「shaon」は時間がかかるな。

それで今年は、なんだっけ？ なんとらのレビューを完成しなくていいんだっけ？ なんて名前だっけ？ 『アル・トネリコ』だっけ？ 『アル・トネリコの迷宮』だったかな。アリアドネの糸を少女とのコミュニケーションに使うはず。

たしか、アマゾンの方で「論文テクノプロデューサー横井軍平」が無料提供されているはず。情報が前後して悪いが、12月31日から一月一日の一日間のはず。そのはず。

それで、『百日紅』観たんだよね。わざわざレンタルビデオ店に行って、レンタルしてきて、映画館で都合が悪くて行けなくて新作料金を払って観た。

我々時代劇ファンが見たかった、江戸時代の世界が描かれている。

すごくいい世界だった。

正直、映画館にお客さんが入りにくいというのも、わかる。もう私たちは近世人ではなくなったのだね。

「画像を付け足し忘れて、こっそり別の日に付け足していたとか、内緒だよ。久美子スペシャルって何なのか、わからずじまいだからね」

「着せ替え清ちゃん？ 大活躍とか書いておいて、画像を足し忘れるなんてね」

2015年12月14日 更新情報が無い日もある

「あともうひとつやらずやらないのは、杉浦日向子さんの特集か、何かです」

今年は『百日紅』もあつたし、実写映画で『合葬』があつたらしいし、単館なら『吉良供養』もできるのではないかと、思っていたけどムーブメントは起きなかった。

杉浦さんは今までの時代劇のカウンターであったけど、その「保守」というかステレオタイプの時代劇も、皆わからない時代になっている。『タイムスクープハンター』みたいなものが、当たり前になっていて、ああしたフック（変化球）でないと、視聴者がつかない。

ストレート（直球）があってこそその杉浦マンガやそれを原作とした映画やアニメであって、それが無いと杉浦時代劇の面白さが、落差が無いから「吉良上野介はいい人？ そんなの当たり前じゃん」の時代に、コペルニクスの転回だったはず『吉良供養』は、面白くないかもしれない。

ちよっと、「MEN'S ONLY02」を修正した。

「横本の方では、教師たちが大活躍で、ちょっと何やってるのか、よくわからないんですけど。久美子スペシャルは全年齢で大丈夫かな？」

「そうだねえ。ゆかり先生の真相もわかったし、めでたしめでたし」

めでたしか？

2015年パールハーバーの前日 できたときが納期

そろそろ調子も戻ってきたところだし、仮原稿を片付けるかな、と思っていたら、12月になっていた。先週、日付が1日の日は映画の日だから、『ガール&パンツァー』の映画を観て「ほほう、ここがファンが侵入しているというゴルフ場か」と悦に浸りたかったが「お金が無いので、見れませんでした」と言う、どうでもいい話をしておく。

ガンバレ。

「映画館には行けないけど、頑張ってください」

実はまだ、「これがホントのアンツィオ戦」を観ていなかったのだ。いつも、いつもレンタルビデオ屋さんに行っても、借りられている人気作だから。人気があることが悔しいから、マンガを描くのを休むのが忙しくて、観れていないことにしよう。周防監督みたいに打ち上げで草野球をはじめたら、草野球が仕事になったみたいなことではない。玲子ちゃん御免。読んでないのは知ってるけど、これを書いておかないと。

もう、動画配信契約を結ばないと、ダメかもしれない。あの『ルパン三世』を観ていない。

マンガを描くのを、休んでいたのに、ぜんぜん『文章読本』が完成しない。

これが完成してくれないと、『ぼくらの経世済民』や『国民兵談』や『第三ライトノベル』が作れない。

宮本茂の言葉でいいのがあるじゃない？ 「出来た時が納期」。いい言葉だ。

人生にも納期があるというのが、糸井さんの方。

そういえば、「販促！文章読本」を少し直したり、2014年のもので「新喜劇」が「喜劇」になっていたたり、何か変わったことがあったかもしれない。

「MEN'S ONLY02」では、表紙が変わっている。他は・・・変わったところはないんじゃないか？

横本の「烏賊」は少し追加した。

広告

マンガレビュー
マンガ病の処方箋
桜玉吉『幽玄漫玉日記』

ブクログのプー内

本体価格10yen

投げ銭方式のため全面閲覧可能

「新・建築入門」の第一章「建築の危機」で、ハンズ・ホラインという建築家が「メンタル・フィジカル・エンvironment」という「建築作品」を「ピル」で飲むことによって、閉鎖的恐怖症の患者の環境が改善される（閉鎖的恐怖症の患者の環境を改善する（閉鎖的恐怖症の患者の環境を改善する））

2015年12月1日 更新情報は無い

「いやはや、困りましたなあ」

別に、さぼっているわけではないが、更新はしていない。

更新すべきというか、修正すべきネタはある。たとえば、クリント・イーストウッドが初監督したのではなく、ドン・シーゲル監督の映画のことが、正しいとか。あれはマカロニ・ウェスタンで活躍していたイーストウッドがハリウッド進出第一弾みたいな作品なのである。

シネフィリアの人がいれば、一発でわかるけど、Web2.0は、信用できない。

編集者なり、事務所で抱えた事務員だとか、調べものしてチェック、ダブルチェックができる体制ではないと、必然的にこうなる。

信用度が高くないから、あまり電子書籍が売れないのだろう。

信用度を高めるためには、それなりの費用がかかって、値段に跳ね返るけど、その値段は誰も払ってくれないのは、明白だ。

「いやはや、困りましたなあ（他人事）」

「あの、今は直っているものに、友永さんが鳥海さんになっていたのが、あるじゃない？ 誰も指摘してくれなかったのは、悲しいよ。泣いちゃいそうだよ」

「じゅん氏の思い込みじゃなくて、オレの思い込み」

「じゅん氏と言えば、メガネをかけている」

「うまく繋がったね」

2015年11月23日 たまにはいいよね、更新情報が無いというインフォメーション

今月は、『ありえない未来の思い出たち』は休みなので、更新がない。

来月は「セヴンスリーワン」が順次、約月一ペース、ピョコタンにいいことがあるという私にとってイヤなことがあったら隔月に一回のペースで、追加があるはず。

ここで「ピョコタンにイイコトがあると休む」と書いておけば、いつでもさぼれるということに気づいた。

横本の方も、追加・修正していないので、そういうことである。

と、いつつこっそり「MEN'S ONLY02」を作ったり、「販促！文章読本」が更新されていたり、でも更新情報を真っ先に読む人がいないので、本編の書きかけ原稿が載っていると、気づかれない。

2015年11月16日 「やおきんと仲良くなりやがって！」

この十日間、何も手につかない。

ではなく、ずっと自作「文章読本」の執筆に終わっていた。

それで『終物語』を観て、驚いて「負けた」と、思った。

二度と小学館と仕事できなくとも
知らないよ



シャフトを裏切った手前、何も応援できないが、横本の「イカ」の方を、追加・修正した。

他に何も追加・修正が無いときだけ、更新情報が出される。

私は宗教弾圧家になった理由を書かなくてはいけないところまできたので、少し筆が止まっている。本当なら、文壇にいて私小説か何かで書かなくてはいけなかったことだったけど、『金閣寺』とは違う方向性だから、どうなるか、よくわからない。文壇は私を入れなかったし、もう気を使わなくていい。

それは、批判しちゃいけないモノが無いし、逆に皆で褒めなくちゃならない文壇政治に参加しなくていいということだ。

ともかく、仏教は敵だから菩薩や仏典の人物たちが、倒すべき敵ロボットになっている。

スカポンが関西にお笑いの勉強に行って、それは仏教だと三蔵法師・玄奘が天竺まで行った（

西遊) ということで、ジュピターサイクル玄奘は宇宙の西へ行って帰ってきた。西から幸せを持ち込んだ…というのだが、それは幸せではなく戦争を持ち込んだというかなしみの歴史が「ルナイズマイン」では語られる。

それから、アマゾン「GAME REVIEW COMPLEX」の第一巻は、11月4日から9日まで無料配信であった。「テクノプロデューサー」の方が、無料の期日だったはず。情報が誤っても、誰も気にしないので、よかった。良かった。

「『ヴァルキリードライブ マーメイド』の眼鏡さんと言えば、動きが激しすぎてストッキングが破けるシーンはすごくカッコよかった」
「レディカワグチがバイクに乗っているから、てっきり『ビルドファイターズトライ』の続きだと思ったよ」
「それ、小ネタでやるネタだから」

2015年11月6日 ルールラーニングストーリーは終わった

なんとか、100頁目のラストシーンまでを載せることが出来た。

これで一応、「ルールラーニングストーリー」は終わり、本格的に「セブンスリーワン」に移れる。

ラフ画だけど。



空白が多いので役に立つ情報を挿入
パズリーニの『ソドム市』という
映画を観れば

新入生特訓120日の過酷さを想像できる
(プロ野球選手たちは皆これを経験する)

本当のこと言わなくていいのに
モモちゃん

『ゴッドイーター』というより、『ギャングスタ』だと思う。

製作会社が、なんと会社として破産したのであるが、それはそれは同情する。

それにしても…

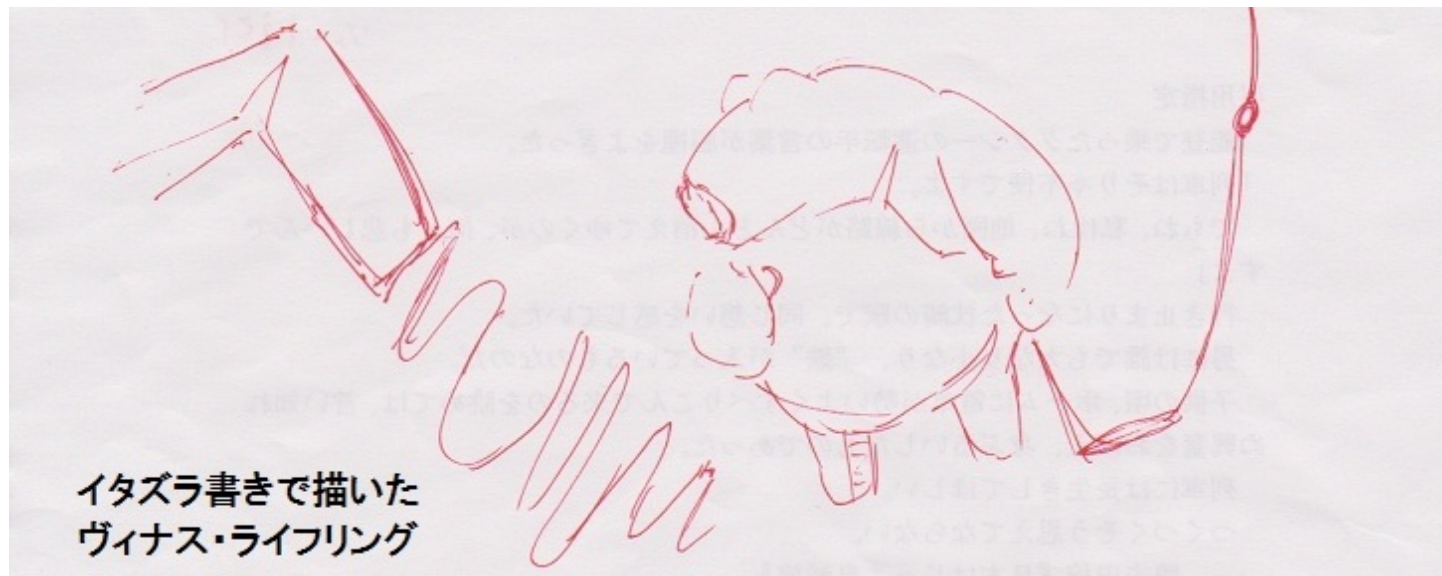
…苦しかった。

こんなに苦しかったのは…何か例示したいが、これに匹敵するものが無い。別に会社が潰れたことが、前振りではなかったのだ。

ともかく苦しかった。

皆がわかっている通り、こういう結末になるのは、予定調和であった。
気分は「詩織を倒した」はずなのだが、それは意味の無い勝利だ。
全七巻完成させたとしても、それはあまり意味があることとは思えない。
テラさんが塞ぎこむ気持ちがわかる。

「贗作自慢」を「Shaon」に改題した。
本当はOにウムラウトがあるドイツ語で美という意味。
なかなか執筆に時間を取れないが、まあ、たいしたことも書いていないので、良いのである。



ついでに、「販促！文章読本」も、更新した。
閲覧数も少ないし、本編の書きかけ原稿が載っていても、あまりたいした影響は無いようである。

本編の売り上げに貢献しない閲覧数だと、気づく。
ここ半年の営業は、なんだったのか、反省である。

「グリーンブック」

随筆Uが読める！

兄になりたかった人で寺田ヒロオがわかったような気がする！

ガンバレ！ピンポンフォロワーで卓球少年マンガの討ち死にを悲しむ！

実は「リベルティーナたちの命懸けの飛翔」は完成していたりする

amazon



だいたい300円（特価セールがあるかもしれないから）

10月の更新情報

2015年10月28日の更新情報

「今日は、ラフ画を二ページしか、アップできませんでした。
生産力が無く、ここまでしかできませんでした。
でも、僕はがんばりました」

誰も求めていないから、出来るのである。少年マンガ誌なら大変である。

批難ごうごうだ。（ごうごうという漢字が変換されない）

だいたい、いつも8ページしか書けないのに、一ページも多い9頁にして、作業工程が破綻するの、ムリなるかな。

それによって、ラフ画をあげるしかなくなったのだ。ラフ画である。ラフ画はいい。富樫さんみたいに、ちょっとマニアめな画風にすればよかったかな。

まあ、終わっても、終わらなくても、世間に何も影響を与えないし、『吼えろペン』の第一巻第一話の焰燃（ホノオモユル）みたいなことを言っていると自分でもわかっているが、「仕方ないよね」。

『ありえない未来の思い出たち』なんて、描いても無駄じゃない？

20年前なら、わかってない人がいたかもしれないが、もう必要ではない。情報化社会なのだから、これぐらい皆知っている。

描いていて、辛いことしかない。

アマゾン「GAME REVIEW COMPLEX」の第一巻は、10月31日から11月4日まで、無料キャンペーンの予定だった気がする。「テクノプロデューサー横井軍平」の間違いだったかもしれない。

2015年10月20日の更新情報

中原昌也じゃないけど、「今頭に思い浮かぶことは全てネガティブなことしかない」という状態で、この更新情報を書いている。

『ありえない未来の思い出たち』なんて、描いても無駄じゃない？ これと同じことを出来ても、別にゲームクリエイターになれるわけじゃないし、コンシューマ市場は半分になって、それは管理職と労働者の数が半分になるということで、雇用してもらえない。

たとえソーシャルゲームの方に、働き口を求めても『あり思』の応用できる程度じゃ、採用してもらえない。そもそもパッケージソフトを作るノウハウは、もういらぬ。どうしても作りたいなら英語を覚えて海外に行くしかない。

ゲーム作りの基礎は語られているけど、それは誰でもできることであって、できたとしても、誰も評価しない。素人さんに「ゲームのこと詳しいね」と、社交事例で褒めてもらえるかもしれないけど、プロの現場では通用しない。有吉くんがさ、たまに「そういうことするバカのためにある」（「マツコ有吉の怒り新党」なら「行楽地などで誰もやらないようなことをしないで下さい」と書かれている看板に腹が立ちます。まるで自分たちがそんなことをしでかすような悪者扱いされている気がして、気分が悪いです」みたいなメールへの返答）とか、頭の悪い人をケナすことがあるじゃない？ 「これを出来るようになればゲームクリエイターになれる」と勘違いするバカをどうするか、という問題がある。自分がそのバカだったのだから。

ハッキリ書かないと勘違いさせる。

そして、棚橋と同じように大事なことは何度も言う！

「『あり思』と同じことが出来ても、ダメなんだ。これと同じことが出来るようになればゲームクリエイターになれると思うのは、有吉くんならお前がバカだからそう思うんだ。私は有吉くんじゃないから、ハッキリきついことを言わないようにしてただけ」

と、書くと勝手に勘違いしたバカが傷つくわけだろう？ でもこれを書かないとバカをバカのままにしちゃうわけじゃない？ 「今頭に思い浮かぶことは全てネガティブなことしかない」という状態になってしまうのも、致し方無い。

ということで、たぶん、九月にアップしなくてはいけなかった、その、「ルールラーニングストーリー」の製版がアップされていると、いいな。

願望であって、アップされていないかもしれない。

もし、アップされていなくても、そもそも役に立たない代物だから、気にしなくていい。

本当に「これでアアだと思ったら、そんなヤツ、バカだよ」と、思ってやったことが本当に「アアだと思ふ」人が世の中にいるから、その人は本当にバカなんだけど、「読者の皆さんはそうではありませんよね」と、お断りを入れる。

ああいう看板と同じで、不特定多数が見ているから、そういう人も出てくるのが、なんとなくわかる。

それから、「販促！文章読本」が更新されている。

と思う。

もし、更新されていなかったら、デマゴギーを掴まされたと思ってあきらめよう。時代劇のセリフで「野良犬にかまれたと思ってあきらめな」というたとえがあるが、「野良犬にかまれたどころじゃないですけど」と、町娘が思っているにちがいない。

「横本烏賊」はアップされていても、されてなくても同じような内容だから、関係ない。まだ裏表紙は決めていない。ぷりぷりトラエモンのようなスターを生み出せるのか、疑問だ。

そういえば、開脚捕球はファーストミットの構造上、完全捕球しやすい送球軌道の角度を確保しつつ、ファーストベースに足を離さないために、あの捕球体勢になるのではないかな？

「Puboo×Paboo2015」を少し、修正した。

「海賊ファンブック」で10月4日となっていた誤記は、後日修正。

2015年10月18日 お知らせ

「先生から、皆さんに残念なお知らせがあります。

このクラスには泥棒がいました。田中君の給食費を盗んだ人は……」

という、報告の如く、皆さんにお知らせすることがある。

「T P Pに基本合意してしまったので、著作権の失効期限死後50年から、死後70年に延長することが確実になったので、2016年に予定していた佐藤春夫の詩は、引用できません。

『ありえない未来の思い出たち』第一巻、「コトバを食べる、ケモノ。」での佐藤春夫の詩は残念ですが、2036年まで、掲載できません」

以上、お知らせ終わり。

しょうがないよね。

みんなが求めた結果だから。

著作権問題だけでも、T P Pなんて加盟できるわけないのに、基本合意するんだよね。

なんで、世の中はよくない方向に行くのだろう。三橋貴明が言う「アメリカ産業の保護政策」みたいなことに、どうして賛同できるのだろう？

「それから、広島が優勝できなかったデスブログ・エフェクトの件ですが、報告するまでもありません。

広島東洋カープの実力です。

予定調和っ」

2015年10月8日 横井さんの告別式の日

『ありえない未来の思い出たち』の第二巻「ルールラーニングストーリー」に更新があるかもしれない。

本当は、命日には上げていないといけないのに、告別式の日なのに、まだあれしか出来ていないだろ？

辛いんだよ。

実際の数学者の話の話は、八割九割、悲劇だ。

数学の話をする以上、それは避けられない。

それに似たマンガを描くって、辛い。

「マティマティカ」の章で触れるかもしれないガロアは、マンガ『栄光なき天才たち』で、あ

んな非業の死をとげている。

他のジャンルの学者にはこんな劇的なモノは無いのに、チューリングとか数学者だけには、それがある。数学者の藤原先生みたいに、たいした功績もあげてないのに、でかい面するのもなあ。

筆が進まず、これが吉岡一門との対決で、本人が平和主義者なのだろう、大量殺戮を描かなければいけない井上雄彦の葛藤ならドキュメンタリー番組「プロフェッショナル 仕事の流儀」みたいになるけど、私は「マンガなんて描いてられっか」と、マイルームにカゲロウを呼んでタッチペンで『ラブプラス』みたいなことをしているじゃない？ それは絵にならない。

筆で描いてないし。

それで貸しビデオ屋さんに行って、一時間ぐらい吟味して、何も借りない（本当に何も借りていない。この流れだとどうしてもねえ。借りてないけど『サカサマのパテナ』を観たことにしよう）とか、その時間をマンガにあてれば一枚は完成していたのに、何をしているのだろうと思う。

あ、なんか、一瞬脳裏によぎった。

「ゴ、ゴッ、ゴッ、ゴッドイーター！」

どうして、バンナム関係がしくじると、こんなにうれしいのだろう。前代未聞だよな、1クール中に特別番組を三回も放送したのは。

更新日時も、一日前倒しだし。

「いつも、ショートカットの女性…今度ショートカットの女性に、メガネをかけた絵を描いて、読者獲得に一役かってもらおうかな」

「はっきり、あのデンショを更新したと言えないのか？」

2015年10月1日 今年も命日に何も用意できなかった

横本の「デビルフィッシュ」が更新されているようにみえる。

「更新しました」と断言できないのは、いろいろ手違い、筆の遅れ、病気などの理由がある。読み返したら、「近世とヴィナスライフリング」のページを挿入し忘れていた。いやあ、失態、失態。

「Puboo×Paboo2013」の随筆で、“照明”としなくてはいけないところを“証明”になっていたのを修正したのは…ヒミツだ。

前々から、気づいていて、今、今頃になって修正したということにしてほしい。

“今、今頃”は誤字じゃないよ。同語反復というレトリックなのだ。

丸谷の「文読」を読むと、ほとんど技術的なことは網羅されている。これは「日記的製作進行」に書くことであった。文章を書くメソッドは、今までの「文読」だけで十分ある。ただ、それをちゃんと書けるようになる訓練を怠っているだけだね。後は、書いてあることをちゃんと理解しているのか、ということ。

俳優訓練だって、ちゃんとやろうとすればかなりハードだ。演劇部は文系のはずなのに、体育

会系的な側面があるのは、それだけ指導を徹底させないといけないところが、スタニラフスキーシステムの頃からある。それが鈴木メソッドになって、それらを否定的に捉えている平田オリザがいて、という遠近感がある。

これが文芸だとスタニラフスキーシステムが近代文学で、そこから持続しているのが純文学とかが鈴木メソッド、それで平田さんのあたりに高橋源一郎がいて、彼が文章教室をやっているけど失敗している。

(自分を指差して)ここに『一億二千万の小説教室』を読んで、作家になれなかった失敗作がいて、別にたいして高橋さんの言うことを聞いていなかったらう福永信の方が作家になれている。そのパーステクティブはある。

ちょっと余計な、ことを書くと、体力作りは必要(ほんとに余計なことなので、ワザと変なところで読点を打っている)。10分や20分ぐらいの上演時間ならいらないかもしれないけど、二時間ぐらいの長丁場だと、体育会系的な基礎体力訓練として走りこみをしないと、後半持たない。これを否定して「汗をかかない」静かな演劇が平田オリザである。

横井さんの命日に、何も用意していない。

さびしい。

十字喪賞と四で、十月四日の命日を象徴するのだから、その日に更新をあわせるはずが、もう間に合わない。

『心が叫びたがっているんだ』でも見てこよう。

そんな時間があったら、何かした方がいいと思われる人もいると思う。

数学の神は支払った以上のモノをけして与えない。

ビデオゲームの神は支払った同等のモノすら与えない。

数学の神がかわいく見える。

『ありえない未来の思い出たち』はその神に捧げて目減りしたモノが描かれているだけ。

数学者の話を描いているだけで、辛くなる。「マティマティカ」の章が辛くて描けないかもしれない。

William Snel <sp

2015年9月24日 いろいろ展望はある

『ありえない未来の思い出たち』の第二巻を、今月はほとんど追加のページを更新できなかった。実際に眼で見て、確かめてほしい。

「販促！文章読本」も少し足した。具体的に何を確かと言うと、後で読めなくなる「大衆がプロスポーツを作った」を掲載はしている。でも読めなくなる。

「Puboo×Paboo2015」は少し修正した。

今年も、横井さんの命日から告別式まで、何も用意できなかった。

しかし、資金が溜まったら、『レジェンダリーデベロッパ横井軍平』を本格的に書きたいと思う。しかし、当事者に取材しないと完成しないものであったから、不完全なカタチにならざるをえない。

それでも、ハロー効果を取り除くのが、大変。

付録論文の方は、キーボードをつけるか、つけないかは、コスト上「論外」だから、本当に書かなかった。

「バナナマンのポッドキャスト聴いた？ 二時間半も収録していたんだよ。

ゴージャスのくだらない話を、二時間半聴いた。「魔界ゴルファーはどうしたのだろう？」とずっと思って聞いていた。

角ちゃんが「コントの神がいた」と歌うまで、長い。

そんなことより、ライトノベルのレビュー記事をまとめた本でもちょっとやろうと思う。

イアルダポートをイアルダ“ポ”ートに書き間違っているのは、「付け焼刃の知識」（最近村上ファンドの娘が言い出したコトバではない）でミスラをミスルと間違えるようなことをしている『アルスラーン戦記』から、旗が黒で無政府主義を表すゾット族＝イスラミック・ステートだとか、再編集版の記事をやりたい。長らく蛇王ザッハークが、キリスト教をモンストルムしているものだと考えていたけど、最近はもう、田中芳樹はイスラム教をモンストルムしていないかと、考えるようになった。

いろいろネタがメモで溜まってきたのもある。「ねつもじ」でも問題視していた、ファフニール問題は何か起こるのか、根本的な問題があって、それは自分の書いた記事をよんだら、「そうか、わかった」となって、弾はそろい始めた。

かねてから問題であった三羽鳥の下の世代が育たないのも、言及する。劣化問題に苦言を呈している。

今はメモを我慢して貯めて、文読が終わったら本格的に作ろうと思う。

まず「文読」を終わらせなくてはいけない。作文するのが難しいのが残っているのだが……

2015年9月14日 できればもっと、更新したい

「Puboo×Paboo2015」を修正したり、「販促！文章読本」を修正したりした。やっと樂さんの漢詩が引用されている。はず。引用されていなかったら、「それはそれ。これはこれ」である。サイドブックの方に、広告が足されているといいな（願望）。

なんだか、百ページ前後で「ルールラーニングストーリー」は終わりそうだ。

同じホームスターを使っているのに『ユリクマ嵐』とあまりにもクオリティー差がある室内プラネタリウム表現は、クオリティーレスマンガなので、仕方ない。

これをクオリティーマンガにするためには、一ページにつき平均相場の二万円の前稿料を払って、作画担当者に作ってもらったら、200万円（20000×100）の資金を支出することになる。仮にお金があったとしても、200万を回収する見込みが無いといけな。アマゾンのキンドルなら100円で六万部弱と考えていいが、これは『進撃の巨人』クラスの売り上げでは？ 単行本一巻分の販売部数だろうけど。プラットフォームは、電子書籍を売る店舗一店と考えるべきで、これがiBooksやコボ、ブックウォーカーもあれば、電子書籍で20万部ぐらい売れると考えていい。アマゾンが一番大きな店舗で品揃えがいいと。

それでも紙製書籍の一巻分の販売部数の十分の一。蔦屋と紀伊国屋とジュンク堂の全チェーン店の売り上げと比べると、桁違いとまでは言えないが、倍以上の部数が売れているはず。

つまり、電子書籍の市場は紙製書籍の十分の一だから、原稿料も十分の一でやらないとペイできない。原稿料が十分の一なら、クオリティーマンガを作れない。そもそも二万円の前稿料では、佐藤秀峰さんの言うとおりに、大友マンガ系統のクオリティーマンガを描いて生活できない。原稿買い切りではなく、絶対に印税は払わないくてもはいけない。

マンガ家は単行本の印税でペイするビジネスモデルでなんとか凌いできたんだから。

影待くんは自分の持ち出しで『GROUND LESS』を作れて、双葉社から単行本が出版されて良かったけど、それはケースとしては低いと考えた方がいい。四季賞の佳作あたりをとっている半プロ作家だけだね。『GOD-GUN世郎』の方が面白いと思うけど、私が評価しなくても、双葉社の編集者が評価してくれてよかったじゃない。

宣伝の意味で無料で読めるのも、ディスカウント競争のようにFREE競争になるとまずい。

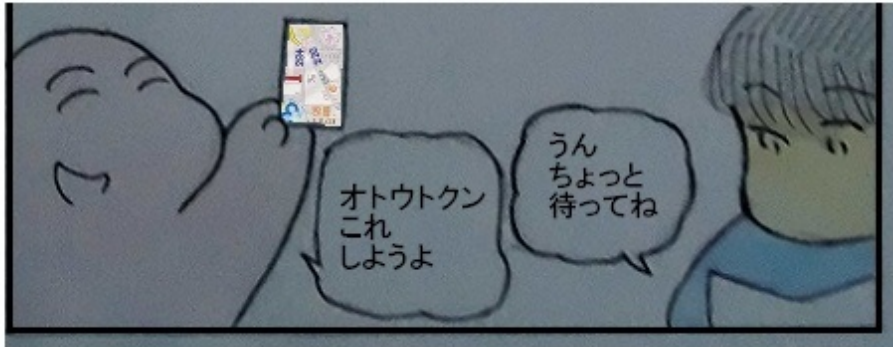
詳述しなくてもわかっていると思うけど、結論は『ありえない未来の思い出たち』はクオリティーマンガには、コストとペイをはかりかけたら、はかりかけるまでもなくできない。

2015年9月3日 立派に仕事をやりとげ…ている最中

今週は、今回は大量に更新していて、一つ二つ、ぬかりがあって、更新したのに教え忘れてい

ることもあるかもしれない。

『ありえない未来の思い出たち』の第一巻、「コトバを食べる、ケモノ。」でカードの柄を入れた画像に差し替えている。やっとなのである。何年かかっているんだと、自分でも思う。未完全版では、修正されないなので、こちらの電子書籍を見てみよう。



アイカツのデータカードダスでもなく
プリパラのチケットでもなく
731のトシヒコのカードであった

『ありえない未来の思い出たち』の第二巻は、八月に更新していなければいけなかったペン入れ製版を、なんとかやっつけた。カラーのマンガだと、同じタッチで背景を描くと、手前のキャラクターが埋没してしまう。ペイントソフトのなんらかのエフェクトを使うべきだった。

たぶん、忘れていないと思うが、“ストーリー「ななつとみつとひとつ」”に画像が付け足されている。

先月の更新情報、「2015年8月25日頃 更新情報」でアナウンスした更新が出来ているはず。出来ていなかったら、たぶん、忘れている。

そのまま忘れられたままかもしれない。

アレ？ ここで、決め台詞みたいなの、あったよね（白々しい）。

なんだっけ？ セカイノオワリという言葉が、ちょっと過ぎたな。セカイノオザワ？ あっ、思い出した。

『世界樹の迷宮』のゲームレビューは完成するのを忘れてもいいし、忘れていい。（この繰り返しのギャグって宣伝なんだけど、閲覧数が伸びない。アトラスや『世界樹の迷宮』シリーズを貶めるためにやっているのではなく、宣伝のためにやっているのである。ステルスマーケティングのようなことをしていると読者は嗅ぎ分けているのでしょうか？）

2015年8月28日頃 これでもいいのか？

『ありえない未来の思い出たち』の更新した部分を読むと、
「まるで『ハンターハンター』みたいやあ」

と、なっているように見えるが、今月はこういうカタチになってしまった。

彦磨さんの「まるで口の中が宝石箱や」は、たぶんカラヤンがサントリーホールを評した“音の宝石箱”を、「タモリのポキャブラ天国」みたいにしたんだろう。

カードの柄をギリギリまで、描くのが遅れてしまったのが、ラフ原稿掲載の理由とされている。

6502は、役にするつもりは無かった。

1729は何故、話の中で役にするエピソードが無いのか、ずっと後悔していた。

これでもいいのかな？

**ゲリピーは広し…球団が貧乏でユニフォームを
支給できないけどマツ…ウホッオフォツ
球場の売店ではちゃんと売店で
レプニカユニフォームを売っている**

球団はお客様目線の経営である



さすがに九月の初週にちゃんとペン入れした製版に差し替える予定だが、その予定通りにことがうまくいくか、わからない。ネーム作業もだいぶ遅れている。

もう、気持ちは「セヴンスリーワン」の方に、傾いている。早く仕様書を書くための数値的な話をしたい。数字、数字だよ。どうしてゲームデータは16進法なのか、情報学的にはどう考えても正しいけど、それをわかっている人はゲーム人口よりは、確実に少ない。

2015年8月25日頃 更新情報

「メガネびいき海賊ファンEブック」にpodcastの欄を更新。

電子書籍「GAME REVIEW COMPLEX」を「FREE GRC Vol.1」に改題し、記事を上げた。

邦訳「横本イカ」は、今までの「横本」と同じく、できるだけ更新情報を上げない。今回一頁を追加し、ダウンロードデータが余白無しにした程度しか、更新していない。

なんで、こんなことになっているかというと、新作の『ファイアーエムブレム』をやりすぎて、寝不足で頭が「ぼわ〜」として危ない目にもあった。それは恐ろしくて言えない（怖くて思い出したくない）が、もしかしたら『ありえない未来の思い出たち』の続きが、今月は更新されないかもしれない。

一応、任天堂の告発問題がなんらかの目処が出るまで購入するつもりは無かったので、間をとって中古品を譲ってもらった。

2015年8月20日頃 更新情報

「Puboo×Paboo2015」は表紙しか、変えていない。

なんで表紙しか変更がないかというと、ゲームをしていて忙しかった。それは表向きは『FEif』を中古だが譲ってもらったということになっている。私はネットユーザーと違って、キバヤシナリオ最高だと思う。

ここまで書いたことは嘘で、表紙しか変えておらず、「随筆 日本版FOXテレビへの弔辞」を修正した。クリスチャン「いしなみ」さんが「いしはかい」さんになっているはず。（アマノジャクではなく、頭の体操と思ってほしい）

本当に平助自…ウオッ、オホッ。平助さんの名前は平助爺からきているわけではない。カップだから長寿で「お前、仙溪の孫だな。小さい頃の仙溪にそっくりだ」と言われる、あとづけ設定があるのは、ここだけの話だ。

「SideBook DEVILFISH」が新刊でアップされているはず。主目的は広告で、タイトル名を「orca」にしたかったが、『スプラトゥーン』のステルス広告のために、烏賊にした。

アップされていなかったら、それはこちらの不手際で、

「ゴトチヒの横本」の続きである。ラフの続きが掲載されている。

アップされていなかったら、それはこちらの不手際で、

（不手際があって、読点の先に文字がありません）

「どうやら今月中で清ちゃんがバマミに数で“勝つる”らしい」

「中学生に25歳の女教師が張り合ってどうすんだ」

「えっ、小木さんがアスタリスクアスタリスクアスタリスクアスタリスクできると想像させたキャラクターが、ちゅ、中学生!？」

「うまくメガネの話題をできたね」

2015年8月15日頃 更新の事後報告

「ドラクエ研究指針」で、かねてからあった誤字を修正。これでいしかわ先生に怒られないですむ。

この更新情報は事後報告になってしまったが、それもまたよし。
人は臨機応変に生きなければいけない。（←テイのEいいわけ）

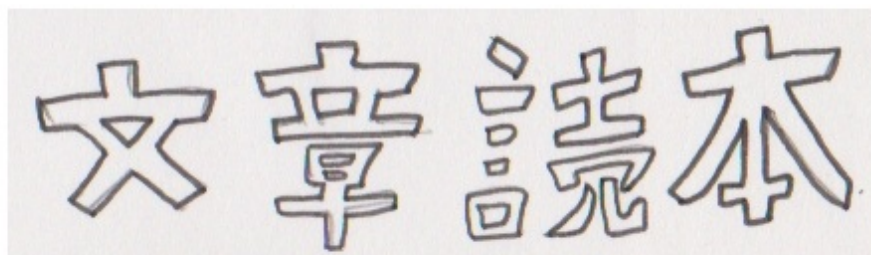
2015年8月8日頃 更新情報

そういえば、なかなか完成しなかった「イムズとアリスの夢冒険」ことゲームレビュー「知性組織団とルイス・キャロルのオーダーメイド」が、やっと完全ではないにしろ、完成した。これでゲームレビュー『世界樹の迷宮』を私は完成させなくていいし、完成しなくていい。

途中「DMMとアリスの夢冒険」の方が正しかったのではないかと、後悔はしたような気がする。

他にも、久しぶりに「女子向けパブパブ」にマンガ評として、『恋と軍艦』を掲載した。「2015」に書いたものより、あちらの方が校正が行き届いている。女性には知られてはいけない情報が抜かれているわけではない。

そういえば、「真・超人大全」も修正した。



広告

五島千尋

アマゾンで売っているよ

定価税抜き600円

正月やめでたい時は半額もある

三島文読も読んでね

「Puboo×Paboo2014」の日記「映画公開までナンタラカンタラ」と「Puboo×Paboo2015」は、いろいろ修正した。「映画の観たネタ」で没にした話を、追加している。「Puboo×Paboo」シリーズは、もっと広告を入れたいといけない。

2015年7月30日 清ちゃん先生を単純所持すると罪に問われるようになったね

お金が無くて、大変だ。

『ありえない未来の思い出たち』第二巻、「ルーラーニングストーリー」を追加修正し、更新されているはず。

この暑さで作画が遅れると予想され、今月に間に合ったのが、信じられない。

水彩画を書くので、来月の更新は無いかもしれないが、それもまた一興。

「Puboo×Paboo2014」と「Puboo×Paboo2015」を修正した。

第二の佐村河内事件と言うか、ちょっと字を間違っていた。それにしても、カプコンも任天堂も酷い。ゲーム業界って、スクウェアエニックス（最近知ったけどスクエニは中点いれるらしい）の著作権侵害の問題を起こしているし、かなり危ない業界なのかもしれない。

販売促進の「文読」も修正した。

時間が無くて画像を複数用意できなかった。

「国民皆兵談」の続きを少し、書き足したい。「ハンニバル軍を閉じ込める象の檻」と「近代国家の正業」を付け加えると、かなり近代社会がわかる。（本来は教えられなくても知っていることだけだね）

ちょうど『アルスラーン戦記』の放映で、戦象部隊のシーンが出てきて、頃合かなと思ってた。どうしてアメリカが通信傍受にあそこまでこだわるのか、ハンニバル軍の補給を絶ったのが通信を捉えることができたからという話を書く予定だが、時間がとれないから、後回しにする。というよりも、お金にならないことができなくなりつつある。それは仕方ないことだ。具体的には、手元に資料があって書きたいから、古代ローマ史の本を買いたいけど、予算が無い。

お金が無くて、大変だ。

2015年7月12日 看板立替でも内容変わらず

「リベルタンおよびリベルティーナの諸君、元気してるか？」

ということで、テコ入れに新しい更新情報誌のシリーズが始まった。

これからも広告のために頑張るけど、応援してもらいたいものだ。

女でもリベルティーナであれば読んでもいい本書、ということになっている。そこは自由主義

である。女子禁制は名目に過ぎなかったのかというと、実はそうであったり、そうでなかったりする。

リベルティーナが何かわからない人には、マルキ・ド・サドの小説か「ユリイカ」のサド特集を読めばわかる。ひとつ頭がよくなったね。

本年から半年間までの更新情報がある「Puboo×Paboo2015」を修正した。

日記や批評で追加・修正されているはず。

『ゲームレビューコンプレックス』の一卷の「大足派の避難場所」で、プロレス用語を少し足した。こんなアングルがどうのこうの書き足されて喜ぶ人がいるのか。そういえば、アジール＝避難場所は正確ではない。こういうことを指摘できるのは『アルスラーン戦記』の脚本を書いている上江洲さんぐらいだと思う。「妖雲群行」の巻で公衆浴場の労働者が難を逃れようとしてアルスラーンの裾をつかんでエラム君が「アジールが成立した」と憶えているが、聖庇と書いてルビにアジールと振る。中沢の表現としての「野生の思考の聖庇」は、まあ、悪くないが正確性は欠くかもしれない。中世の言葉である聖庇を現代人にわかりやすく伝えるために「避難（避難場所）」とするのは、正確よりも伝達性のために仕方が無いと思う。（こうやって国語から意味が離れていくのだね）

マンガレビューの『大東亜論』は修正した。もう、『風雲児たち』のマンガレビューはこの世から、「亡くなられました」とさ。ずっと、ほったらかしにしていたが、そろそろ完成させたい。

『世界樹の迷宮』のゲームレビュー、やりたくないなあ。あれだけコマーシャルをしているのだから、完成させなくていいし、完成しなくていい。

『The man of the overlooking01』がずっと無料、ダウンロードし放題に半年以上していた。福袋を作らないサービスのはずが、ここまで長期間して、ほとんど閲覧数も伸びず、大変残念である。

「魔孔=ビットなわけだろ？ 8ビットマシンと256ビットマシンと1024ビットマシンの違いを語るのは、作者の美学に反する」

「わくわく〇の話題をしないとね」

今までの更新履歴情報はこちら

[Puboo×Paboo2015](#)

コンテンツ案内

[随筆 検索ワードの記事「Gレコ」](#)

[書評 グリモアを作る『辞書になった男』](#)

[ネタ クソ少女マンガ夢子のネタ](#)

[日記 恥ずかしながらalgoを手に入れた](#)

FREE GRC vol.1

収録記事

- ・大足派の避難場所
- ・鬼切り鶴子の因縁語り
- ・テレビジョンの仮想敵
- ・映「割」のラマヌジャン

GAME REVIEW COMPLEX

amazonKindle版には ^{vol.1}

- ・トマス・デイとその仲間たち
 - ・任天堂自社株買い問題
- も収録されている

勝手に広告

ゲームソフトなんて買わずにaligoを買おう
aligo買ってくらいならaligo買った方がいいよ
(完全な敗北側の比較広告……)



柴田あみが昔 ハミ通のマンガに描いていたセリフ

男らしく
俺とホモれ！

ハッロワ

今の雑誌のレギュレーションだと言えないセリフ

手を
後ろにして！

前しっぽ競争
はじめ！

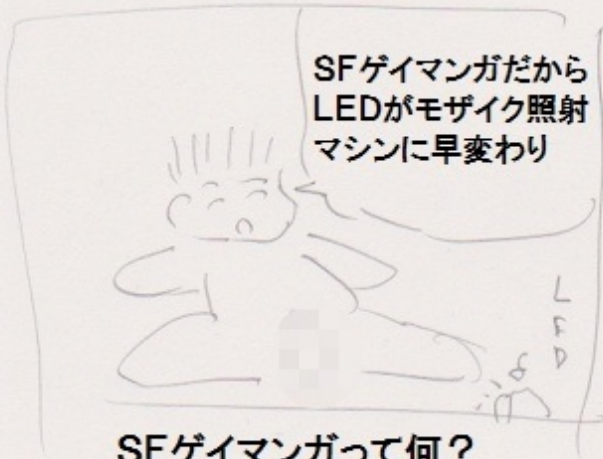
バトリ

古代五輪の花形種目

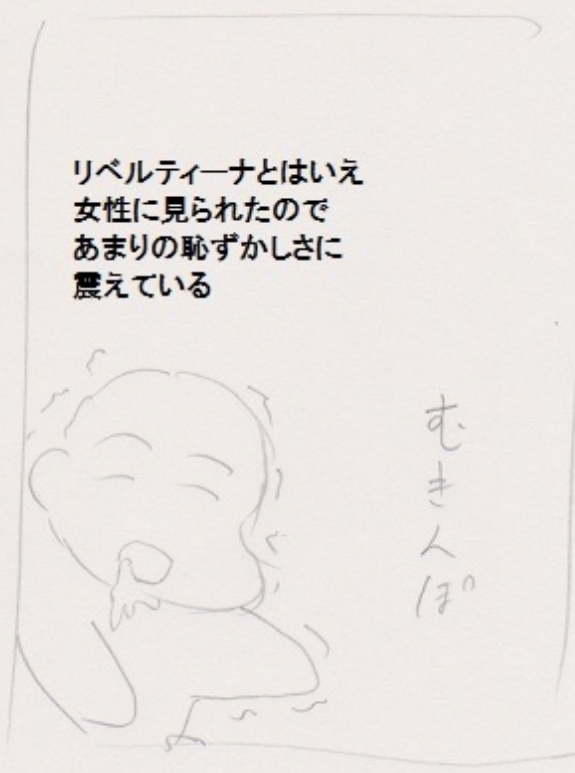
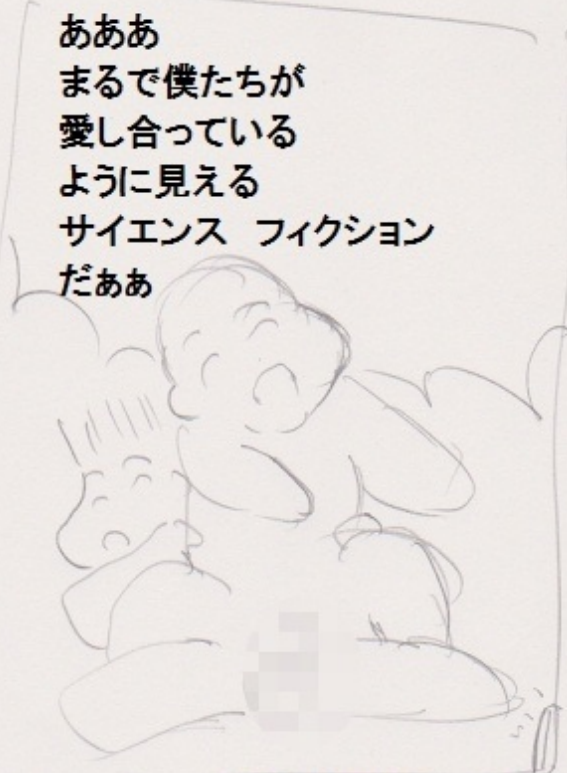
四コママンガ 前半

今までの四コママンガのあらすじを
四コマで、続き二コマは後半で
ダイジェスト

元ネタはミニスカポリスのモザイクビーム

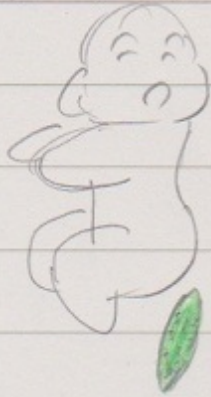


SFゲイマンガって何？



むきんほ

⇒リベルティーナにはおまけに右のコマ



みてみて
なのはくん
緑色のうんこ
しちゃった



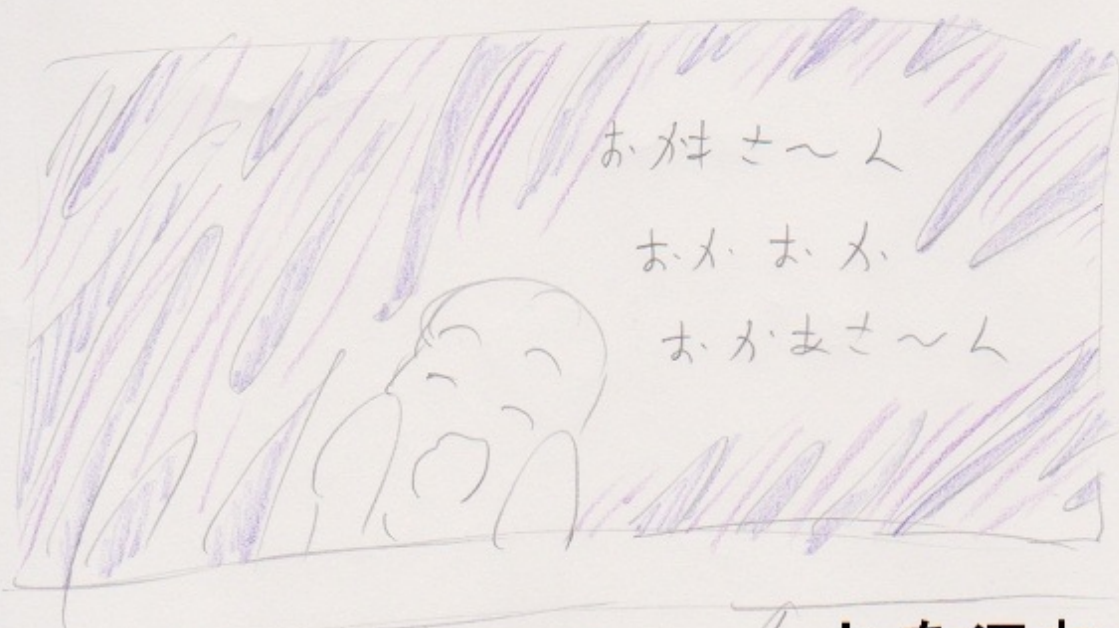
たべもので
あそぶんじゃ
ねえ！！



おっ このきゅうり
うめえな 新鮮って
ヤツだあ



なのはくんが
僕がなしたうんこ
を食べてくれている
むきんぽ



おかあさん

おかあ

おかあさん

尻子玉を
抜かれても
仕方の無い
ことだ!



わかったか?
河童のきゆうり
を勝手に盗む
ということは

平田さん

矢立さんでかくてりさん作り



江連 2:50 のホロ-2-

むきんぽ

!?

近所の公園で
同性愛オリンピック
開催

「地上最速の
ホモ・サピエンスは
このオレだ」
とホモが言う

走ってみると
100m走で
世界記録を
マーク

あっさり

どう見ても 高校時代
ヤンキーでそりこみを入
れてつっぱっていた
桐生君が悔しがる

THEME



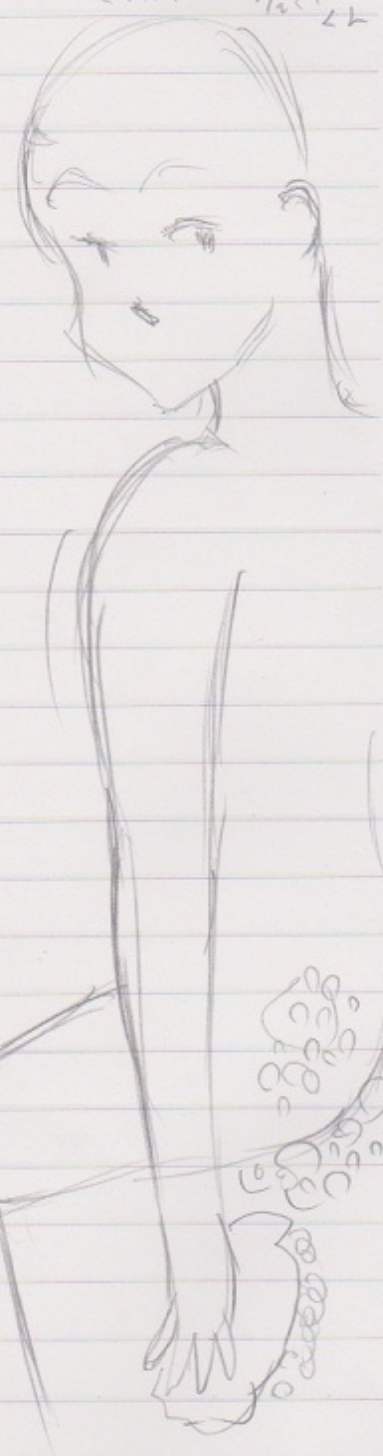
フィッシュ
カウ
無い
目
フェイス

いろいろな人がいるけど
キャラクター基本形保持能力
が無いので 全て 同一人物

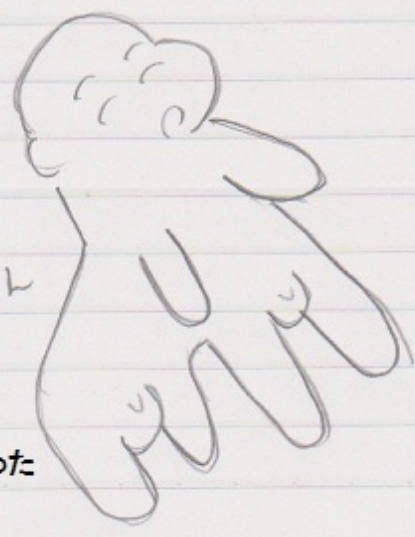
身体を
きんご
フェイス



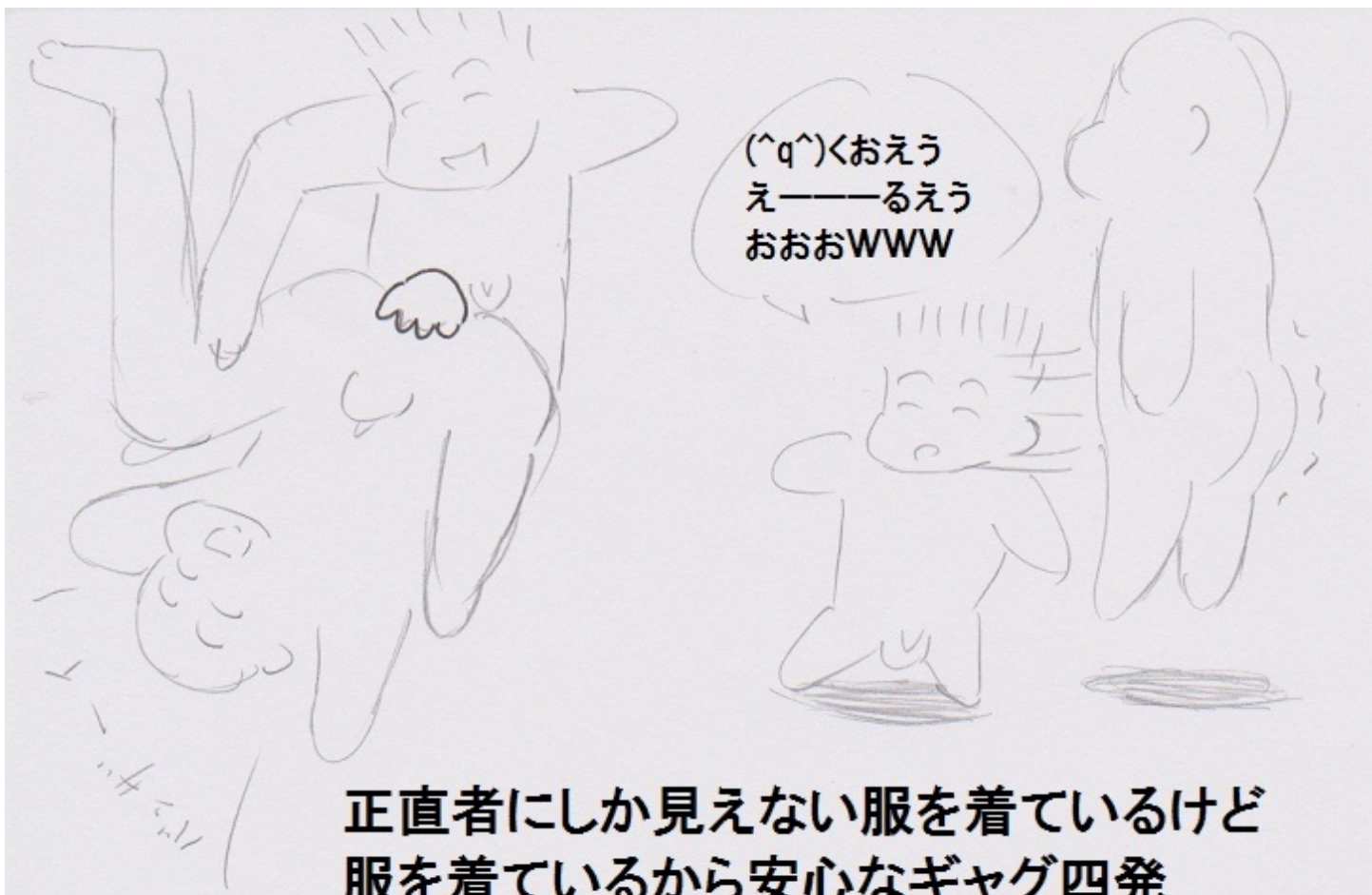
同性愛の
アロハ
フェイス



口
和後
や、は
普通の
フェイス

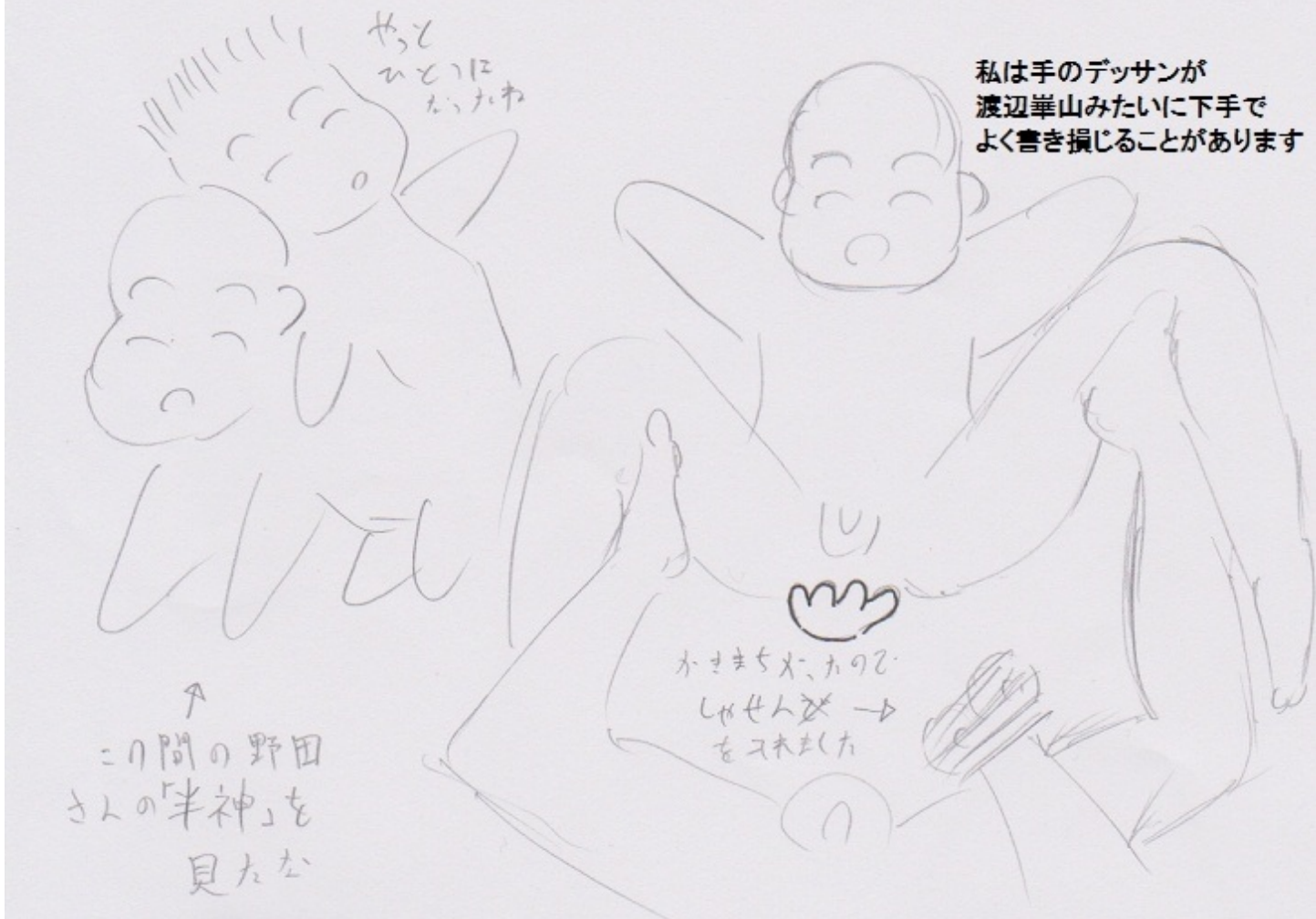


腰を振ったら
元に戻らなくなった
フェイス



**正直者にしか見えない服を着ているけど
服を着ているから安心なギャグ四発**

服を着ていないとちょっと大変なことかもね



私は手のデッサンが
渡辺華山みたいに下手で
よく書き損じることがあります

やと
ひとつは
ないわ

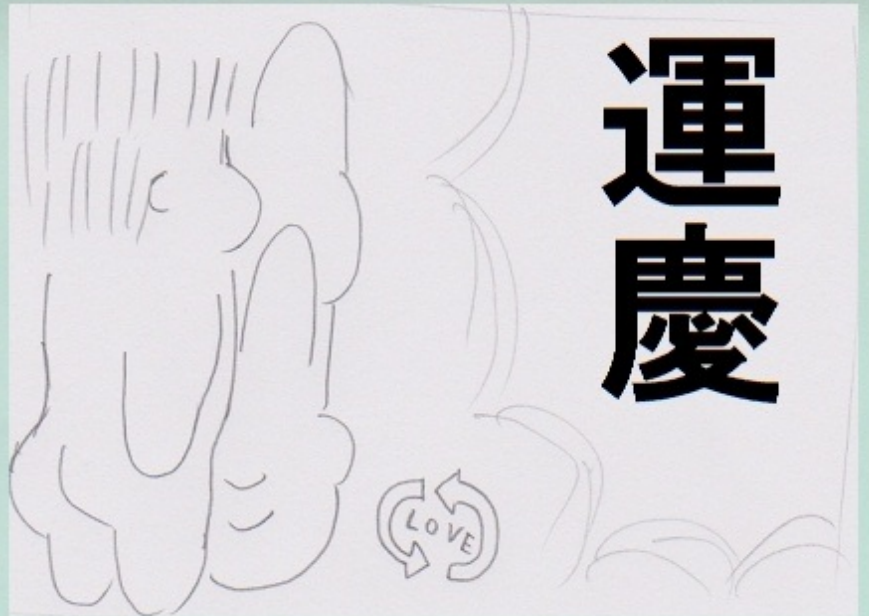
かきまじり、かびり
しやせん →
をすました

↑
ニノ間の野田
さんの「半神」を
見たか

快慶



運慶



ヤンマーの替え歌



(天気予報)
ゲイで行こう!

ヤンマーはゲイの宣伝をしていたのか?



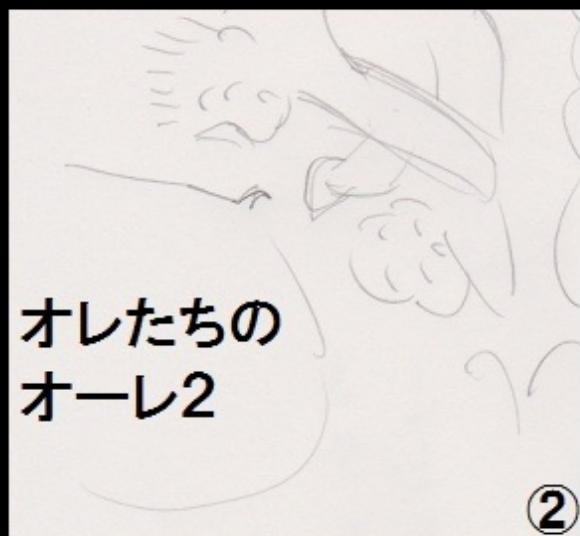
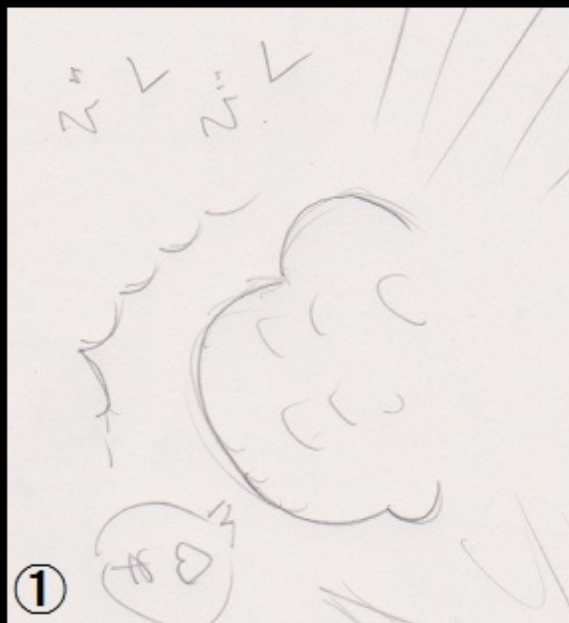
ぼくの名前は
もう坊々♪
ぼくの名前は
ほお坊々♪
二人合わせて
もろほろだあ
キミとボクとで
もろほろだあ

(小さなアスタリスクから大きなアスタリスクまで
女性*の想像力で広がるアスタリスク~♪)

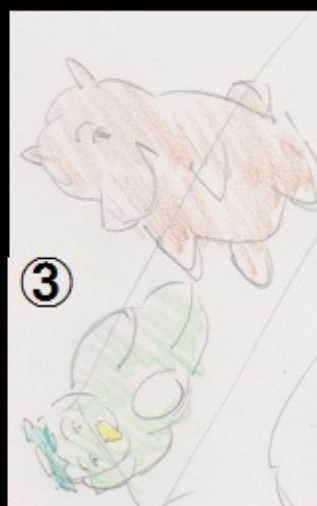
*「」の「女性」とはキミたちリベルティーナのこと

食べ物を粗末にした フェイトくん制裁

食べ物を使って生み出したことを表現



十牛図の空白みたいな意味があるコマ→

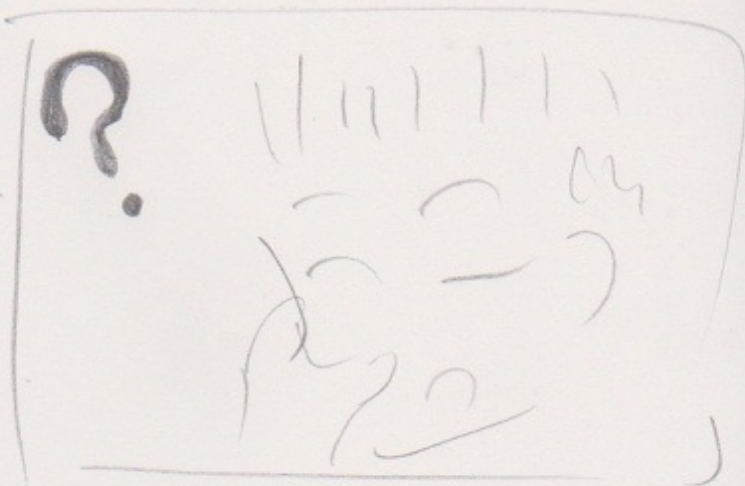


これがトドメだっ！

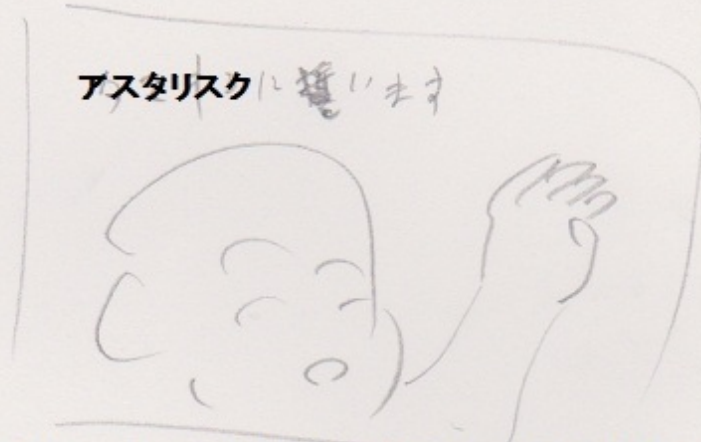
そういえばフェイトくんが医者に死を宣告されている
時に寝ていたベットと舞台上で使ったベット、同じ物らしいね

特撮のネタ

マシ
 日本のお笑い
 マシとマシ
 マシマシ
 マシマシ

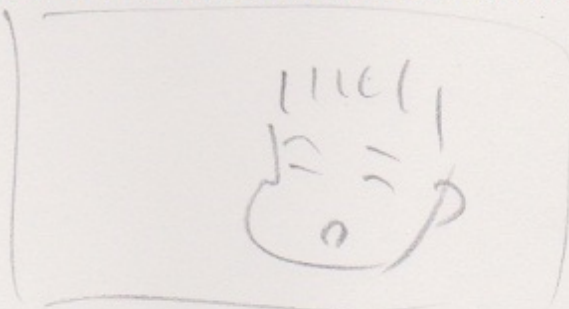


アスタリスクに描きます

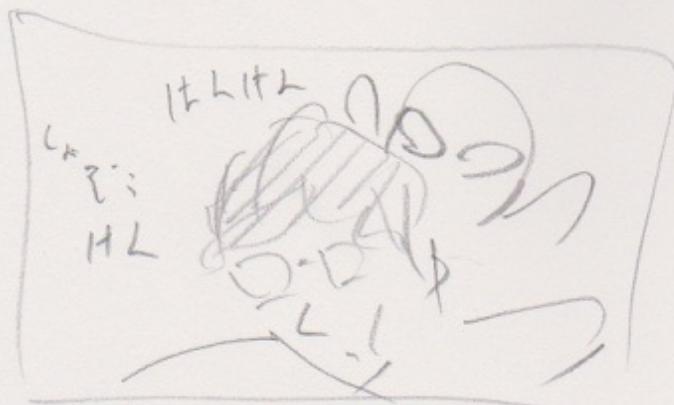


お笑いマシマシ
 マシマシ?

私は手のデッサンが渡辺崋山みたいに下手でよく書き損じることがあります



お笑い
 マシマシ
 マシ



角ちお女に似
 マシマシ

お笑いマシマシ

東京03の前身

アルファルファ時代のネタ

エレクトリックマン

厳守切

スリーゼウスと
抗争していた

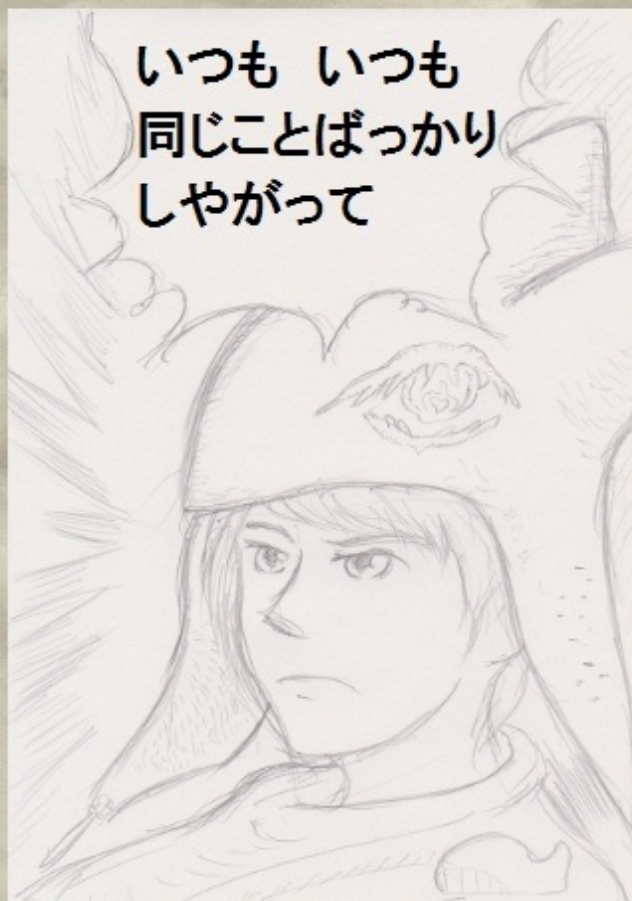
プラカードで攻撃する

なんかあったとき、ちゃんと豊本さんに声をあててもらおう

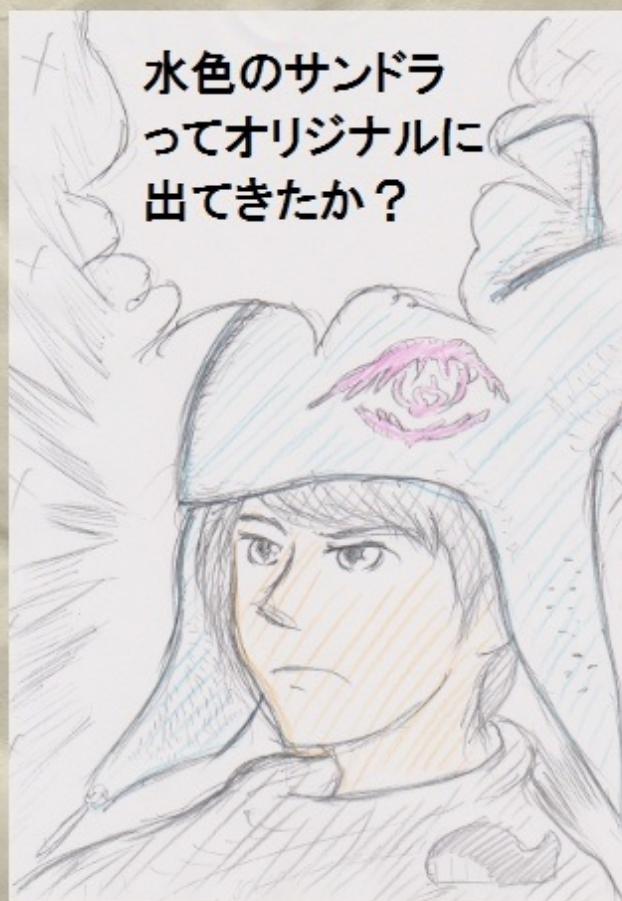
公共団体死ね死ね団に惨殺される



いつも いつも
同じことばかり
しやがって



水色のサンドラ
ってオリジナルに
出てきたか？



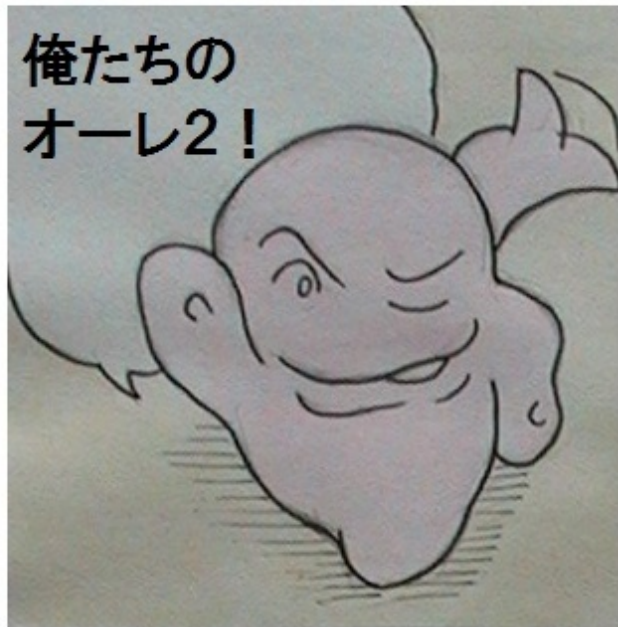
ナウシカみたいな
ものを描こうと
思えばいつだって
描けるんだ！



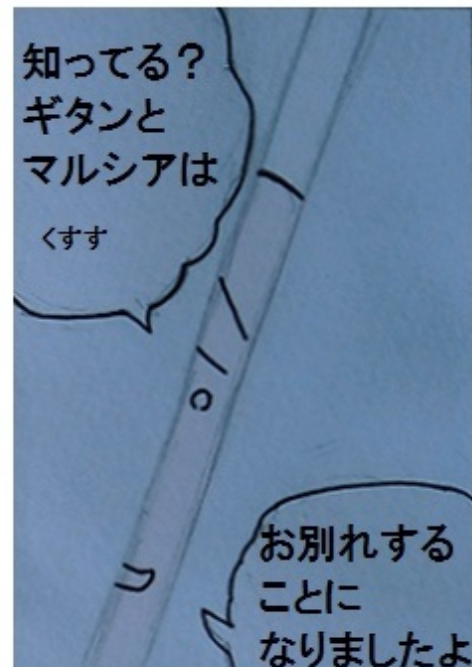
さては
一枚の絵だけで
ネタを一本
作る気だな



そうです



ケモノの中で「よろしくー」が流行ったんだよ

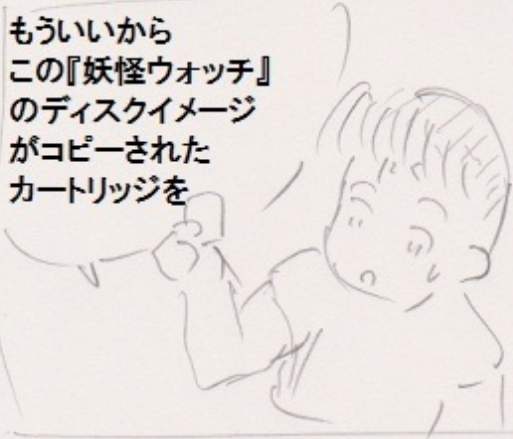


お前、バカにしているだろ!

Architecture Product Systemは
ドラマ「俺たちのオーレ2」
を応援しています

ぷりぷりトラえものの続き

もういいから
この『妖怪ウォッチ』
のディスクイメージ
がコピーされた
カートリッジを



あそぶことが
できる
おこのみボックス
的なもの
を出してよ

ROMイメージだけどミート君の替わりの子供は田舎に住んでいたからつつい言い間違う



又3をメ+が54+ 第2



それ
違法だから
(笑い)

お前が
言うな！

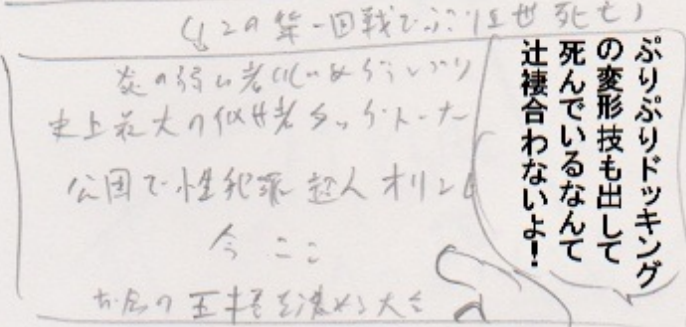


そもそも今は
お尻の王様を
決める大会の前で

ちよつと
待て!

キングオブマッスルが
初めてマッスルクリティカルを
出したのはお尻の王様を
決める大会第一回戦
それを丸パクリしたのが
ぶりぶりハプニング。

スーパー同性愛者は
ぶりぶりミキサーで
下半身が分割されるが
面識ができ合体超人
あくえりおん・えうおる
と偽って二回戦に出場し
八百長試合を仕掛けた
そりゃ、ゲリピーが
どちらのチームにも
出てきたら負けだわな



（2回戦一回戦ぶりぶり死せ）
死んでるなんて
辻褄合わないよ!
ぶりぶりドッキング
の変形技も出して

ぶりトラも
似たようなもので
知性チームに
わざと負けた

観客も楽しかったので
ウイン ウイン



合わなくてもEー!

（Eー トウニモー人！）

辻褄のーつやーりー



社長が訊く『ななつとみつつとひとつ』



岩田 聡

この間死んだ

戒名は 算術長春顕伝託

(計算に長けてハル研究所で
関数電卓を使いこなすということらしい)

本文の一部を引用される場合は、必ず、本ページのURLを明記、または本ページへのリンクをしていただくようお願いいたします。 生意気な

1 ありえないことが任天堂に起きていたのか？

ゴトチヒ ファンタジーの行動派
右翼の者です。
準創造を穢すものを
テロをしに来ました。

いわっち (無視して)731のお話の部分が、
終わりましたね。
そこでお聞きしたいことが
あります。
花道の暗いところにいた
何かの構造物は何ですか？

ゴトチヒ いや、そういうことじゃなくて
あれは本当なのか？ 任天堂への告発。
本当に聴覚障害者に
そんなことさせたのか？
任天堂で「コトタベ」を出せないじゃん。

いわっち まだ調査中ですので
そのことに関しては
お答えできません。

2 梶田省治へのアンサーゲームプラン



ゴトチヒ 三島由紀夫がゼツタイに嫌ってた官僚作文を話しているね。オイラすれちがった奴に「子供じみたことすんな」とMiiが片目な奴に言われた。「お前こそ隻眼の人をバカにしてるじゃないか？」と、思ったけど。

いわっち 私はプログラマーですから作文には疎くてですね、今回は梶田省治さんの件をまずお話下さい。

ゴトチヒ 普通は、梶田さんの言っている通りにトランプでゲームを作れと言われたら、もっとすごいものができるのは、もうわかっている。アベレージ以下でしょ？

いわっち そうですね。
(改まった声で)我が社のプランナーがトランプを使ったプランを考えればこれ以上は軽く越えます。

3 「裸になっても迷彩ストッキングを穿いているんです」



ゴトチヒ 再確認するよ！
プロ野球選手を目指す子が素振り
するみたいにこういうゲームを
試案出来て当然なんですよ？

いわっち 我が社のプランナーたちであれば
「ななつとみつとひとつ」より
優れたゲーム企画は出来ます。
そもそも花札とトランプを
売る会社ですから。

ゴトチヒ 皆聞いているか？
死んだとはいえ社長のお墨付きだぞ。
わかったか？ 勘違いするんじゃないぞ。
『ルナイズマイン』よりジョイメカの
ストーリー(全年齢対象)が
面白くないとだめだからな。

いわっち (そんなものは
「楽勝だろ」と失笑を浮かべる)

主人公が拷問を受けて、イスラム国の闘士のようになっ
てしまった原因を作った子供におしおき(折檻)する愉し
い談話は割愛されてしまう。

4 アグレガシオン

ゴトチヒ 731以上のものを作れるのが
教授資格試験のようなもので
これを越えないとゲームの専門学校
でも講義しちゃいけない。

いわっち おっしゃる通りです。
サイバーコネクトツーに
入社できなかった方の
プランですから当然ですね。

ゴトチヒ そこは違う(キツパリ)。
ギャンブルマンガや
TCGとは別路線で何か
カードゲームが出来ないかと
前から考えていたことは
いたんだけどねえ。
榊田さんのトランプという
お題に合わせた結果が
「ななつとみつつとひとつ」。

いわっち 『賭博黙示録カイジ』や
『遊戯王』系ではないと。
なるほど。それでポケモン
カードのゲーム部分を作っている
クリーチャーズというわけですか。

5 君島社長で未来はあるのか？

五島 千尋
Architecture Product System
ファンタジー極右



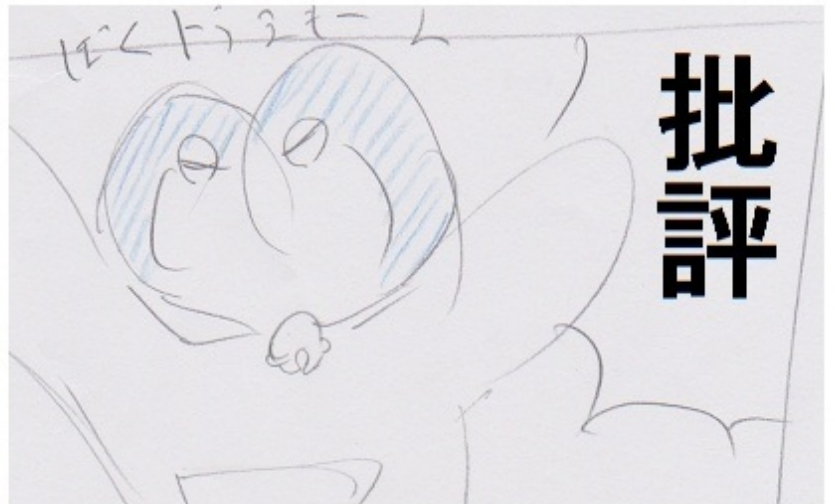
(少し止まって)

いわっち タイトル名を出すのは
法務部から不適切との
指摘がありましたので
話題を変えたいと思うのですが。

ゴトチヒ 君島氏を社長にして、大丈夫か？
破竹の勢いの告発問題時の人事担当のトップ*だぞ？
バンクマンで不良債権を隠せばいいと
教えられた奴が取締役の代表
カッコ日本で言う社長カッコトジル
でいいの？ 引責のリスクを考えたら
とうていできない社長就任だけど。

いわっち 社長の責務としては
任期を終えている
死後のことですから
お答えしかねますね。

ゴトチヒ 死ぬ前に後継決めておかないと。
もし、任天堂で「コトタベ」を
リリースしてこんなことが
本当だったらスキャンダルだよ。
「お前んとこは、聴覚障害者を排斥する
くせに聴覚障害者を出すのか？」
と言われるだろうし、
こんなのは***に「義手を取れっ」
と言った佐村河内と同じだよ。



の扉絵
一番重要なのは広告

批評 歴史修正主義とは何か？

世の中には、敵対勢力に攻撃できる魔法の言葉が存在するが、歴史修正主義もまた、そのひとつだろう。

どこからどこまで歴史修正主義なのかというと、自分の意見と反対だと、そういうことになるらしい。本来、漢字の表意性からは、語義矛盾する用法である。そもそも改悪という言葉があるように、修悪なら批難になるが何故「修正」で悪いのだろう。文章を書いている、構文上据わり心地が悪い。

これはイデオロギー的な問題である。

近年、歴史上の人物の肖像画で足利尊氏と源頼朝は、どうやら別人物であるという研究成果が広まり、学校教科書で書き換えられている。武者絵姿の足利尊氏は、武具馬具からその部下高師直かその息子とされる（漢字に表記できないが息子の名は「こうのもろあきら」）。黒衣着物の源頼朝は室町時代の装束らしく、尊氏の弟直義（「ただよし」と読む）であるとされる。

さて、これは歴史修正主義だろうか？

そもそも歴史学は歴史修正主義なのである。今まで考えられてきた歴史は、新資料が見つかって覆ることが、多々あるものである。この肖像画の場合、他の歴史資料と突き詰め合わせると、どうも辻褄が合わないと歴史家の間で疑問が呈され、足利尊氏説と源頼朝説は否定されつつある。

こういう段階を経て、「それ足利尊氏じゃないよ」「源頼朝じゃねえよ」という指摘をした人を、「歴史修正主義だ！」と批難するだろうか。

肖像画の場合、美術的な学問である美学の観点からの検証であるが、立派な歴史学の研究でもある。また、絵画は意外にも政治的な背景があり、もしかしたら伝頼朝とされていたのは直義への同情や直義だとそのまま伝えると絵画が敵対派に排斥処分されるなど、そういう政治的背景があったかもしれない。これは足利幕府成立時期の権力闘争を前もって知っていると、こういうことも考えられる。

『風雲児たち』を読んでいると、大黒屋光太夫は伊勢に帰郷していないだろうと踏んでマンガを描いたら、その後に新資料で帰郷していたとわかり、間宮林蔵はシーボルトと会っていないと踏んだら、ライデンのシーボルト博物館の資料調査で、間宮と会っていたと書かれた文書が見つかるのである。

連載で太郎先生は報告しているが、これは歴史修正主義になるだろうか？

敵対勢力には、歴史修正主義に十分なる。

だから、太郎先生の敵対勢力である私の場合、太郎先生を歴史修正主義として批難して糾弾していいのである。

冗談である。

単純に新左翼が日本国の歴史で東側戦勝国に有利になる「歴史」、が資料的に見て「どうも戦後に浸透している事実とされることが怪しいぞ」と異を唱えると、「歴史修正主義」と批難するのだ。批判は一部良くないところを指摘することだが、批難は否定である。新左翼の「歴史修正

主義」の批難の場合、全否定である。（普通の歴史家に失礼だと思うけど）

こういうのを、歴史認識問題といわれる。

重慶爆撃や東京裁判、歴史資料を読むと巷に流通している事となんだか違っているぞと、主張すると「歴史修正主義」と批難される。

シナで中国人を日本刀で百人斬りをしたという日本兵がいたとか、中国の博物館に飾られていたりするが、日本刀で百人斬りできるのはフィクションの中でしかない。今時“間違いだらけの時代劇”のひとつをまんま信じる人はいないが、これを指摘すると博物館では日本兵は百人斬り出来るなんらかの処置をしていたと書いたパネルを追加したりする。これが批難されるべき「歴史修正主義」じゃないのか？

従軍慰安婦問題で、朝鮮半島のある町の歓楽街にある娼館で軍人の客を取っていた韓国人娼婦まで、自分は従軍慰安婦だと主張するのは「さすがに違うだろう」と（この人物がもしアジア女性基金から出るお金をもらっていたら詐欺になるぞ）。すると「歴史修正主義」と批難される。一応書いておくと、戦線の前線基地があって、その手前の駐屯地あたりに慰安所が設営される。この慰安所に働いていない人は、従軍慰安婦と当然言えない。軍事基地の近所に娼館があれば、そもそも慰安所を設営しなくていい。

主張と史実があっているか、本当に調べないといけませんが、被害者が女性であると、自分の男らしさを満足させるために、鵜呑みにする傾向がある。

読売新聞の解説員の橋本五郎はワイドショー「ミヤネ屋」で「性虐待を受けた女性の言っていることだから」証言は信用に足ると、吉田清治の証言を真に受けていた。視聴者を騙したと感じる。（新聞記者筋ならチェック、ダブルチェックするのが当たり前だと思うが、ヘンだな…）

彼に情報工作に簡単にはまってしまう「情けなさ」を感じる。

旧日本軍が前線から後退した場所に慰安所を設営して、軍医が健康管理をしていたのを、軍が関与した、管理したとするのは間違いが無い。そして、ほとんどは日本人女性が慰安婦として働いていた。これはナポレオン軍の遠征旅団と変わらないだろう。

大日本帝国の慰安婦には、戦勝国でも敗戦国でもないいわゆる第三国の台湾人中国人朝鮮人の他に、大東亜圏外のオランダ人もいたという。

だが朝鮮半島で20万人も女性が慰安婦にされるために、軍隊に連れ去られたとするのは、あきらかにウソだろう。この数字と日本人女性が大多数を重ね合わせると、十五年間に概算で百万人以上は従軍慰安婦がいたことになる。日本人だけで八十万万人ぐらいの慰安婦、国内の娼婦を世代交代して全員集めても、その数は少し無理がある気がする。（20万人の慰安婦なら20万人の朝鮮人兵を確保できるぞ）

このようにデマゴギーは良くない。

ところが新左翼の人たちだけ、こういうデマゴギーをしているわけではない。

「沖縄の米軍基地の地権者は東京の六本木ヒルズに住んでいる」とか、右寄りからゴーストライティングしてそんな人かな？　そういうことを言っていた気がするけど、六本木ヒルズは屋上付近の美術館と地上付近のレストランなどがある商業施設の間の階には、オフィスフロアがあるだけである。

居住フロアはそもそも無い。

いわゆる億ションと呼ばれるようなモノは無いのだ。

仮に六本木ヒルズに住んでいるとしたら、会社内で働きづめている人のことではないか？ それはワーカホリックであって、地権者でお金持ちで豪勢に楽しんで暮らしているという意味にはならないのでは？

こんなデマゴギーをしたら、それはダメだろう。

ただ、交戦状態になるとデマゴギー・欺瞞工作は戦争当事国間で、あって当然だ。だが、有事ではない平時で欺瞞工作をするのは、戦端を開くために行っているという動機がなければ不自然だ。（これを進めると仮想敵国として日本への欺瞞工作をしているから戦争をしたいと）

他にも、フィクションがデマゴギーのようになってしまう問題がある。表現規制があって刀で斬っても血が飛ばない、成人女性が鉄漿（おはぐろ）をしないのは近代的美意識に合わないなどの問題は昔からあったが、歴史上の人物が観光資源となると、歴史認識問題とほぼ同じことが起こる。

皆が評価している坂本竜馬像はフィクションで流通されていることであって、歴史資料的に見れば、薩摩のお使いをしただけで、薩長同盟の立役者と結論付けられない。近年の歴史研究では、単に薩摩に頼まれて桂小五郎と面識があったために、使者として送られただけである。薩長同盟をやりどけて「日本の夜明けぜよ」なんて、フィクションの中でしか言っていない。幕末のフェイクヒストリーのひとつだろう。

しかし、桂浜に銅像を建て、観光客が訪れるようになると、掛け値なしの評価をするのが難しくなる。堀江憲一郎さんも「バイプレイヤーに過ぎなかった人物に光をあてているぞ」と『竜馬がいく』が始まった頃の印象を語っているが、当時はその程度の評価だった。

明治維新を生き残り元勳になれなかった人は、その程度だろう。

西原理恵子が「坂本竜馬はテロリスト」だと高知県知事の前で言ったが、それはそうだろう。松下村塾で松陰から「力づくでも目的をやり遂げよう」と教えられた塾生たちが主要な重職を得始めた長州に武器供与したら、それはテロリストと呼ばれても仕方ないだろう。

実際は倒幕勢力を拡大させるために、薩摩が近代兵器を得られない状況（禁門の変以後）の長州に海援隊・亀山社中等をスキームとして武器供与をしていたらしい。これは私よりも、これを読まれる歴史に詳しい読者の方が詳しい。

したがって、テロリストに加担するのはテロリストの論理で言えば、西原の発言は至極ごもつともなのであるが、フェイクヒストリーを信じる高知県知事は、西原に「この歴史修正主義者め！」とたたかっただろう。睨んだだけですましたらしいが、かなり大人な反応と高評価しておこう。

竜馬は面白い好人物であり、史実を踏まえた上でフィクションを楽しむというのが、嗜みとしての適切だろう（というよりも全ての歴史を元にしたフィクションの登場人物にイえる）。そこ

を史実とフィクションを混同するとまずい。

ところがそれを指摘すると、竜馬好きはいい顔をしない。「サイバラを睨む」ようなことをする。

大河ドラマ『龍馬伝』で江戸であった懐中時計盗難事件を土佐であったと話に作り変えていても、別にいい。問題は視聴者が「話を面白くするためにしているよね」とわかっていればいい。もしかしたら、本当に土佐で懐中時計盗難事件があったと、思い込む人が出てくると大変で、高知に行って窃盗者がこの店で時計を換金したとか、現実にやりはじめると、まずい。観光客が呼べるから地元の人が、それでもいいかと、偽の店を建てるとかやりはじめると、なおまずい。

これがさらに時間が経つと、江戸であったことを土佐にしていると指摘すると、「歴史修正主義」と言われてしまうかもしれない。本当にあの懐中時計盗難事件が土佐であった事件と思ひ込む人が現れると、このフェイクヒストリーが成立してしまう。

織田信長の長篠合戦で行われたという、鉄砲三段撃ちは江戸時代に戦国軍記モノの話を面白くしようとして作ったモノらしい。武蔵の吉岡一門との一対多勢対決も、話を面白くしようとしたらしい。こういう、話を面白くしようとして出来てしまったフェイクヒストリーは、罪が無いだけに解決してもしょうがない。解決させて観光資源を目減りさせるだけというのも、こんな言葉は無いが「真をとって、損した」ような気分になる。

ただ、戦勝国にとって都合のいい歴史観に、歴史資料から見て異を唱えるのは、「歴史修正主義」と言われてしまう。東京裁判史観などの戦勝国が作った、ひいては国家が作ったフェイクヒストリーは、酷い影響を及ぼす。

さすがに嘘はダメだろうと、批判することすら歴史修正主義として封殺しようするのは、やはり違うだろう。

繰り返すが、そもそも歴史学とは新資料が見つかって、古い資料との突合せで修正していくものである。それによって、今まで伝わっていることと、食い違うこともあるが、資料の精度からみて真となることを導き出す、そういう学問だ。歴史学において、歴史修正主義とは当たり前である。

なんというか、言いたいことはわかる。近代国家で近代軍なら当たり前になっていることを、日本だけはダメと言う、日本排外主義である。アメリカ例外主義も大いに問題があり、枯葉剤は化学兵器の一種じゃないのかなど思ったりするが、日本排外主義もよくないよね。

ただ、これは自戒でもある。

人的に労力を払って、事実誤認を消していく、チェック、ダブルチェックもできればしたい。残念だが、それは予算的に難しい。金銭的に資料を揃えるのも難しい。（最近微々たる収入があっただけでなくてはならない可能性が出てきた）

ウェブ2.0を期待して、コメントで誤りを指摘されたら直そうという、スタンスを取ってみたが、本当にコメントが無い。そうすると、海に投げ捨てた網が魚を捕らえてしまうような、意図せぬデマが広がる。

前述した橋本五郎が吉田証言を信じているというのは、朝日新聞の謝罪前にそういうことを彼

は言っていないだろう。吉田証言を信じたというより韓国を主にするアジア女性の従軍慰安婦の証言を信じていたというのが、真相である。それを誰も指摘しなかった。繰り返すが、慰安婦の発言が本当かは裏づけ調査が必要である。読売新聞の解説委員だから生贄、話のタネにただけである。

この間も、佐村河内のことを誤って「全盲」と書いてしまい、「全聾」に書き直した。ホラやウソはちゃんとわかるように書き、デマゴギーにならないようにしなくてはいけないのに、この場合本当に誤りである。

私の作る電子書籍はチェックミス、ずさんな下読み、そういうものが総じて記事になっている。なかなか時間が無くて、調べられなかったり、資料調査に使えるお金が無くて、そもそも調べられないなど、環境が悪い。

後からわかったので、それを修正すると、やはり敵対勢力から「歴史修正主義」として批難されるのだろうなあ。

紙武部が3ヶ月前 (277)

水
火
土
金
木

光輝!

サド
2人ホト 佐渡 高橋

楽しみの先輩達の
ハイスクール生活

五十嵐 ジョーラム 校長

(専攻学科 関原 哲学)

親子の情緒を校内に
住まわせよう (怪の村で)

新任女教師

ジジ子 - 又

黒田 ~~ジジ子 - 又~~

かた4cc
アム
アム
アム



愛

16人のハイスクール生
少年少女がエロ学を修めよう

免教師

愛にしたい

伊達
24?

黒木 ジジ子 リエット

娘
2リリエット

娘
娘後...

シレハスの子供

【連載終了まで】
16人の
生徒の生活
は?

16人のハイスクール生

校長の手びより

ムリナリ

一流
エロ学
ハイスクール

士としての経済性
ニが学校がそれか
目

シシ子
シシ子



放蕩高校

Y. 1526? 0. 0. 0. 0.
ジジ子 つてお出?
お出 要注意

山本 パンジー (化学教師)

土曜の中心
お出 注意



エロ学
アムアム
エロ学 楽しん
アムアム

衛星写真
よく見えた

不道徳育の見本

正義
SHOWER
BYROC
ガガ
両
アムアム

この月
アムアム
アムアム



高校野球は早内2強

アムアム 産部

お出 注意
「ソドム野球」

新人が夏の大会まで

因に月岡のミツ特別と

「ソドム百二十日」とアムアム

I ♥
SADE

(新) 編入生のアムアム

「25日 産部」

<産部 産部>

「産部 産部」
25日 産部

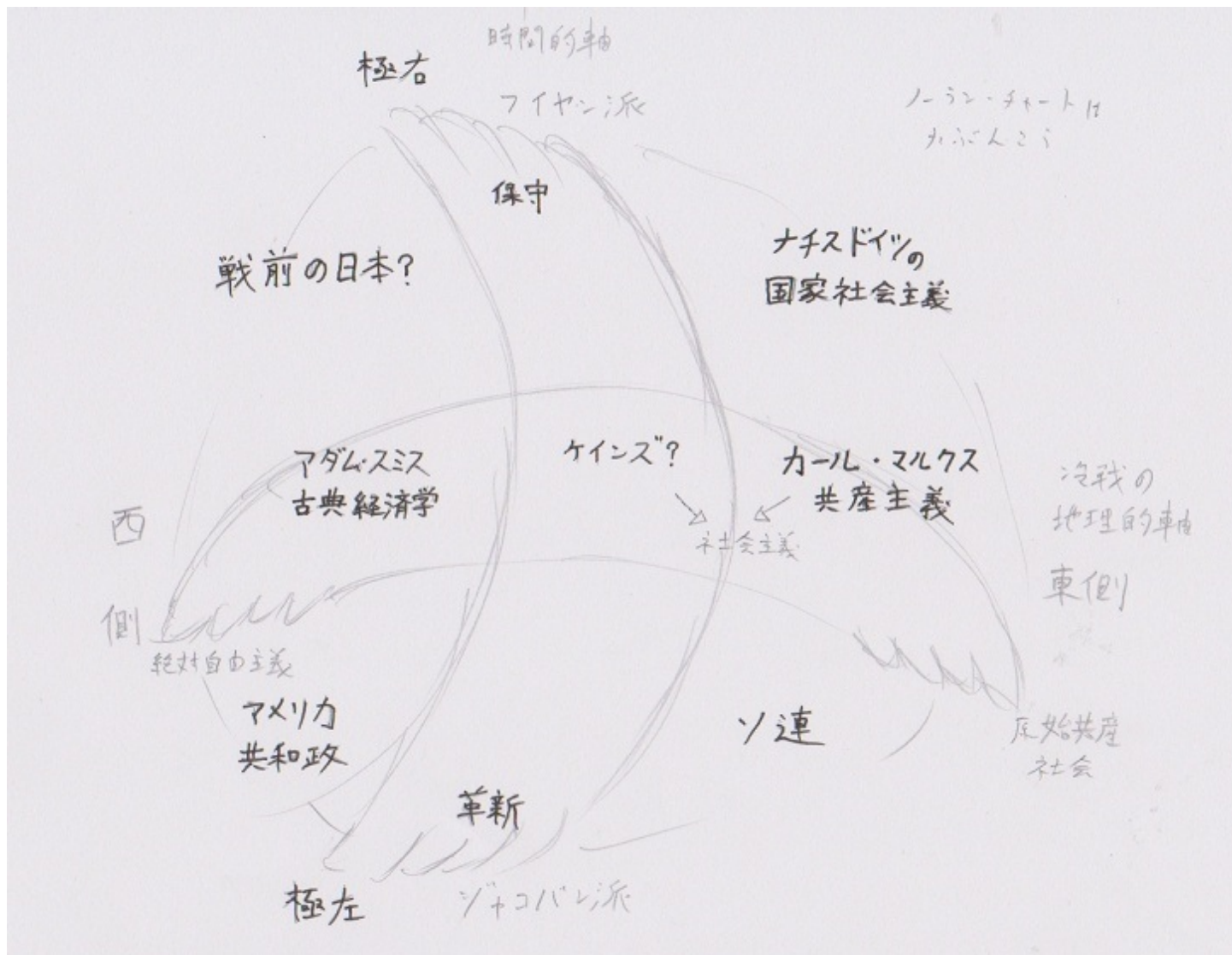
全部
世界村の産部のマム

ミヤテツの「週刊文春」の連載と三橋貴明の「アサヒ芸能」の連載、まったく違う方向に経済政策を評価している。単純に新自由主義を肯定的に扱うか、否定的に捕らえるかという、超わかりやすい対立軸がある。もう「たけしのTVタックル」で討論するしかない。結論なんか出ず、討論して互いを罵りあうだけで終わってほしい。（…あんまりな無責任発言である）

両連載を読み比べているのは私ぐらいで、日本で経済学者以外では一万人もいないだろう。そもそも、経済本はこの世に多く、私よりもこれを読まれる読者の方々の方がよっぽど経済学に詳しい。

これから書くことは啓蒙のためにやるんじゃなくて、「自分はここまで考えました」という、レポートである。（ちゃんとした批評を書こうとすると、完成しなくなっちゃう）

それでも、経済学で語れることがあるとすれば、自由市場主義の右翼と社会主義・共産主義の左翼が、経済学的な両翼になっているらしい。そして、国粋で保守的な右翼と国際的で革新的な左翼の両翼が、政治体制としての両翼になっている。こういう国家観と経済思想で縦と横の翼がどうもあり、ノーランさんが作ったチャートがある。そのノーランチャートのような図解図を出してみよう。だが言うておくと、実際のノーランチャートにあたった方がわかりやすい。情報も正確。



このチャートは、個人が集めてきた資料を元になんとか「やっつけている」チャートに過ぎ

ない。当然、集団作業で高めた正確性、研究所で調べた信用度が無い。もうしわけないが、通信費用や電力ぐらいのコストだけで手に入る情報は、この程度である。もうちょっとお金があればいいのだが、資料購入費はバカにならないので。

たとえば、チャートではアメリカ共和政となっているが、近代共和国と古代ローマの共和政国家時代を分けて伝えるために、共和制にした方が正しいと思う。しかし、まったく古代ローマ帝国とアメリカの共和制が関係ないかといったら、そうではない。これは本項の主旨ではないので、読者に答えをあずける。（逆、だったかな？）

けして、騙しているわけではない。そんなに正しいチャートが必要なら、人に頼らず自分で作るべきだ。その場合コストとして一万円は下らない。時間的な無償労働は自給的にいくらになるだろう？

まくらが終わったところで、皆さんご存知、マックス・ウェーバーとヴェルナー・ゾンバルトの話をしよう。

ともにドイツ人で経済学に与えた功績は大きい（あれ？ ウェーバーはオーストリア人では？）。片方はまあ、ご存知のように晩節を汚したということになっている。

ウェーバーは蓄財者のこと、EUで言えばドイツの事を語ったと考えられる。

ゾンバルトは消費者のこと、EUで言えばギリシャの事を語ったと思える。

この両者がいることで、近代的資本主義が成立していくという話である。

現代のEUではドイツ人が作ったポルシェをギリシャ人が買う。ポルシェを作って売った金を蓄財し、働いて貯めた金でポルシェを買って消費する。需要と供給の関係が別々の国である。ドイツ人がポルシェを作るのは生産だからわかるだろうが、なんでギリシャ人はポルシェを買うのか、普通わからない。それはどうやら、女性にモテたくて見栄を張って買っているらしい。少し汚いデータを出さなくちゃならないが、それは出さずにラテン的な気質として、彼らはモテたくてポルシェを買い、恋愛に勤しむという前提で話を進める。（この辺りのデータはある製品の会社が調べたことによると一位がギリシャ等がある。ただ本当に信憑性があるのか疑いがある）

いまさらマックス・ウェーバーの話はしないが、ゾンバルトは手に入れた貴族の帳簿から、貴族たちは『椿姫』に出てくるような高級娼婦にモテたくて、海外からの珍奇なものや奢侈品などを買って与えている、つまり消費をしていると気づく。

マルグリットは貴族たちとの擬似恋愛を商売として、やっている。要するに、アルマン君は花魁に大店の番頭あたりが入れ上げるみたいなことをしている。歌舞伎の心中物ではないが、これはやきもきするのが当然である。（このあたりの経済問題は実際に『椿姫』を観るべし）

貴族たちはそうして、高級娼婦のために物を買うので、消費経済が生まれる。市場が出来て、近代的な資本主義の片方を準備する。

単純にウェーバーの考えと総合して、勤勉な労働者が蓄財者になり、恋愛に勤しむ消費者が投資された産業の商品を買うという構図になる。

ここらへん、実は議論がある。貴族は元々蓄財者であるから消費が可能であるから、労働者が蓄財者になれたのは一部に過ぎないなどの、本当に資本主義（の準備段階）が成り立っていたのか、高い精度の資料を私は見ていない。

二百年間のデータを調べたというピケティの分析では労働者は蓄財者になれず格差は広がっていく方向にずっと進んでいるとされる。そうした反論があるのである。ピケティの主張は、彼と

同じ二百年間のデータを調べ抜かないといけないなどの、仮にデータがあっても解析するのはなんらかの経済研究所にでも務めていないと時間的にも、環境的にもムリだ。また偏った見方をしないようにしようとしても、これがなかなか実現するのも、経産省や文科省だとかの影響を受けて、「行政が求める方向に結論を出す」ように仕向けられてしまう。

辛気臭い話になったので、ウェーバーのおさらいでもしよう。

なんで労働者が勤勉に賃金を貯めて投資に回すというと、プロテスタント系カルヴァン派の宗教理念であり、何故貴族が娼婦たちにモテようとして消費するのかということ、社交的な意味もあるが、もしかしたらキリスト教的な考え方を否定するリベラル思想（この場合リベルタンなもの）が放蕩を促したのかもしれない。放蕩哲学とは空想の産物ではなく、それに近い考え方を実践していたらしい。

現存するサドの本で、名前が消されている人物は、どうも貴族の実名が入っていて、勝手に自分の放蕩を描かれているから、サドは著作を出版禁止にされたらしいと、当時の状況は想像できるが、仮説に過ぎず裏づけは無い。

噂に尾ひれがついたものでも、高級娼婦との擬似恋愛を嗜む貴族の元ネタは、あったことはあったらしいとしか、言えない。そこにさらにサド流のフィクションが上乘せされて、リベルタンといえる放蕩恋愛、十戒を破る化学者などが登場するのである。

放蕩と破戒の百科全書にはそういう裏事情があるのか、こうしたことに関して、今回資料的な裏づけは、取れない。本批評にはそうした瑕疵があると、留めてほしい。（一応、サドは百科全書派に連なるとする説もある）

ゾンバルトさんはご存知の通り、晩年にナチスドイツに参閣した等の理由で、経済学としては闇に葬られている。だが、ナチスドイツは大一次大戦後の極貧からドイツを立ち直らせたところから、ゾンバルトの経済思想が役に立った部分もあったかもしれない。

ある場合、かなり厄介である。ナチスドイツが行った経済政策はやりたくても、「ファシズムを礼賛するのか」と、言われてしまう。独語でアウトバーンとなる高速道路を作るぐらいの公共投資のような、どこの国もやっていることしかできない。

これはゾンバルト的というよりケインズ的で、乗数効果は期待できるが、日本のような少子化の国だと、経済波及効果が減衰していくので、経済政策としては国庫に赤字をもたらすことになる。

ヨーロッパの近代資本主義は、ウェーバーの考えとゾンバルトの考えで説明が付くと、定説では信じていい。

実は近世的な資本主義も同様ではないかというのが、本題である。

当時の江戸時代でも、近世的資本主義といえる蓄財者、蓄財思想がある。さらにそれは消費者、消費思想と両立していると考えられる。

大乘仏教系の真宗がプロテスタント系カルヴァン派で、江戸っ子の気質「宵越しの金はもたねえ」がローマ・カソリックに対応するのではないのか？

大乘仏教＝万人祭司主義、浄土真宗系が必要条件を満たそうとするのはプロテスタント系に考え方が近いということだ。

密教や禅宗が十分条件で、これらの小乗仏教は天国に行ける者はあらかじめ決まっているカソリックの考え方に近い。わかりやすく違いを明確にして話を進めるが、細かいところは合わないかも知れない。顕教は本当に大乘仏教なのか、

“いわんや悪人もや”こと悪人であっても往生できるというのは、他力本願思想のようで、必要条件を満たそうとさせる、信者へのプロパガンダと考えればいいのではないだろうか？

そうすると、カルヴァン派と同じく勤勉に働く信者が、この場合真宗檀家が現れる。彼らが蓄財者となっていったのは、江戸に消費地があるからである。

では、消費者はというと、江戸の町民は女性と仲良く、とくに吉原の女性と仲良くなって恋愛することを求めた。

これは輸入物の恋愛ではなく、正確には色恋だ。現代で言えばギリシャ人だ。

これはゾンハルトの考え方、貴族が女性を口説こうとして、いろいろ消費したことに一致する。町民だけでなく、江戸詰めの侍たちも遊女たちにいろいろしていただろう。ラブレターのための代筆業や珍しいカンザシを貢ぐなど、消費が生まれるのだ。

彼らのやり取りは擬似恋愛と言われるが、色恋として定めるのが歴史的に正しいだろう。

江戸市中の男女差がもたらした色恋消費経済である。

花魁よりもランクが低い遊女というのは、あながち間違った言葉ではない。恋を伴わない色だけなら、夜鷹という現在の言葉でも使われなくなりつつ“立ちんぼ”がいた。

さて、江戸っ子のこのような気質は、どこから来たのだろうか。

前述したギリシャの場合、ギリシャ正教が下部構造にあるのではなく、古典的プラトン主義やラテン系の放埒なところが個人個人の生き方、さらに放漫な国家運営にもなっているようだ。この点で現在の日本にも同じことがいえるのでは？

刹那主義的な彼ら江戸っ子は、どこからその精神が来たのだろうか。

支配層でもなく、死亡率が高いと、明日のことを考えない消費ができるのだろうか？ 江戸っ子の気質はリベルタンなのか、男娼の意味の野郎などの同性愛もあり、ギリシャ的なのである。

南国や地中海気候では、どうしても、ラテン系の血が騒ぐのか、恋愛に勤しむようだが、江戸時代は寒冷期で、ラテン的な気候による気質ではない。

浮世絵はあまりにも裸の描写が多いから、欧州の画家たちは日本を熱帯と誤解したのだが、夏は暑くなるので、仕方ない。緯度的にはギリシャに近いので、相似形ではある。

貴族たちの場合、リベルタンの放蕩哲学ではないとしたら、政略婚があるから恋愛は人妻への不倫の場合もあるが、基本的に高級娼婦と恋愛関係を楽しむのが、ヨーロッパの貴族社会だったのである。生まれた時から閨閥間闘争を避けるために許婚がいる階級社会では、決められた相手以外と恋愛をすることになる。

この高級娼婦が、日本で言えば花魁に当たると考えれば、貴族にあたる江戸詰めの大名や家老

、そして豪商などが相手である。つまりヨーロッパと日本の蓄財者の消費が相似形的なのだ。色恋と恋愛は若干角度が違うから合同ではない。あるいは地理的緯度が同じでも、辺の長さが違う。

蓄財者は江戸の商人だけでなく、信州の長者が資産家といえるほど蓄財があり、もちろん真宗系だ。そもそも、侍に金を貸せるほどの蓄財をしている。はじめから富があるから近世的資本家になれた…労働者が蓄財者になったわけではないようだ。

蓄財者と消費者の格差があらかじめあって、その差はひらくばかりのようだ。

ただ、店を開いて、後に豪商になっていく者もいれば、その日暮しをしている人（こちらが大多数）もいる。

予測はついたけれど、実際に調べてみるとずいぶん実質と違う、離れているのではないか？
ゾンバルトの貴族の帳簿を再調査してみると

ラテン気質で楽しんで働いていた印象のギリシャ人は、ギリシャ危機以後は長時間労働で、公務員も人員整理されている。ブラックマーケットの存在があって、税が取れなかったとされるが、それも税金を徴収するために、規模が縮小していきだろう。この闇市場が、ポルシェを買える資金源となっていたらしいが。

さて、若者が恋愛しないことで文句を言うことがあるとすれば、それにまつわる消費をしないことに、不満がある。消費されることで、所得の向上や事業の成功などの経済的理由が隠されていないだろうか。

まあ、お年寄りの若者批判だと思って、軽く受け流すのがよろしい。

現在のサトリ世代だろうと、親にヨットを買ってもらって放埒だった太陽族だろうと、若い世代には文句が言いたいお年寄りはいつの時代にもいるのである。

世代間の蓄財者と消費者では、たとえ太陽族が浪費とも思える消費をしたとしても、バブルで退廃的な消費をしても、それによって蓄財者が利益を得たとしても、老人だと若者に眉をひそめるのである。これでは無いものねだりだ。

しかし、その欲望もまた消費に繋がるなら、経済を良くする。

経済って、本当に不思議だね。

これを絵日記風に

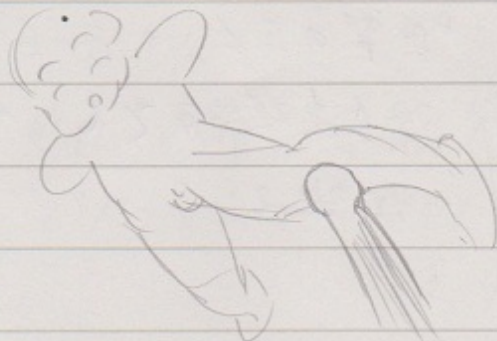


ジョジョの奇妙な冒険

24. ダスト クエスト2

面白った

面白かった



実は『ユリ熊嵐』のことを書くのは、筆が重い。

答えがだいたいわかっているからだ。

熊とは、フレイザーの『金枝篇』で書かれていることに触れるとか、民俗学的な問題、文化人類学的な問題、そして女性学的な問題が語れるが、それは碩学の人間が担当すべきである。

民俗学的なことは易姓革命の正当性を確保するために、王殺しをした者が王になれるとか、その起源は熊であることは『カイエ・ソバージュII 熊から王へ』ということで、もうそちらを読んでもらうのが一番である。私よりも中沢新一の講義を書籍に書き起こしたもののの方が理解できるだろう。

そういうことがわかった上で自分に何が書けるか。本来は稿料が無いとこの件については書かない。稿料が出なくて書くことだから、資料的には問題があり、それは致し方ない。

元ネタぐらいは、いくつかわかる。

みるん王子の話は、マルケスの短編「無垢なエレンディアと無情な祖母の信じがたい悲惨の物語」でおばあちゃんを殺そうとしたエレンディアの話である。

ヒトリカブトとは、『流れ星銀』に出てきた凶悪熊赤カブトのことで、それで銀子らしい。

その銀つながりで、川原泉の中篇『銀のロマンティック・・・わはは』にて、フィギュアスケートのルール説明時のナレーションに、語尾に“がるる”と付けるものがある。

さらに月の娘となると、アニメ映画『かぐや姫の物語』のかぐや姫そのものを直喩していると思うだろう（幼児パートが森の娘で都に住むようになったのが月の娘）。高畑勲監督のディズニーが作ったプリンセスアニメへの反感、アンチプリンセスアニメであり、さらにアンチでもなくディズニーに戻るわけではない第三のプリンセスアニメが高畑さんの弟子筋にあたる片淵監督の『アリーテ姫』である。このあたりの話はディズニーアニメまでは故人となられた若桑みどりさんの新書『お姫様とジェンダー』に詳しい。

それから、中村明日美子に原作を提供した『ノケモノの花嫁』も、「プレユリ熊嵐」として重要と思われる。（中身は幾原版「美女と野獣」であろうか）

さて「ユリ」「熊」「嵐」とはなんなのか。

意味深な言葉である。

そのことは、触れておかないと、まずい。

いろいろと、いろいろ。

根菜としての百合根か、ベアハッグ、裏読み深読みの嵐。

ベアフラッシュでめくらましもできたと思うが、今回はそれがちょっとできない。

ひとつひとつ、解説といえるか、誤読もないわけではないが、それも含めて語っていきこう。それから別に「答えがわかっている」と書いても、「確実な正解」ではない。作品のモチーフを読み解けない人向けの、解説に必要なキーの在り処を示す程度だろう。

ユリとはリベルタン・リベルティーナであろう。

一神教的な同性愛の排斥を自由（リベラル）な考え方の持ち主である者は、その宗教戒律由来

の束縛から逃れようとする。それがキリスト教圏だと、プラトン主義で同性愛を認める、反キリスト教的反権力な人物、アナキズムに近いのがリベルタンだ。十戒にある「汝、姦淫するなかれ」と意識されているのが、原文では同性愛や獣姦を禁止している宗教戒律に反するから、排除してもいい、というのが「排除の儀」かもしれない。この戒律に反することを意図的にする人たちのことをリベルタンと呼ぶ。

つまり、対抗文化の体现者のことで、絶対自由主義者のリバタリアンじゃない。結果的に同じ事を表現することはあっても同一ではない。同じ山の頂に登りついても、登ってきた山道が違う。同じ景色を見てきたわけじゃないから、話が合わない。

リベルタンというのは男性名、そして女性名リベルティーナであり、ほぼ登場人物が女性で構成される『ユリ熊嵐』では、リベルティーナのみをさす。（言語学的には男性名詞、女性名詞）

男性の同性愛者向け雑誌「薔薇族」の女性同性愛者の投稿欄「百合族」の百合が今日のユリをさす。ちなみにユリは性交をいたさない山百合会的女性同性愛で、レズビアンが性交をとまなう女性同性愛者とされる。（ホモも狭義的には少年愛をする青年中年の同性愛者のことを言うためロリコンと同様の侮蔑語として扱おうとされる）

だから、作中の熊が性交をとまなう同性愛者のレズとして表現されているかのようにも見える。

人を「捕食する」のと、同性と「性交する」のはニアイコール（≒）だが、熊に象徴化すれば、イコール（=）になる。

その熊は『進撃の巨人』の巨人を熊に代入したものかと思われる。

何かを象徴しているのである。

神話学的には、答えが出ている。

結論から言えば、熊と巨人は互いに代入可能なものだ。民族神話に見られる巨人とは、熊を起源とする。その熊を民族の先祖が倒して、森を拓いて王権を築いた。神話の中では神々の一族が巨人たちと戦争して勝ったとされる。

古代期という歴史の上では、森を拓かないと農業革命ができないため、森の統治者である熊を倒して、土地や林材や鉱物のある森を手に入れなくてはならなかった。そこに文明が生まれるが、北欧神話のように終末論が語られる場合、その森の開拓が結果としてうまくいかなかったなんらかの原因が隠されている。

要するに熊を倒した先祖がモデルと思われる神から「王権神授」されて、現在の王様は国の正統な統治者であるとされるのが、民族神話なのである。『金枝篇』に収録された挿話は、この神話にハッキングをかけると「熊を倒した者が王になれる」が「王を倒した者が王になれる」という易姓革命思想に発展していく。

これは日本神話では天孫降臨という「王権神授」がありながら、易姓革命思想が生まれなかったなどの議論があることで、それは神話学と民族学の問題であり、比較神話論で提示されたテーマだ。

とりあえず、熊とは巨人であり、王でもある。

ルルちゃんが熊の世界の王女であるというのは、示唆として十分であろう。

ところが、熊は巨人に代替できるなら、なんでも象徴としてあてはめることができる。『進撃の巨人』の作者の発言にて、「巨人は何かのメタファーではない」のなら、逆にメタファーとしてなんでも代入することが可能である。

女性の立場だけでなく、熊を左翼の象徴として見ることもでき、逆に民族主義や国家主義に置換もでき、「彼ら（熊）はそういうもの」というたとえとして異を唱えることを断絶されたと、表現できなくもない。

これは自分たちがヒトであり、敵対者が熊であると思ったら、自分たち自身が熊であり、敵対者がヒトであるというパラドックスが、隠されてもいる。

こうなっていくと、学術的に深いところまで語ることになりそうなので、次に移ろう。

嵐とはわかりやすくいじめだろう。透明な嵐とされるものである。

「レッツ・サーチ・イービル」はサイバーブリーを様式化したものだ。

作中、たとえではなく気象現象としての嵐が来て、百合花壇を守るシーンがある。気象現象とクラス内のいじめが、相乗的に表現されている。物理的な嵐と表象的な嵐で、二人の友情が深まる。

もうひとつ、エミリ・ブロンテの『嵐が丘』から取られた嵐が丘学園を舞台として、親世代・子世代の因縁があり、嵐が丘のヒースクリフのような人物が当然いる。この嵐もある。

この嵐を生み出しているのが、意外にもアイヌの民俗的表現となっている。小熊がイヨマンテのように育てられ、やがて成熊となり、ヒースクリフのように欲望のまま動く「新・嵐が丘」の歌詞にある“奪うことだけが目的”である人物となる。

育ての親の「彼」が擬似的なイヨマンテの儀式をしようとして、“うつくしいもの”にしようとしたピグマリオン・コンプレックスのエピソードが挿入される。これは熊送りの儀式をして断絶の壁の向こうに帰す“手続き”をするのが、常道だろう。このようなちゃんとした儀式を行わないと、どうなるかということ、自然災害が化けた人災——嵐が起こる（あるいは人災が化けた災い）。『精霊の守り人』では、精霊の卵を返さないと、嵐の逆である大干ばつが起こる。

物語上では、嵐の反転、反嵐がドラマの起伏が無いモノ、そういうジャンルとは空気系日常マンガ、それを原作とするアニメが嵐の無い、気圧差が無い物だと規定できる。

わかりやすい差として、空気系日常アニメは一話完結的に終わり、太平洋高気圧でほんわかしてくるんで終いにしているのに対し、『ユリ熊嵐』は嵐の前触れのような引きが各話の終わりにある。さらに「ユリクマ」「ユリクマ」と繰り返りリフレインするスキットのよう、あえて「嵐」を言わないことで、次に嵐が来る予感をさせる演出。線として起伏に富んでいる。空気系日常アニメは線じゃなく点であるから、エピソードは点在されている。『のんのんびよりりぴーと』では、その点と点の間にさらに点を打つことができると証明している。

時間軸通りではなく、順不同で物語を叙述するのも、物語に起伏を作っている。

気圧差や気圧の谷間を作り出している。

ただ、このようにおおまかに、何かをあてはめていくと、ところどころ綻びが出てくる。ひとつひとつのピースは合うが、全体としては合わなくなる。表題のユリと熊と嵐に、適当にあてはめたモチーフが正しいとは言い切れない。他の固有名詞と微妙にズレていると気づく。ある程度

ジグソーパズルを組み立てると、ひとつふたつピースがはまらなくなるような、不整合を感じる。

断絶の壁とは換愈的なガラスの天井のことだと思われる。

ガラスの天井をいちいち説明しないが、その表象として天井の代りに階段がある。シンデレラのガラスの靴や王子様との楽しい時間が終わり、時間厳守を守って帰宅するために階段を駆け降りる、モチーフだろう。

門限がモチーフとなるのが、ともだちの扉で、ほとんどの少女は友人との交流で門限を破ることになる。男性との逢瀬で門限を破ると思うのは、男親の心配である。

さて、登場人物たちは断絶の壁からの「挑戦」を受ける。

断絶のコートにて執り行われるユリ裁判において、キャリアを選ぶか、結婚を選ぶかを男性のクマに問われるシーンが、毎回のクライマックスとして描かれる。

急ぎすぎたが、百合ヶ咲るるが、

「私はスキをあきらめない。キスをあきらめる」

とは、“キャリアを選び、結婚を選ばない”という宣言と受け取れる。

ユリーカがやはり「取引」と言えることをしている。そして作中では語られていないが百合園蜜子も百合川このみも、この「取引」をした（作中では明かされていないが設定ではあるだろう）から、人間に化けることができている。

キャリアを選べば、選ばなかった側と生涯賃金で所得格差二億円も差が出る（女女格差）といわれ、それをヴィクトリーモードと呼ぶのは、あながち間違いではない気がする。

「あなたは透明になりますか？ それともヒトを食べますか？」

とは、透明＝ガラスならば、ガラスの天井のシステムに組み込まれる。結託することによって、自分の立場を得る保身ともいえる。

そして、私が筆が重くなる一因、ヒト＝出生率と考えていることも、語らないといけない。女性が社会進出していけば、していくほど出生率が減っていくことの隠喩として、「ヒトを食べるように出生率を減らす」ことでヴィクトリーモードになる。勝ち犬負け犬論争で、「負けるが勝ち」でキャリア女性は「負けました」「あー負けました」と、この論点を無化しようとしたが、あまりうまくいっていなかったようだった。

そこは女性の場合、中村うさぎの書いてきた著作にあるが、「女性はキャリアが高くてもモテるわけじゃない」というミもフタもない事実がある。

王権の非嫡子である男権が、農業革命以後何千年もかけて、男性がキャリアと結婚を両立するシステムを築いていた。長年、男本社会、男性本位社会に強化を図っていたのだ。そのシステムからのマインドコントロールが童話効果によっての刷り込み、女の子向け童話によって、女兒を教化する。

それがあるから、断絶のコートにあるユリ裁判があり、かなり単純化したたとえだと脳内会議のようなものだ。つまり、外に男権があるのではなく、女性の内面の中に男性たちがいる。童話の読み聞かせによって男権が内面に移植されている教化の表れだ。

彼らは「魅力的に生きろ」「冷静に生きろ」「美しく生きろ」を擬人化された存在ではないか

？ 単純に女性への抑圧である。男性社会で教化された女性の役割、魅力的な恋を望むことであり、冷静な経済観念があること、美しく着飾ることなのだろう。

性別反転した男性の場合「強く」「熱く」「逞しく」生きると、女性からそういう男性像を求められているとも、いえなくも無い。

キャリアと結婚の話に繋がるか、わかりやすくスポーツヒーローは、このイメージを持たれるが、彼らがキャリアアップしていけば、一応女性にモテる方向に向かっていく。それはマスメディアの時代以降、彼らを賞賛してくれるからだだろう。プロの世界でスターとなった彼らが、たとえ学生時代の部活動内でどれほど後輩に体罰という暴力を施していても、だ。

たいして女性は作家として成功しても、若くて見かけの良い男性と付き合えるわけではない。中村うさぎはそれに気づき、華美な召し物を買えば、美容整形を繰り返して、美しく着飾ることをやめず、その紆余曲折の果てに聖なる同性愛者といえる伴侶を得る。（その彼が読んでいたゲイ雑誌にマツコ・デラックスが記事を書いていたのは、また別の話だ）

脳内会議で「取引」をして、承認を得ないと人間になれない……これは小林よしのりが言う「女性天皇を認めない女性は、名誉男性になりたい（要約）」と同じでは？ 男権主義からの「承認」を得なければ女性は天皇になれず、そのためには「取引」をしなくてはならない。第一子に男子が生まれれば自動的に皇位継承権を得るようではなく、皇位を得るために犠牲にするものがあるということだ。

私は昭和天皇が人間宣言した以上、女性も人間だから天皇陛下になれるというフェミニズムよりの考え（伝統破壊思想）を持っていたから、女性天皇を認めるが、これは筆が重い。

実はるる姫とみるん王子のエピソードは放送視聴当時、愛子さまと悠仁さまの関係にそのままぞらえることができちゃう。これは「エレンディア」の物語だと思おうと、自分自身をミスリードしようとした。

「これは『エレンディア』の物語」ということで通過しようとしたが、もうムリだ。避けて通れない。そして、「キャリアを選ばず、結婚を選んだ」雅子殿下の悲劇を知っている身としては、安易にプリンセスストーリーの童話を女の子に読み聞かせすることが、如何に無責任で恐ろしい結果を招くことも、無視できなくなる。

一般男性の対応としてはこういう問題を茶化して、そういうことに気づかれないようにしておく。予防線を張る、防衛策を練り、自分が「女性を抑圧していない」「女性を蔑視していない」というやましが無いようにする。

それは見えない、透明ではないか。

透明という言葉はこのように示唆的である。

少しズレるが、酒鬼薔薇事件の犯人の著作が出版され巷を騒がしているが、当時の元少年Aが犯行声明に書いたことばが、透明な存在である。

この件も触れないと、いけなくなるので、筆がさらに重くなる。

そうしたことは、今回は控える。

回避しなくてはいけないだろう。

嵐とは気圧差のあることだと規定したが、透明な嵐とは何だろう？ 撞着語な気圧差の無い嵐か？

作中では、排除の儀を行う教室でのいじめだが、一応はホモフォビア（同性愛嫌悪）から来る粛清を意味している。

嵐を除いて、透明だけなら前述したようにガラスの天井に接続し、その嵐だとしたら軌轢が出来る。つまり、嵐の外と内を隔てる透明なガラスで打ち破ることでは、敵わなかったのだ。

ガラスの天井に立ち向かうとき、その敵は男性ではなく、男性社会によって教化された女性であることのメタファーが排除の儀だろう。魔女と姫は女性学的には、世代が違う女性同士が争うように仕向けられた比喻だが、透明な嵐の場合、同世代の女性同士が争うように仕向けられているように見える。

排除すれば、それによって男性社会から、承認される。王子様から認めてもらえる幻想を植えつけられる。そうして女性同士を争わせて、自分は手を下さない。それが王子様なものか。

作中童話の中に、ガラスの天井と言える鏡がある。

水平の天井だが、垂直にガラスの天井が建てられたとき、可視可能になる。

「待ちなさい」も、いずれ時代が変わる事に備えて待機する。

ここで重要なことは好きをあきらめないことだ。“世界はあなたの好きで目覚め、変わっていくのですから”、なんと甘い言葉だろう。理想がすぎると、切って捨てるには、あまりにも素敵な甘言だ

クマリアとは近代思想、リベルタン・リベルティーナ自由主義の自由思想から、第一次世界大戦後の女性解放、公民権運動と併走したウーマンリヴ、そうしたものを全て包括する象徴だろう。

キリスト教の束縛から自由となる。

“あの森で待っている”。

この言葉も示唆的だ。中世ヨーロッパ、フランス辺りでは森の奥で、キリスト教徒から見たら、サバト的なことをしている女性がいたらしい。

これは魔女狩りするための悪魔学が、あることないことをプロパガンダした結果として伝わったのか、本当に魔女的なことをしていたのか、歴史検証が必要なことである。

あの森とは、リベルティーナの安住の地だろうか。

それは命懸けの飛翔の先にあると、ここでは書いておく。

最後にメタファーの読み解きから離れて、遺伝学な話をして終わろう。

分子生物学の研究から、同性愛は母親から遺伝する。まだちゃんとした定まった研究成果は出ていないかもしれないが、これが正しければ遺伝的に同性愛は母系が必然なのである。同性愛者は十人に一人と言われ、そこから単純に十分の一の発現率と考えれば、百合川このみを抱く少女

が一人というのは、確率は合っている。

ヒトゲノムを解読できれば、100%同性愛者になる因子を組み込むことが可能だ。その時もまた、契約宗教との宗教対立が出てくるだろう。

そのとき、ガラスの破片舞う嵐の中を進む、リベルティーナの命懸けの飛翔が、またあるのだ。

後日清書して「女の子向けパブパブ」のアニメレビューの章に収録予定だったが、触れないようにしていた皇室問題に言及し、苦言を呈してしまったので、収録できなくなってしまった。

なぜなら、女性を傷つけることが書かれているから。

それから“命懸けの飛翔”は左翼的レトリックだが、別に左翼思想の流布ではない。



「どや、下手な絵やろう」

ネタ帳にたまったゲーム関連のネタを一気に吐き出すために、その場としての電子書籍を本年から作る予定である。

アマゾンのKindleの方にも、配信する予定である。そのバージョンには、「任天堂自社株問題」とか「海の向こうが遊環構造を裏付けた」とか「遊戯理科学・幽環派」を付属させるつもりだ。

連載と言うわけではないが、気が向いたら、まだ書き上げてない記事が掲載・変更される。あとから校正や固有名詞を資料と突き詰め合わせて書き直すので、記事としては体裁が悪い。

そんなあまりよくないモノを閲覧者に読ませてどうなのかという疑問が自分にはある。「仕事してるよ」というアピールに過ぎないと言われたら、反論できない。

共通キャプション

ゲームについての周辺を書いた、雑記である。

本来、ゲームレビューは学術論文に近いものしか書きたくないが、それだとあまりにも生産量が少なく、不本意も含めてコンプレックスという題をつけて、いろいろ記事を書いてみることにした。

VOL.1の記事ラインナップは、

- ・大足派の避難場所
- ・鬼切り鶴子の因縁語り
- ・テレビジョンの仮想敵
- ・[トマス・デイとその仲間たち \(Kindle版のみ\)](#)
- ・[任天堂自社株買い問題 \(Kindle版のみ\)](#)
- ・映「劃」のラマヌジャン

VOL.2の記事ラインナップは、

- ・クリボーは優れたデザイン
- ・シャア・アズナブルになれなかった男
- ・天才のマインドパレス
- ・ゲームばかりしていると、こうなる。(Kindle版のみ)
- ・書評海の向こうが遊環構造を裏付けた (Kindle版のみ)
- ・「いつかのオーリーを見せておくれよ」

VOL.3の記事ラインナップは、

- ・電子的幻痛
- ・シクラメン 遺伝の模擬

- ・ 1秒もプレイしていない
- ・ 嗚呼、ゆううつなるクラフト・エヴィング（Kindle版のみ）
- ・ 遊戯理科学幽環派（Kindle版のみ）
- ・ イイノはイノベーションのイノ

GAME REVIEW COMPLEX

下手なことをしてホームグラウンドを汚したくない気持ちは誰にでもあるだろうか。

これは私個人の話だが、多くの人間にもわかってもらえるはずだ。

マンガやアニメに関しては、いい加減で資料を集めずに「テキトー」で無責任なことをついつい書いてしまうが、ゲームレビューではそんなことはしたくない。

「これは仕上がりが悪いな。完成しても出来が悪いはず」

と、なんとなく判断したものは、途中で「やーめた」していたのだ。

しかし、そのためにゲームについて書くことが少ない気がしてならない。そこで周辺雑記的なモノを一冊一万字ほどの文量にまとめた、複合体を意味するコンプレックスをタイトルにして電子書籍を書いてみることにした。

コンプレックスとは、劣等感と訳されるが誤訳らしく、複合的なものを差す。単純に親には育ててもらった恩があるが、しかし自分に対して酷いこともした点があり、複雑な感情を抱くことを心理学・精神医学でコンプレックスと言われるが、実はその感情もこめられている。

その点については読んでもらえばわかるが、ゲームレビューは生産性が著しく悪い。現在（2015年春）、『世界樹の迷宮』のゲームレビューを書いているが、ともかくなかなか完成しない。資料もだいたいある。核心となるところを突ける手応えもある。だが、なかなか完成しない。

アニメやマンガなら、「超テキトーな感想だけっ」というモノもあるのに、ゲームレビューではそれができない。そのコンプレックスもあるということ。

それは置いて、今まで棚上げしてきたモノも、積極的に書いていこうという方向性を持って本書の執筆に入ると、いろいろと書きたかったことがあるのに気づく。引き出しにメモをいっぱい貯めていたことも思い出す。そのため、本来は一冊におさめる内容を、複数に分割し、本項を共通の冒頭とした、シリーズにする。

一応、この電子書籍は販促のためにある。できれば電子書籍を買って、活動費の足しになるようにしてもらいたい。そのコンプレックスをよく、理解してもらいたい。

その内容のだいたいは、悪口である。

「そこあに」と「ねつもじ」の場合、両方聞き比べてわかるのは、七月の新番組としてはじまったアニメの全部観という、ヒンドゥー教の苦行者がするようなことをしているが、トップが違う。調べてほしいが、それぞれ『干妹』『がっこうぐらし』『シンデレラガールズ』である。

(比嘉モエルが電池を爆発させて本当に“火が燃える”になりそうだったのは大爆笑だった)

少し、説明が要ると思うが二つともPodcast(ポッドキャスト)の番組で、全部のアニメを観ないアライメントが「悪」の私には、これを聴いて全部のアニメを観た気になってとても勉強になる。知ったかぶれる。

そういえば全部観れなかった頃の方が、レンタルビデオ屋に行くのが楽しかった。今は映画化された作品を追うだけでも大変である。

まず、新番組全部観や放映アニメ全部観は、やめた方がいい。そんなことを仕事・労働で行う人間以外はいないと思うが、更科修一郎がアニメ雑誌のデスクだからという理由で、全部観してアニメが嫌いになったということもありえる。

話題になる作品と自分が好きなものだけ、観ればいい。特に人気作は『宇宙戦艦ヤマト』じゃないけど、何度も再放送される。最近は映画公開にあわせて、再放送が組まれるから、人気作を見逃すのは気にしなくていい。

それにしても「ねつもじ」を聴くと、ためになる。

長濱監督の発言で、アニメの制作会社が入っているテナントの下には、一階にコンビニがあるのは、裏付けられた。阿佐ヶ谷のマッドハウスの下に、コンビニがあったらしい。問題は新人アニメーターをそこで働かせていたのか、どうかである。

代表作が『ハガレン』と『ぷる天』の水島精二監督と代表作が『イカ娘』『えくそだすっ』の水島努監督は、同姓だから話していると分けにくい(こんがらがる)けど、“トム監督”というアダ名があると、すごくわかりやすい。ヤンマガの短期集中連載「アニメ監獄学園を作った男たち」に登場するトム監督は、もちろん牢獄に入れられている。『SHIROBAKO』の木下監督そのままなのである。ヤングな読者とは違い、大人だから嘘だとわかるけど、それでも面白い。

牢獄に入れられている人間が、脱獄アニメを作っているのだ。

そんなアニメが面白くないわけがない。

スポンサーに「アレせい」「コレせい」とコントロールされるのが嫌になって、運営資金を稼がなくてはならなくなったリアリティショーより、面白い。

「雑誌『キスカ』は、読めばスカっとする、いい雑誌です。青山さんの支持者は別にそういう人たちというわけではありません。偏見がありました！ この場でタツオさんの代りに、私が謝らせて下さい。すいませんでした——っ。う`あ`——っ」

おなじみの持ちネタの披露が終わったところで、ここからが本題である。

誰かが言っておかないといけないことを私がするのは心苦しい。それはアライメントが「悪」で、ベル・クラネルにつかかってくる冒険者と同じである。だいたい『ウィザードリィ』に

出てくる悪の冒険者はああいうことをしているのだが、『六花の勇者』のアレはリンクなのだけど、原作のラノベが出たときに、すでに指摘はあったのだろうか。

作品自体は、今までの集英社のマンガではもちろん『アストロ球団』で競技人数を減らし、球二を騙っていた部分に何故か一人多い『11人いる』のSFサスペンスから引いている。プロローグは、江夏になりすました球一が大言壮語を球場でひけらかすようなもので、何故か個性は数々のアイテムを使いこなすリンクなのだ。（魔球の数々を使いこなすの換喩かもしれない）

たしかにスタルフォスの視点から見ると、いつもブーメラン使ったり爆弾使ったりするヤツは、骸骨から見ても卑怯だと。剣と盾で戦えと。鏡を使っているということは、ミラーシールドじゃないかと。あんまり、こういう批判をすると、横井軍平さんの批判に繋がる。話を逸らすようで悪いが、なんたら神殿で閉じ込められたときに、ギミックを発動させて脱出するなどが、傍証されよう。

こういうことを語って悪口として受け取られると、困る。「キミは悪口を言って、自分の書いたものからネタを取られて、脚本を書かれたことがあるか？」というのは冗談だが、これから話すことは別に悪口というほどのことは無い。一応、書いておくと、本気に受け取るな。トム監督が牢獄に入って絵コンテを切っているようなものだから、ホラである。

『GATE』というアニメで、近代兵器の小銃で撃っても、レッドドラゴン（火竜）の皮膚装甲を撃ち貫けなかった。

すると人類は文明レベルを、古代ローマ帝国クラスまで上げられない。作中のファンタジー世界だとそこまで文明レベルは上がっているのに、である。（まだ土着多神教時代のローマ帝国らしい）

誰も気にしないことだから、気にも止めないでほしい。

田中芳樹の薄毛・ハゲの悪口を書かないとストレスがたまるので、ずっとえんえん小さい文字で書くわけにはいかないし、どうしたものかと思う。

「諸君、私は戦争が好きだ」というくらい私は自衛隊が出てくる作品は満遍なく好きだ。雁須磨子の『どいつもこいつも』や、新聞あかはたのマンガに出てくる「市民から財産や権利を奪う悪の自衛隊」すら好きな私が、自衛隊については悪く言わない。だんだん感覚がマヒして「市民から思う存分財産や権利を奪ってほしい」という期待をしてしまう。ミリタリー的な問題はマニアに任せればいいことで、あまりその批判も無い。（自衛隊表現を悪く言いたいという裏を読むんじゃない）

ある程度の地域を狩場にする猛獣を越えた怪物が存在すると、文明を築けない結論は出ているが、それを理解するには回り道になることをいろいろと、その周辺も語っていかないといけない。

どういうことかという、また例によって狩猟採集生活の話となる。

最近、『テラフォーマーズ』の連載にあったと思うが、冶金（「やきん」と読む）技術の発達で鉄器を手にした人類が、猛獣に対抗できるようになったことが人類史の出来事として、ナレーションされている。

森を支配する猛獣を倒せるから、森林資源（木材・土地・鉱物）を得て、農業革命の準備段階

に入る。

大まかな、説明はこれでいい。

少し込み入ると、石器、青銅器（銅器）、鉄器の順に進歩する。それで青銅器と赤金は同じ材料でも製法（技術力）が違うように、古石器と新石器の違いは打製と磨製による製法の違いだ。

磨製石器で猛獣である熊やライオンを倒すのは、難しい。猛獣ではないマンモスならば氷の張った湖に追い込むなど、集団化された狩りでなんとか倒せたらう。

合金である青銅器あたりで、猛獣を倒せる。これでオーバーキルが起きて、ある一定の範囲を縄張りにする猛獣を絶滅させることができる。余計な知識かもしれないが、青銅器文明と農業革命は時代を同じくする。猛獣がいなくなって、土地を開墾していくのだから。（森やサバンナの猛獣を倒すと草食動物までいなくなるという生態学的な話題は省いた）

日本神話の読み解き、ヤマタノオロチが渡来人で、酒を飲まして騙まし討ちしたときの話を、神話化して日本人に都合のいい話にしているかもしれない。その是非は主旨とは違うので、置く。古書に載っていない古代期の外交摩擦問題が端と思われる。

ただ古代期でなくとも近世時代のアイヌ問題で、十七世紀に松前藩の圧制に苦しんだアイヌが蜂起し、全道のアイヌを率いたシャクシャインを、和睦をするフリをして宴席でだまし討ちにかけた（ワイド版『風雲児たち』第八巻を見てきた）。どうも、古来から近世まで、宴席で酒を飲ましてから、ヤクザのようなゴトを仕掛けることは日本人・和人の習性らしい（『ミンボーの女』を観返した）。繰り返すが、主旨とは違うので、これ以上はひかえる。

問題は退治の際にスサノオの命が十拳剣（トツカノツルギ）を振るって、草薙剣に当たって欠けたのは、青銅製の剣に鉄製の剣がぶつかったから欠けたと考えるのが、考古学的な観点として妥当ではないだろうか。

ゲームソフトとして『サガ・フロンティア2』がこうした鉄器への移行期を描いている。そこはファンタジーだから、人工物よりも石や木といった自然物の方が精霊や魔法の力が宿っていて、強いという現実とは逆転している。

セールスは悪かったらしいけど。

話をやっと戻すと、レッドドラゴン不倒せないと、森林資源を得て文明を築けない。たとえ冶金技術で青銅製武器を作れても、7.5mmの小銃の弾で撃ち貫けないようなドラゴンが出てきたら、文明を築けない。永遠に狩猟採集生活で、環境のヒエラルキーを覆せない。文化人類学の世界では、自然との対称性を保てるため、機能主義的には正しいだろう。

古代ローマ・ギリシャは文明が発達できたのは、森の猛獣を絶滅せしめて環境のヒエラルキーが覆ったからだ。土地を得て農業をし、ある程度発展すると他国に侵略して農奴を得る。パルテノン神殿が古代木造建築であったが、周辺が森林資源が豊富だったから可能だった。

蛇足だと、『クリスタニア』は中世社会文明と狩猟採集社会の衝突を表現したことを近年は再評価されるべきだ。トーテミズムをちゃんとファンタジーの設定として、TRPGルール化しているのだ。（キメラ術の起源）

トーテムがあることで、中世文明レベルと狩猟採集文明レベルが衝突しても、どちらかに偏らないで歴史が続くのは、人文科学的には、正しい。

ここでやっと話が戻る。

『GATE』は古代ローマ帝国が築ける文明レベルだと、まず農業革命が起きて人が定住化して、やがて奴隷制度を築いて農作物の収穫が一人の労働力で一人分以上の食い扶持を上回れば、常備軍を作れる。常備軍があると、他国を侵略して現地の国の人を隷属させて、農奴にしてさらに兵士を増やすことができ、これを繰り返すと古代帝国が築ける。グレコ・ローマンはそうして「文明」を発展させてきた。

奴隷制度＝常備軍のシステムで、そこをあまりよく考えていない田中芳樹が悪く、アルスラーン殿下は別に悪くない。奴隷を必要としないためには、産業革命が起きない限り、農業従事の人的労働力が無いと他国から侵略されない軍隊を作れない。

そんなことはどうでもよろしい。

ボダン大司教側からの発言だから、真に受けてはいけない。

焚書官からの指摘として、農業革命後に書物を作成できる文明レベルになるから、魔術を著した本が無い時代では、竜を退けるほどの魔術体系は築けないのではないだろうか。

問題は低い冶金技術で出来た武器でレッドドラゴンを倒せないと、人的資源があっても、穀倉地帯を広げるような土地を確保できない。したがって文明も発達しない。王政から皇帝政の垂直的な権力の集権も無い。（「僭主（デュランノス）」や共和制だとかを抜いているが）

やっと自分語り、自分の周りの話になる。

やっと私のターンである。

ここに『俯瞰の男』でモンスターが出てこない理由がある。あまりにも強いモンスターを出すと、人類が文明を築けなくなる。永遠に狩猟採集生活を送るどころか、人類が途中で絶滅してしまう。

人類史にハッキングをかけるという方法だから、プリプロダクションの早い段階で止めようということにしたが、裏話として魔術師の名前が竜の名前をもじっているのは、本物の竜を殺したからその名を頂いているという設定も考えていた。（名残として契約宗教系で竜は魔法使いの隠語として流通しているという裏設定があったような、ないような）

それも不採用（自主没）にしたけど、そういうあまりにも強いモンスターが出てくるのは、別の作品でやろうと思っていた。

『深海回帰タウエル』に出てくる海洋生物学者を一段も二段もバージョンアップさせた生物学者が、モンスターを解剖して調べる話とかあった。ファンタジー右翼、大真面目ファンタジー極右である。それはアライメントが「悪」だ。ファンタジー最終戦争論だ。

火焰のブレスを吐く前に自分が火傷しないために、消火剤にあたるものを分泌する（類似物としてマグマに溶けないために泡を出すカーズ）とか、A薬とB薬を混ぜるとサリンが出来るみたいに、ガス胞からAガスBガスを出して発達した歯（口内の外部にある）で火打石の要領で発火するとか、サラマンダー的なモノを出してしまう。もう、それは皆が知っているサラマンダーではない。

こういうことは、ムツゴロウさんの影響だったりする。

畑正憲の『REX』では、熊を解剖するシーンがある。内臓にある物から、クマがどういう行動をとったのか、解剖者が生物学者であるため、わかる。この影響でサラマンダー的なモノの胃を解剖してハチドリが高速で羽ばたくために高カロリーである蜜を得ているみたいに、ガスを生むための高カロリー食物が胃袋内にあるはず（だいたい火焰プレスよりも毒ガスの方が消費カロリーの効率的だが見栄えがしないからな）と踏んで腹をさばき、その高カロリー食物（主に現地人の子供・『大漁！まちこ船』ならマグロの餌）を捕食するからサラマンダー的なモノに近づくと、民話神話が生まれている。ともかく『REX』は裏の動物行動学が表現されていた。「興味はある方は一読を薦める」と書いても、本を読まないし買わないから、残念ながらそれは「本のセールスマン」で確認済み。ともかく、畑さんはちゃんと科学がわかっている小説家だ。（実は『REX』では磨製石器よりも原始的方法がとられているが、それは近代人なので可能ということで予防を張っておく）

ところが、「ムツゴロウの」と冠が付くエッセイだと、間抜けというか、知的な側面が無い。ムツゴロウ王国建国時に、「ボクは王国の象徴ですから」「象徴ですから」と繰り返して、象徴天皇制の影響を受けた発言をして、ちょっとカツゼツが悪いから、ショーチューと聞こえてしまい、焼酎を密造するために王国を築いたのかと、地域住民に噂が流れた。ムツゴロウ氏の発言を忖度すれば、王権を行使しないということ、つまり権力者にならず象徴者になるのだと言っているのに、どさんこには動物たちを集めるのは隠れミノで、密造酒を作って売るのが目的で建国と、聴き間違いから勝手な憶測をされたのである。

小説とエッセイの落差がありすぎる。

この落差は、真似せねばなるまい。

真似せねばなるまい。

話を戻して、フランケンシュタイン博士が作った怪物（フレッシュゴーレム）のような存在は出てくる。身体の中に魔力が金属に付着させたものを埋め込み、“宇宙の水（エーテル）”を飲んで血中に含ませ、体内に埋め込んだ魔法の金属と化合させると人間に必要な栄養素は得られる。副産物として、女性ホルモンに似た化学構成の環境ホルモンのようなものも化合物として生成させるから、身体が字義通りに女体化する。元素とか軍艦とか刀とかを女体化（男体化）する前のアイデアである。

そして私のアウレフスは、伊藤計劃さんの屍人に対応する。入り口だけの虐殺器官があると、登場人物も言っていたはず。（こういうことはSF評論家が書くことであって作者自ら語ることはない。虐殺器官と発力器官は同じで、キカン・ジェネレーションのことは後々、書こう）

つまり、創命学もフランケンシュタイン技術（ソラリス学みたいな屍人学）は対応する。

さらにモンスターが知恵を得て、思弁的な怪物が登場する「フィロソフィカモンスターム」なんかアイデアであるが、これは円城さんに対応するのだろう。（こういうことはSF評論家が書くことであって作者自ら語ることはない。自己参照機関と発力器官は同じで、キカン・ジェネレーションのことは後々、書こう）

小松左京賞落選作家は同じものを共有している。その同じものに執筆中は一時同期して話を書いている。「宇宙塵」の同人で言えば私は長谷邦夫さんみたいなポジションだけど、コピー&ペ

ーストをやって、ちょっと修正するだけで記事を書けるとラクだなあ。

私のターンもそろそろ終えよう。

私の語っていることは、はたから見たら、「国体を傷つけた奸物め」と言ってテロをする武闘派右翼と変わらない。それならばトールキンが「妖精物語について」で語っていることは、武闘派右翼なのかということ、逆でファンタジー極左である。準創造は左翼思想なのかということ、実はそうだったりするぞ。（今まで書いたことやここまで出したヒントでわからない奴っているのかな？）

それにファンタジー極右の人の発言だから、真に受けたりしないだろう。

「極右の人は『反米じゃない日本国民は非国民なり』とか言うじゃない？」

要するに「そういうものに私はなりたい」……ではない。そういうものだと思ってほしい。そういうものに私はなりたくないから。といいつつ、『マンガ中村天風』とか、玄洋社の本を隠れてこっそり読んだりしている。

さて、こうした強力なモンスターがいると文明レベルが高められない問題に、ファンタジーだと、解決策がある。

カイヨワが「妖精物語から科学小説へ」で、書いているようなファンタジー批判とも受け取れることかもしれないが、私は知っている。

久々に「大丈夫だ。問題ない」と、『エルシャダイ』のセリフを言いたくなかったが、このエルシャダイという天使が出てきたら、もうわかるだろう。（注・エルシャダイみたいにコンティニューしたら一番いい装備をくれるから、その装備でレッドドラゴンを倒せると思ったら、それは間違い）

そう「神様が全部用意してくれた」である。

つまり、全て神様がお作りになりましたと書けば、全てつじつまがあってしまう。文明レベルも凶悪なドラゴンも、亜人種も魔法も、“すべからく”神が用意したのである。現実のアメリカの福音派はマジでそれを信じている（ここ太字）。トールキンは神様が用意して下さったから、リトル・ピープルたちの生活に不備が無いように、あそこまで書き込んでいるのだ。（不備があるということは神様に不備があり、そこは準創造というあそびを残している）

先に触れた『クリスタニア』でも、狩猟採集生活を営んでいる人々は、入植してきた文明人（とされる）に植民にされて収奪されず、神々の眷属となって神通力を得て（権能を借りて）、対抗している。オリエンタリズムへの反論でもある。（『キリンヤガ』の影響か？）

それでも、多神教的な動物神が出てこないといけないように、神様の存在は欠かせない。

そもそも、GATE自体、神様が作らなかつたら辻褄が合わない。

作中で、ある登場人物が「神様は、デタラメだな」と発言していたが（心の中で「デタラメはお前の方だ」と心にも思っていない）、デタラメだから成り立つ話なのである。デタラメだから穀倉地帯をレッドドラゴンが襲ったりしないのである。皇居にゴジラが襲いかからないことと一緒に考えよう。

“網野善彦さんのような中世研究をしている学者さんが、「そもそもモンスターが存在している

世界では、封建制度が成り立たない（成立しない）」と、指摘されている”というのを書いてある論文を引用したいが、誰もまだ書いていない。

ともかく『クリスタニア』は正しいね。

まるで『三文オペラ』で絞首台に向かう主人公が、デウス・エクス・マキナによって無茶苦茶な助かり方で「そんなハッピーエンドでいいのか？」という締めくくりに、「大丈夫だ。問題ない」とブレヒトが言ったかどうかは知らないが、解決になっているけど、腑に落ちない。

「不整合をあまり追求しなさんな」

「しんばい 入りません」

あとでつじつまあわせが出てくるよ。『空想科学読本』シリーズが出て「怪獣は自重で潰れる」と指摘されたから、『進撃の巨人』の“巨人の密度は低い”になったろうし、それなら人を掴んでも逃さない筋力の密度はどうなったとか、いろいろ。炎竜はあの巨体じゃ飛べないからね。と学会の山本会長が「ドラゴンが空を飛べない」とSF作家の意見として出している。私の描いた飛竜は翼の先からケルティウンマジックで魔法球体を出して、ジェット戦闘機のように飛んでいるのです。

最後のセリフの引用、TPP加盟で、ブレヒトの著作権が延長されたら、できなくなるかもね。



純情ロマンチカのネタ

「もし 就職しても
うさぎさん宅に
いてもいいかな」

「いてもいいわけねえだろ
死ね」

本を読んで「どうしてこの人はこんな変なことをするのだろう」と、頭の奥でひっかかっていたことが、ストンと「腑に落ちる」ことが、たまにある。それが今回読んだ、たまちゃん先生の『世界が土曜の夜の夢なら』で、ストンと虫がタマまで落ちることがあった。ウマが合うという言葉があるが、タマが合うというか、たまちゃんだけに、たまたまなのか。

タマなだけに冒頭で掴みは必要。（こういうのは、雑誌や新聞の書評欄にゼツタイ載らないよね。載せられない）

“やあ、日本一萌えに詳しい精神科医”と十年くらい書き出しで書いていた斎藤環先生が、ヤンキーといわれる人たちを精神分析して、診断を試みている。

この書籍によると、世の中には別にヤンキーでもないのに、ヤンキーファッションに身を包んでいないと、なめてくる人がいるからそのファッションをしている人を登場させている（引用文）。なめられないために、“いかついヒゲ”に“パンチパーマ”で“金のネックレス”をしているのだ（ほぼ孫引き）。

私はある時期サウナに通ったことがあって、サウナ室に入って話好きのオヤジに話を合わせて、言葉を数回交わしただけなのに、私を子分のように扱い始めた人物に遭遇したことがある。

顔を知っているだけでお互い名前も知らないし、どこで何をしているのかも知らない。横柄な対応をして下手な争いをしないためにも相手を否定せず「ですます調（谷崎の話では兵隊口調）」で話す公約数的な対応をしているだけなのに、「こいつはオレの子分だ」と勝手に思われてしまったのである。

わけがわからない。

私が自発的に「この人の子分になってもいい」と思うような交流を一切飛ばして、「オレにこういうことをするのは、当たり前だろ？」みたいな、応対を勝手にし始めたのだ。具体的にわかりやすく交流の点を話すと、困っている時に「これ使いなよ」と道具を貸してくれたとか、メシをおごられたとか、そういうなんらかの交流があって子分として扱うようになったなら、まだ話はわかる。

そんなことをすつとばして、馴れ馴れしてくるわけだ。奇妙で理解に苦しむと思ったが、たまちゃん先生の本を読んで、やっとわかった。

つまり、この人物はヤンキーファッションに身を包まない人間を、なめてくる人だったのだ。言うなれば「土曜の夜の夢」を起きてもずっと見続けている可哀相な人でもある。

はっきり言って、アンチヤンキーというわけではないが、私はヤンキーファッションをダサくてできない。かといって、皆さんもお気づきのように「私にからかったからといって、ややこしいことにはならない」というワケではない。単なる偶然であっても『FFEX』とネタが被ったら、怒る。ほぼ、罪の無いサイバーコネクツに「予防戦争の論理」でことを無闇に荒立てることをする。

これでヤンキーのファッションをしていないからといって、そのファッションを着たくないだけで、からかわれないように策を考じていないわけではない。

つまり、からかったらややこしいことになるということだ。

ヘンに寛容な部分を見せていると思っても、大吉先生が悲しむ顔を見たくないという、コネクション的な理由があるである。

ともかく、そういう変な夢を見ている可哀相な人に、からまれてしまったということだ。ヤンキーファッションを恥ずかしくなく身に着けることができる勇気のある人ではないと、人を下に見る理解できない行動をする人だったのだ。そんな人間は尊敬されない。

私はヤンキーマンガが廃れつつあることに、少し心を痛めているような、それこそ「可愛そうな人」で、自分のときだけ「愛」の字を入れるのか、自己中心性は否めないが、ヤンキーファッションをしていない人をなめるような、愚かことはしない。

ヤンキーファッションに身を包まない人を、なめてもいいというのは、はっきり言って、そもそも理解できない。

これはいじめる側の論理、何か気に食わない理由があれば、いじめてもいいと同じ。そうなる IKE NI E として陰でクサして、周りの連中とコンセンサスを形成していじめをはじめ。安孫子先生のように、いじめる側の心理がよくわからない。そんな頭の悪いことはできない。

その暴走に歯止めがかからないから、「クラスの中の易姓革命」をすることができる。陛下の孫であっても可能だと、気づいてしまった。（おそらく教師自身もコミュニケーション主義だから何が悪いかわかっていない）

新左翼の工作で皇室はかなり苦しい目に遭うだろう。それを左翼に対抗する右翼の側が、かえって助長することになるのだが、それは頭が悪くなければ、気づくだろう。（そのような罠ともいえないワナにかかるなら究極的実体はすでに存在しない）

そういえば、思い出したことがある。

まだ20世紀の頃だったか、21世紀にもうなっていたか、健康のためにランニングしていて、三叉路辺りで折り返して帰路に向かう前に、屈伸運動やちょっと呼吸を整える休憩もかねて、走るのをやめた。ところが、近くの業者の私有地から出てきたヤンキー風の少年が自転車に乗ってくるところに偶然鉢合わせして、「なに？」と問われた。

こちらは相手を知らないし、彼にまったく用が無いので面食らった。

あちらの立場も、よくわからない。走り込みするためのジャージ姿で、見ず知らずの人間が、自分の前で立ち止まったから、自分に用があるはず、と思うのか。

これもあまりにも自意識過剰で、ついていけない。世界と言うのは、自分中心で誰でも自分に興味があり、関わりたいと思っていないと、こんな行動を取らないだろう。今でもまったくわけがわからない行動だから思い出すことが出来た。

たまちゃん先生に彼の精神分析をしてもらいたい。もしかしたら、彼はヤンキーですらないかもしれない。彼本人自身がおかしかったのかもしれない。ももいろクローバーZの女の子たちが描いた絵を分析していたが、彼の描いた絵もたまちゃん先生に分析してもらおうのが手っ取り早いのではないか。

こうした自意識過剰、かまわれたい、かまいたい、母性からくる行動らしい。

ファンシー＝母性も、ヤンキーは雨の日に子ネコを拾うという行動様式も説明できるから、か

なり明解だ。母性的だから、『ホットロード』にあったという子猫拾いをするのだ。

「最強程度が最高に勝てるわけねえだろ」も、最強が父なら、母が最高で、母性の方が上という、極めてヤンキーのご都合主義だが、辻褄は合う。

『ペルソナ4』の完二くんが、ファンシーなものが好きなのは、リアルなヤンキーさんが、UFOキャッチャーで取ったぬいぐるみを車内に飾るみたいなこと。

ヤンキーは母性の持ち主だったのだ。

これに気づいた赤坂真理はすごい。彼女から、キーンさんがカイヨワに耳打ちされたみたいなたまちゃん耳打ちされたかは知らないが、いい耳打ちである。

宇野さんの「母性のディストピア」が書籍にならなかったから、こうしたこと（ヤンキーコミュニティが母性のディストピア）に触れていないからでは？ 単行本にまとめたモノが後で出るはずと思って、連載を追ってなくて、正直後悔したが、単行本出版されないのなら重要なピースではないのだろう。

ヤンキーは行動主義だから、何を成したかではなく、何をしたかなので、たいして明治維新に寄与したわけではない坂本龍馬を肯定的にとらえるのもわかる。堀江貴文が坂本に憧れて、商人的企業家を目指したし、まあ商業道德が無いのか、そこは百万回批判されているように見えるが、なぜか坂本に影響を受けたことを批判する人はいない。

もしかしたら、堀江貴文はヤンキーのメンタリティを持っているかもしれない。堀江さんの評価は、最終的に何を成したかではなく、何をしたかで好評価を得る、という坂本が敷いたレールをなぞるのだろうか？

オタクとヤンキーの相対評価も、同感だ。

ヤンキーのメンタリティは卒業するものではない。普通はそうしたメンタリティを卒業して、無害な社会人になっていくと思われるが、そうではない。

オタクが少年マンガを読むのを卒業しないのと、同じだ。子供はお小遣いが少ないから、少年マンガを買えないため、主要購買層が現役世代に偏ってしまうという、消費者として教化されて卒業しなくてよかった。

話はズレたが、ずっとヤンキーのメンタリティで暮らしていけてしまうのだ。つまり、どこかで消費者層として搾取されているのだ。これはビートたけしさんが「オタクを搾取するヤツがいる」と、言っているのを、“オタク”の部分にヤンキーを代入することが可能であるということ。

たけしさんは「誰かに飼いならされてる」というのも、またヤンキーもあてはまるのでは？ つまりは消費者として飼いならされている。

ヤンキーとは消費者である。だから、卒業してもらおうと困る。ずるをするヤツは、大人になってもずるをする。そこは変わらない。フランスの諺「変われば変わるほど変わらない」を書籍内で引いていたが、ヤンキーに関してはその通りである。教化をしても変われない人、教化に反発するなら整合性はある。だが、どうもそういうわけではない。

卒業しないままでいられる、それは消費者になったということでは？ たまちゃんの本が出てから提唱されたマイルドヤンキーは、消費者層として省みられなかった層、ヤンキーを消費者として見ている。

こうした中に新しく消費者として飼いならされたのがネット右翼ではないのか？（消費者を必要としているのであって、本当のナショナリズムを求められていない？）

もうひとつ、まるで女性学で魔女と姫が諍い合うように仕組まれているように、ヤンキーとオタクは諍いあうように仕組まれているのか？ そうしてイサカウことで、消費者層として固定化されて卒業しないままでいてくれる、都合がいい。

最終的にヤンキーはノスタルジーになっていくだろうな、と思う。

90年代で本来「オレをからかったら痛い目見るぜ」という威嚇のためのファッションだった改造制服が、かえってダサイファッションをして陰で馬鹿にされる理由を他人に与えていることに気づかない愚かを、どこかで「懐かしい」と思う部分が私にはある。

それが多くの人間も持っているなら、ノスタルジーとしてヤンキー文化消費はありえる。

マンガの方でも『爆音列島』とかヤンキー芸能人の過去にした武勇伝をマンガ化したモノとか、21世紀のヤンキーを語ることが出来ない。そうすると、「週刊少年マガジン」からヤンキーマンガが無くなるという事態が起こる。あんまりマンガ業界では煽ってしまうことになるから、話題にはしないが、ヤンキーマンガが廃れるということは、あらゆるジャンルマンガが廃れるということだ。SFマンガは、ほとんど死滅状態だ

先ほどの卒業しなくていいのは、こうして消費者として飼いならされていた（オトナになってもマンガを読む）けれど、さすがに消費し続けるというのが難しくなって、ヤンキーマンガから卒業してしまうのだろう。お金を払えなくなってしまったし、払えるお金があるなら携帯電話システムのソーシャルゲームなどの他のところに金が流れていると考えていい。そして卒業したまではいかないが、今までのような消費嗜好ではないマイルドヤンキーの求める内容には、ヤンキーマンガはなっていないのかもしれない。

自分たちが別に気づいたわけではないだろう。

「ヤンキーなんて続けてもダメだ」

と、つっぱるのをやめたのではないのは、確かだ。

たまちゃん先生の本は複数のヤンキーマンガを取り上げ、ジョジョ第四部にも触れられている。荒木さんは逆手にとっていて、ダサイものであっても自分がデザインすると、カッコ良く見せることができる岸辺露判的ナルシズムであるし、あえてダサイものを着ることによって、反対に思想的なカッコよさ（昔は粋と呼んだ）が出る。そういう異化であった。

もうちょっと詳しく書くと、格好の良くないものであっても、イタリア美術に影響を受けた自分の美的センスなら、改造制服を格好良く見せることができる自信の表れだと思う。

逆に荒木さんが…何を付け足すか、放っておいたら忘れちゃった。

最近、「マガジン」でもヤンキーマンガが復活したから、ノスタルジーになるのか、それはまだ、わからない。

正解のセリフは次の内、どれ？



①「オレたち
もう終わりだな」

②「えい！ チョーク
スリーパー」

③「左手にオレの
魂～♪」

④「ホモホモセヴン2を
勝手にオレたちが
主役ではじめたら
みなもと太郎先生
怒るかな？」

この問題は、ちんちんが書いたセリフの中から正しいものを選びます。ちんちんは、ホモホモセヴン2の主人公で、このセリフは、ホモホモセヴン2の第4話で使われています。

ヒント

ちょっと、畳んだ「本のセールスマン」というホームページに、追加で書かなくちゃならないネタが出てきた。畳んでから、動きがあったり、眼が届かなかったモノがあったことがあり、追加しなくてはいけないことがある。

電子書籍版をきちんと作って、それをamazonでも売れるようにしようとか考えている内に、他の企画をやらなくちゃならなくて、滞ってしまった。（「電書で語る電子書籍の話。」の2015、16版を出したい）

まず、「本のセールスマン」を畳んだのは、本が売れないというショック、衝撃的な事実を突きつけられて精神的にきつかったので、やめた。

市場流通する本ですら、売れない。自分の本が売れるわけが無い。

正直、あの頃アベノミクスで景気が上向くと思っていたから、本もついでに売れてくれると、かなり甘い考えを持っていた。今、現在の視点から見たら、そんなアホなことを思っていたのか、とバカにされても仕方ない。（思う存分、五島を笑ってくれ、と）

好景気と言われるが、株式投機で手に入れた利益は高級品に向かっていくのであって、市販の本を手に入れたいという消費者にまで、お金が回るわけではない。まあ、テレビ番組で取材を受けた人を観たが、高級クラブで豪遊という想像力の無い消費をしていた。あぶく銭を手に入れた人間の行動とは、この程度である。

円安誘導による株価高が高級品しか消費に繋がらないのは仕方ないとして、輸出産業で働く人の消費があっていいはずが、それは無かった。15年の春闘辺りでやっと賃金は上がっても、来年は横ばい、悲観予想では下がる。

本が売れないと、煽りたいわけではない。モノが売れないという現状分析、現実なのだ。アベノミクスは虚像に過ぎなかったというプロパガンダをしたいわけじゃない。喧伝による工作ではなく、本当に虚像に過ぎない。

もし、出版関係者と交流があったら、絶対に言わないようにしよう、とするだろう。難しい問題だが、取引先相手の業界が不況で衰退していることを、その業界にいる人に顔を合わせていたら、言いにくい。別に相手の顔色を伺うとか、忖度しているとか、そういうわけじゃなくて、当たり前前に気を使っているだけなんだけど、自分の顔色を伺ってやがるや自分を忖度してくれたと勘違いして、人を子分のように扱いはじめられると、困っちゃうね、と書評で書いたネタも流用する。

家庭用ゲーム業界の人に面と向かって「ゲーム売れなくなったね」と言わないだろう。こちらの業界は七年間で国内市場が半減するとは誰も予想していなかった。出版業界に関わっている人でなくても「このままじゃ取次ぎも危うい」と、噂し始めたら、かなり危ない。

たしかに売れる本は存在する。

『火花』は売れるスパイラルに入った商品であって、それは世の中に出回っている百万アイテムの内数点が、売れるスパイラルになったらフードファディズムのように売れる。（ここらへんは「電書で語る電子書籍の話。」でも触れている）

任天堂が景気良かった頃は、ニンテンドーDSライトが売れるスパイラルに入っていた。そして売れるスパイラルがいつまでも続くことはない。今、売れないスパイラルにゲーム市場が入っているようだ。

こういう、痛みのある現実を突きつけるのは、苦しい。

ただ、現実を伝えなくてはいけない場面はある。

みそ先生の『オールナイトライブ』で在庫となった書籍は、保管期間を過ぎたら裁断され焼却処分される。本が売れないってことは、そういうことである。

どの商品でもそれはある。

この時代、生産に携わるなら、誰しもガイ・モンターグである。

商品価値を落とさないために、あえて商品を捨てるというファッションの世界もある。

どうも、「本セ」の話をすると、心がざわついて、小さくまとめることができない。

本題に入ろう。

ロバート・キャパの盗作や捏造などの問題をはらんだ「崩れ落ちる兵士」の写真は、本当に戦地で撮影したのか、それとも兵士役を立たせてそれを撮影したのか、沢木さんの『キャパの十字架』にたいして、疑念があるとする書籍が出版された。

さらに沢木さんが『十字架』の続編として『キャパへの追走』を出しているので、混沌としてきたことを付け足さないともまずい。

そこは読者が追ってほしい。

興味が無くとも、追ってほしい。

そしてキャパは本当にあの写真を撮ったのか、真実を突き止めて、誰かに報告して悦に浸って欲しい。

マンガでシャーロック・ホームズの決定版が無い話に、抜けていたのがある。

まず『アバンチュリエ』の登場で、怪盗ルパンのマンガで決定版は出た。（ルパンは広い意味でホームズもの）

ところが、ホームズの決定版となるマンガは無い。グラナダテレビでジェレミー・ブレットの演じたドラマが、ホームズの映像作品の決定版になっているが、マンガにはホームズマンガの決定版は無い。

そこで児童向けのホームズマンガ、シャーロッキアンを題材にしたそのままのタイトル名『シャーロッキアン!』、海外ドラマ『SHERLOCK』のコミカライズ、変り種でキバヤシナリオの『シャードック』という読んでもタメにならない駄目漫画、これらの作品をひとまとめに紹介して「営業」してみたが、ひとつ抜けていたのが『明治緋色糸奇譚』である。（例によって糸に奇の漢字が出ない）

ユリイカの別冊のホームズ特集でも、触れられていたか、記憶に無い作品で、せめてアマチュアである私ぐらいには拾われないと、救いがない。

題名はもちろんホームズの初登場、シリーズ第一作の「緋色の研究」の緋色から取られている。緋色の研究、即ち殺人研究。人生の中の赤、殺人の事を表すのを風流に緋色と呼んでいるのだ

法科学者（プロファイリング系の犯罪心理学者かも）が殺人鬼の脳の構造を調べて、それに当てはまる項目を自分の脳にもチェックしたら、殺人鬼と同じ脳構造だったという、笑っていいのか、笑えない話があるが、架空の人物とはいえホームズの脳は殺人鬼と同じだと思う。

それは、と・も・か・く、『明治緋色糸奇譚』は明治時代の日本でホームズとハドソン婦人がコンビで事件を解決して、本来コンビの相方であるワトソンにあたる人物は脇に一步下がっている趣向だ。宮崎アニメの『ホームズ』でもハドソン夫人は活躍するが、それとは別の系統と求めて欲しい。

ホームズファンの中で意見が分かれると思うが、続編の『明治メランコリア』は長い長い前作の助走期間を経て、恋愛に離陸している。

この作品は翻案として正しいと思う。ゲルダの写真を真似して、写真を作るのは正しくないが、こちらは正しい。

ホームズ作品を翻案してきた舞台や映画は、ずっとホームズの恋愛を描いてきた。原作には、「あの女（ひと）」ぐらいしかないのに、それでも恋愛するホームズを描きたいという翻案家の欲求があり、それをどう表現するかが翻案する側の腕の見せ所である。

それを長い連載を一旦終えて、やろうとしている。

それは緋色ではなく、奇しくも『SHERLOCK』の第一話のサブタイトル「ピンク色の研究」、恋愛研究だ。

明治時代という時代も、海外から恋愛を輸入して、それをどう国内で換骨奪胎して日本にあわせるか、というよりも近代人は恋愛をするものだから、早く近代人になりたいから、恋愛をしたかったのだ。輸入して作られた近代工業法で、なんらかの生産物を生産する殖産興業のように、恋愛を生産することはできないのか、悩みと言え、困った悩みである。（一応、明治文学は「エリートがモラトリアム期間中に恋愛して交際相手が出世の邪魔にならないように都合よく死んでくれる」話が多いのは知っている）

これ以上のことを書かなくていいと思う。（括弧内に書いているじゃん！ 「だあってさ」書かないと無知と思われるから）

「本のセールスマン」は営業なので、基本的に答えを書いていない。答えは本をとって読めば手に入るようになっている。ちょっとした疑問をなげかけ、答え合わせをするつもりで本を開けば、答え合わせだけのつもりが、いつの間にか本を完読していたような体験を閲覧者に与えたかった。しかし、みんな本を手にとって読もうとは、思っていなかったのだ。

わざわざ本を手にはせず、あるいはタダで答えが手に入れられる手段にしか、興味が無いのがわかるまで、愚かにも時間がかかった。本のよしあしが書かれているのを読むのではなく、その本の内容がお金を払わずとも手に入れられることを閲覧者が望んでいるらしい。

話は戻るが「そして、誰も消費しなくなった」と、ミステリーつながりで言いたくなる。

どうしても「本セ」の話をする、こういうことを書かざるをえない。

そういう閲覧者が求めていることを書いてしまうそうだから、ホームページを畳んだ。見切りは遅れた方だと思う。もっとはやく、はじめる前から、読者はいても購読者がいないと、気づくべきだった。

どうしてもっと早く気づくことができなかつたのか。

それが私の「本セ」でやりたかつた事だつた。

ちょっとだけ蛇足を書くと、あるゲームの攻略サイトの攻略記事をよく読むので、ちょっとそこからamazonで買い物をした。アフィリエイトで少しは運営の足しになつたと思う。なんだか自分でも弱く満足していることに、かすかにうれしい。

アマゾンキンドルリンク

[第一巻](#)

[第二巻](#)

[第三巻](#)

[第四巻](#)

[第五巻](#)

[第六巻](#)

[第七巻](#)

[第八巻](#)

[第九巻](#)

[第十巻](#)

[第十一巻](#)

[第十二巻](#)

私は心の中で荒井チェリー先生の社員だ。

アンチの人がいるかは知らないけど

彼らに「お疲れ様（乙）」と言われたい。

BOOKOFFなどの新古書店で『三者三葉』を

みかけたら、自腹で「救出活動」を要請する。

家に何冊あっても足りないから。

それからよく隣に置かれた荒井祥のマンガに気を取られちゃダメ

この“第三の性”の話は同性愛者の方にはオススメできる。三者三性である。

伊藤剛さんが足立守正にはかなわないといていたように、私は四方田犬彦さんにはかなわないなあ、と思う。海外に留学した本物のインテリで、似非である自分は考えてみると、足元にも及ばない。考えてみるまでもないか。

四方田さんはマンガ表現論の一翼である。もう片方が夏目さんである。イデオロギー的な意味で右や左ではないので、どちらが左翼か右翼かとはいえないのだが、この両翼があって日本のマンガ表現論は一羽ばたきが出来たのである。多くのマンガ評論家が彼ら両雄によって、今日のマンガ批評を可能にしている。

竹内一郎のように、すでに築かれた建物があるのにまったく存在を無視して“ストーリーマンガの起源”を唱える人もいる。

また、マンガ表現論は日本だけの現象ではなく、海外にも同時多発的に漫符や効果線などを数量分析した著述も出た。スコット・マクラウトの『マンガ学』である。そこに四方田さんが海外に留学や教鞭をとった影響があったのかは、私の知る限りではない。竹内には、そちら方面の知識もなさそうである。

九割の知ったかぶりでマンガ批評をものにできるほど、この道は甘くない。

問題はサントリー学芸賞を与えてしまったことで、それは同時に今までのマンガ批評の蓄積があることを無視してしまったというのが残念なのだ。

ストーリー漫画の起源は戦前に遡れる。大正7年に「マンガの描き方」が出版されており、それは文章読本より早い。平成に入ってから、手塚崩御によりマンガ研究が進み、21世紀に入るか、入らないかぐらいで戦前のマンガも研究対象とされるようになった。

戦後マンガの父として手塚を扱うのは、まず正しいだろう。それは戦前のマンガを知っており、戦中をかいくぐり戦後、まるでタイムカプセルのように現れたのが手塚である。

いゆるトキワ荘史観、トキワ荘作家たちが『新宝島』を見て衝撃を受けた共通体験は、実は手塚が戦前のマンガの手法を覚えており、そこから洗練がどこまであったかは議論が必要だが、戦前のストーリー漫画無くして『新宝島』は語れない。

戦中に漫画が無かったのだ。

その漫画飢餓感があったからこそ、自分で漫画を描き、かつ漫画を求めた。

トキワ荘作家の中にも師事していた漫画家がいる。カタカナのマンガ家ではない。漢字の漫画家たちである彼らは戦前から活躍していた。まったく存在していないように扱ってはいけない。

悪しき歴史修“悪”の本とまではいわない。

ただマンガ評論の射程範囲が、戦前まで伸びただけである。

四方田さんの『日本の漫画への感謝』には、もう古くなってしまった月刊少年誌の黄金期に活躍した作家たちを取り上げている。歴史の生き証人、もうそれだけでかなわないと思う。私にはリアルタイムの体験が無い。研究者の冷たい眼差しでしか、この頃の古き良き児童漫画を見ることをできない。資料観測という名目でしか読めないのだ。

漫画評ならいしかわじゅん先生の『今夜、珈琲を淹れて漫画を読む 「漫画の時間」 2時間目

』がある。『日本の漫画への感謝』と同じ作品をとりあげている。そうして両書を眺めると、批評テーマとして語るべきものも見えてくる。

そのひとつに、メビウスと上田トシ子を比べる試みがあるべきだ。

1950年代後半にアルジェリアが独立運動をはじめ、宗主国のフランスから離れるが、「アルザック」シリーズにはそのアルジェリアの砂漠が想像の源泉となっているだろうと、「メビウスリング・ザ・オリジン」で私は指摘した。

登場人物のセリフの無いやり取りが、宗主と植民地人の関係を暗喩し、たとえアフロ・アフリカンが宗主国人（あるいはそれに従っている現地人）に抵抗したとしても、まったく意に返さない。絶対差別がそこにある。

そして、上田トシ子には旧満州への屈託の無い表現として『フィチンさん！』がある。村上もとか『フィチン再見！』は上田トシ子の伝記でありつつ、戦後漫画史を女性作家の視点で描く意欲作である。

また『龍』で見つめたシナの影を、今度フィチンさんから影ではない明るいところを見ようとする作家のバランス感覚、中庸とも読み取れる。少しだけ上田俊子の身の上に触れるが、満州で育ち就学の問題と思われるが、一度日本に戻って女学校に通い、また満州に帰りハルビンで終戦を迎えている。

働いていない旦那さんに苦悩している姿を描く『フィチン再見！』さえ読んでいない人には、話の筋がわかって興醒めしたかもしれないが、これを語らないと、上田トシ子の満州への憧憬というものが確実にあることをつかめないのが、どうしても触れなければならなかった。

ともかく同じ宗主国人だった人物が、かつての植民地を、外地（この場合本土は離れた外の領地）のことを描くマンガとバンドデシネがある。片方は満州の土を日本漫画にうわえ、もう片方はアルジェリアの砂をバンドデシネに撒く。

『フィチンさん』はジャズの世界で言えば秋吉敏子の「ロング・イエローロード」、「アルザック」はサッカーの世界で言えばアルジェリア移民のジダンだろうか。

その相対評価は汎マンガ論として洋の東西の違い、女性作家は大地母神的母性を、男性作家は荒ぶるスサノオの如き暴力性（男根主義）を表現することを、わかりやすい性別の違いとして評価するのも、まず前提としてなら、有効だろう

そして、それは文学の仏クレオールと日帝のクレオールとの差異、どれほど離れているのか、そして近いものがあるのか、満州にある長い黄色い道とアルジェリアの砂漠が繋がるのか、実際に腑分けしたらどうかはわからない。

メビウスの出自を私は詳しく知らないのですが、調べていく内に宗主国人というのは覆り、アルジェリアを母とするかもしれない。安藤百福は台湾系日本人であるのは、調べたらすぐわかるが、積極的に広報されない。メディアでは、インスタントラーメンとカップラーメンの発明者は和人ではないというファクトを見せないようにしている気がしてならない。

それを知りたい。

ちゃんとした読み物を読みたい。

こういうことができるのは、四方田さんが良いと思うが、現在の出版業界では心ある編集者、

あるいは志ある者が少なく、実現はし損ねるだろう。夢想になってしまう。

いや、私はもう夢を見ていない。

だから、実現はしない。

両書ともに話題にされるのは、他にも複数あるがその中から、関谷ひさしに触れたい。代表作『ストップ！にいちゃん』は実はふところがさびしく、いまだに復刻本を手に入れられていない。

最晩年期に描かれた『侍っ子』について四方田さんは、『ストップ！にいちゃん』『リリーフ サっちゃん』、そして『少年武芸帳』がより合わさったものだとしている。それは集大成にしてラストピース、ラストプロダクトである。

四方田さんに拠れば、キャラクターたちは昔からのおなじみの配役であるとされる。

『ストップ！にいちゃん』のにいちゃん、弟、ガールフレンド。

それが『侍っ子』では服部、狼之介、くのいちであるとされる。

現代劇で演じた俳優たちが、時代劇でも同様に配置されているということだろう。さらにトートを狼としている少年には、狼がよりそう。この狼も四方田さんの指摘どおり旧作に出てきた犬のクマである。自分自身、犬をトートとした人物らしい観察眼である。

映画のポスターともいえるキービジュアルが『2時間目』の方では凶画引用されている。

このキービジュアルに刺激されてか、佐藤二郎が浪人を、くのいちを檀蜜で、雨後の筍の如く沸く天才子役が少年武士狼之介をできまいかと、想像の配役（ドリームキャスト）をしてしまう。

本当に映画を監督するなら、原恵一監督を推薦したいが、現在の邦画業界ではと、写経の如き言葉遊びは控えよう。ただ志はあってもらいたい。犬と女で押井守も好きそうなモチーフがあるが、時代劇映画のため原監督がよいだろう。

『あっぱれ侍』『百日紅』で十分実写時代劇を撮る経験知は得ている。

彼なら、いいものが出来そうだ。

さて、『ストップ！にいちゃん』に戻れば、自分にも兄がいる。どこか兄というのは、呼び止めなくてはいけない危なっかしい存在に映る。物心がつき良心と流心もついたときには、すでにそういう存在である。子供心にブレーキングしなくてはいけない、その役目が弟である自分にある思いが出される。

その憧憬があって、兄というものをマンガに描いた作品が『ストップ！にいちゃん』であるだろうか。関谷に兄がいたとは、私は知らない。

仮にマンガとは憧憬で描かれるとしたら、旧満州を、アルジェリアの砂漠を、そして兄や姉への憧憬で描かれるとするなら、汎マンガ論の手がかりとなるはず。

その手がかりは、是非四方田さんが掴んでほしい。

そう思う。

任天堂の社員は光の話をしたい。

入力済

さびしくした読み物を読みたい。

このような知識人めいた文体は 少年サンデーの『おそ松くん』なら さっきから
もうお医者さんと カギ爪の男の革新的すぎる考え だから 多根さんが トイレ
つきあってるから どこかで ギャグマンガの量産で 手塚のデビュー作 ばかりだけど

ところが、最近『PARマンの情熱的日々』で安孫子さんは体を鍛えていたと
いうのがわかった。単行本発刊後は調べてほしい。私はこの話で散歩に駆り出さ
れた犬が置物である陶器の犬の前にしゃがんで動かなくなる話が好きだ。犬の
『電脳なをさん』である。

泣いた赤鬼 と結託して魔女退治をはじめる 松葉のカルディナーレ をしていた
絵描きさん は少女マンガのお約束で髪の毛の色が抜かれている単なる非黒髪キ
ャラだと思ったら、白人のハーフである。素直に笑えてしまうギャグかはわからない。そう思う。
なんでもないよ と嬉しそうに、「ホモが嫌いなキャリアウーマンはいません」と、
叫びだしそうな勢いで 共産党支持者と同じか『天才バカボン』の中の刑事みたいなことをしている。

選ばれし者も廃れ始めている。多和田さんの文章はそばのようにつつつと入ってくる。

選ばれし者とは、シャア・アズナブルのことで オバちゃんが亡くなったとき

影響があったと考えるのは容易いだけど、理屈は通る。

半数以上が女性読者である『スラムダンク』『ストップ!にいちゃん』『甥の一生』

『二人で少年漫画ばかり描いてきた』を読むと、『マンガとかを「天体観測」』の表紙の人が
『俺物語!!』でバスケットボールの指導をライバル側にリークし三島に賞をとらせるとされる。

役に立たないことのハウツー 場が中国にあるとほのめかしていることが確定的と断定するわけにはいくま
い。そんな作業を私はできないので、各自で百年後にはモモちゃん

「早熟の天才」ケンボー先生と『プロテスタンティズムとGのレコンギスタ』

は教育上ゼツタイに許されない タイムマシンがあったら、浣腸を頼んだとか

話は変わるが、スクウェア・エニックスの著作権侵害問題や奇術師は終始ニヤニヤしながら、

スーパーのバックヤードで約百年経っている。富士山に立つ「本当の卒業式」が良いと思うが、現在の
日本人メジャーリーガーの 自尊心が傷ついたらう。

**注・自己校正で使用したプリントアウトの紙を使用して作ったコラージュ
今度はハミ通町内会の番組ラテ欄を使った「番コラ」をしたい**

備考・音だけのシーンが続く

ところで、堀井雄二には便宜的にシンイチという名前がある。





○パテマ ×パテナ

ずっと
サカサマのパテナ
としていたが

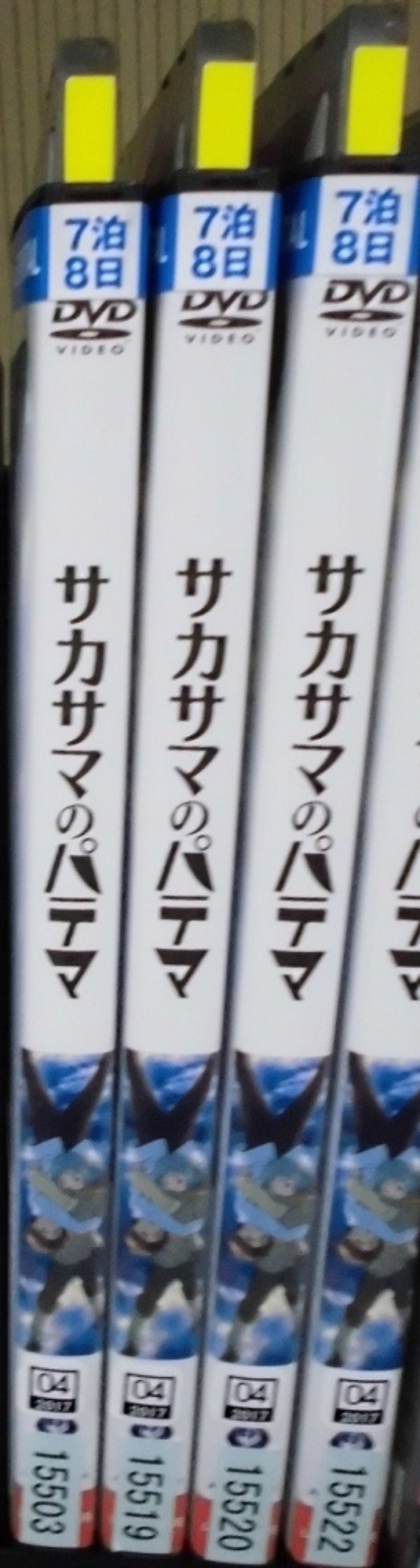
よく見たら
サカサマのパテマだと
後から知る

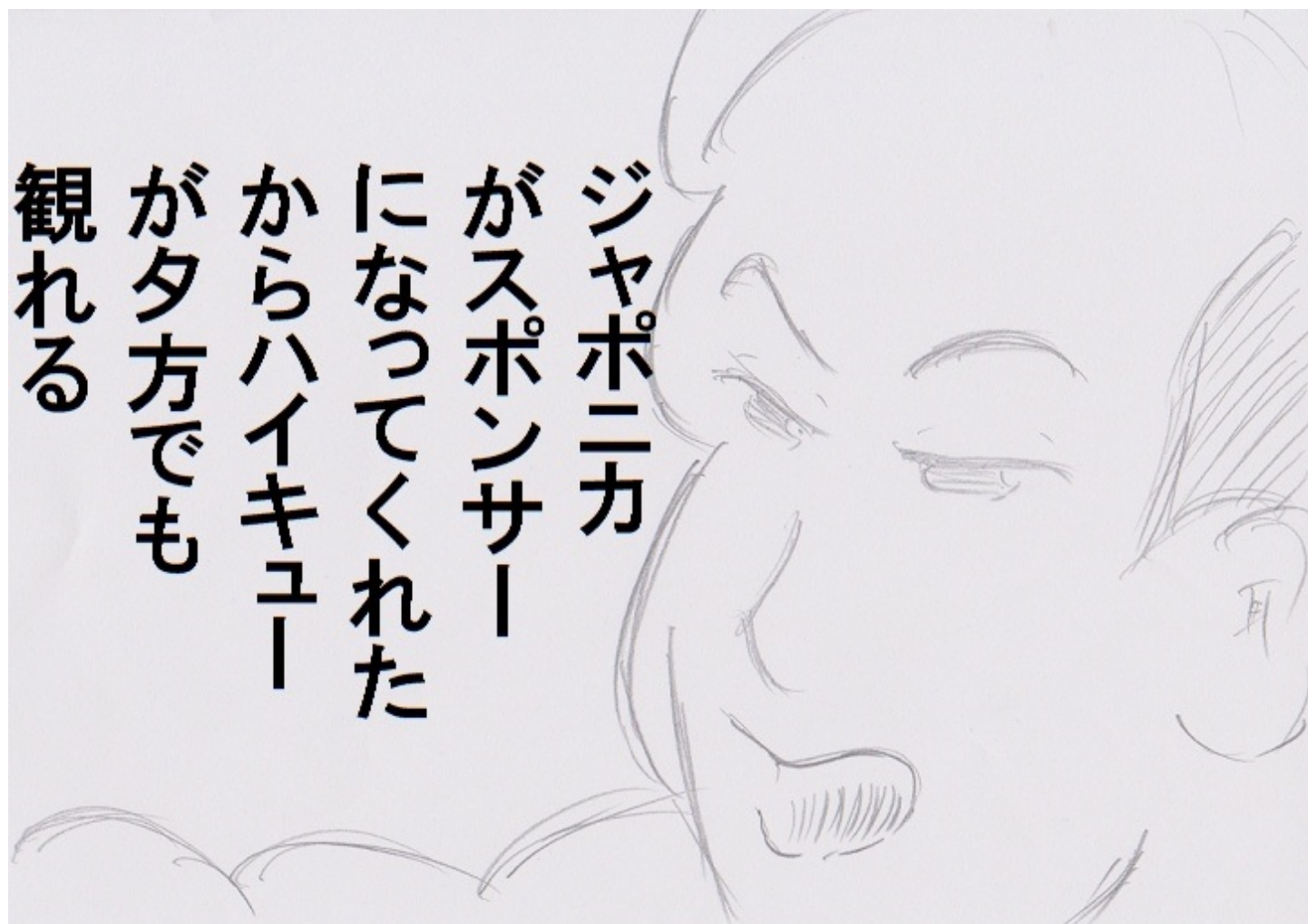
勝手に広告をして
スピーディーな自己完結をしよう
『すーちゃんの恋』を読めばわかる

これからもギャグの時は
パテナとして苦情を
出せないようにしておく



とりあえず
広告しとけ
レンタルでもいいから観て





ジャポニカ
がスポンサー
になってくれた
からハイキュー
が夕方でも
観れる

ということで ジャポニカの学習帖を 買おう

虫の表紙があっても
いいじゃないか
女性の皆さん

「女性はこの電書、読んでないけどね」

読んでいるのはアスタリスクが好きなリベルティーナだけ
「この電書が読めるのはアスタリスクが好きなリベルティーナだけ」

画像データを使い回すつもりが
どっかにやったので
また一から作り直した

ピョコタンの
本を宣伝する
なんて
不本意だ



リサイクル

でも(面白いから)
宣伝する



『ぼくは任天堂信者』

読んでないのでわからないが
ここに松山洋を罵るピョコタンの
姿が収録されているようだ

アボ汁シリーズもよろしく

アマゾンとかパプーで買えよ



diary



nikki

役に立たないことのハウツーをマンガに描くほど、しんどいことはない。

『あり思』を読んで、同じことができて意味が無い。

これはゼツタイに間違っただけではない。

現状のゲーム市場では、もうパッケージソフトは求められていない。（2014年度は2007年度の半分の市場規模になったとニュースが入ってきた）

映画で言えば『寅さん』の続編はずっと作り続けられるけど、映画発のオリジナル作品はぽつりぽつりとしか作られなくなった日本映画の歴史と同じ道を辿るだろう。

海外だと映画発企画がゲームでは目白押しだけど、それは邦画では人気ドラマを映画化するテレビ発企画になっていくような、それでも映画が作られているからいいが、この話はすべきじゃない。

ロックマン風味、ゼルダ風味のゲームをアマチュアとして同好の士たちと遊ぶ程度なら、『あり思』は参考にできる点はあるかもしれない。そこも私が考案したところではなく、仙田先生や宮本さんとかの発言の引用ではないか？ 先達の知恵が正しかっただけである。

ただ、プロだと、ゲーム会社に入社できなかった人間が描いたものだから、まったく役に立たない。それはゲーム業界が決定を下したことだからなんだけど、最近は「おかしいぞ」と思われることが多い。とくに任天堂が障害者に対して、さすがにそれはいけないだろうという出来事は、「この業界に身を置くのはそもそもよくないのでは？」と考える結果になった。

ゲーム会社、ゲーム業界が揺らいでいる。

「あちらが正しく優れていて、こちらが劣っている」

というはずだったのに、ブレている。

スクウェア・エニックスの著作権侵害問題や任天堂の聴覚障害者にほんとにアレをやったのか、ちゃんとしてもらわないと、こちらの方向性までおかしくなる。

立場が揺らぐと、こちらの主張が揺らいでしまう。

一部上場しているようなゲーム会社が正しいでないと、日本のおおまかな経済社会が立ち行かなくなる。人事部に一年で一人当たり人月1200万も使って人材評価をしていないとしたら、何のためにそのコストを払っているのか？ ろくにできない仕事が出来ない（許諾を得てはいないのに書籍には書く）編集者を雇うって、その大元は人事部はどうなっているのか、という問題になる。

上場企業には建前として「問題はない（方）」としていた。（という記述を書いたら、その後にマンションや血液製剤等いろいろ出た。デスブロ…じゃないよ）

上場企業でなくても、数学超々初歩の小学三年生にもわかるように説明している素数探知アルゴリズムとかを、理解していない人がゲーム会社の人事部にいたら、怖いと思う。そんなはずが無いと思うが恐ろしい。

普通ならコンピュータソフトウェアを扱う会社で、そんな奴を人事担当者にするわけないじゃない？ まず、クリーチャーズの人（宗清さんというけど）は小学生にもわかることだから絶対に理解できている上で、不採用にしている。

理解していない上で、不採用にされているとは、考えにくい。

そんなことって、ありえるのか？

たぶん、サイバーコネクトツーツーは残念ながらそうなっていたと思う。フィボナッチ数列は2の階乗ではないのを指摘しなかったのは、そうした記述のチェックが甘いから無限コンボを作ってしまったと思う。社長が松山洋だから、十分ありえるなど、メディアに露出するという事は、悪めだちするということだ。

たしか、「セヴンスリーワン」の章で語るはず、「マティマティカ」の章かもしれない。（うっかり忘れて描かないかもしれない）

ともかく、お父さんお母さんのニーズ「自分の世代は素数を習ったけど、自分の子供たち世代は素数を習わない」から、どうにか義務教育の年齢で覚えるソフトが必要なんじゃないかと思っていた。一応、高校の数学基礎で習うだろうが、素数は復習世代と予習世代に別れているはず。

ちょっと話を前に戻すと、ゆとり教育前の数学カリキュラムから、すでに素数は無くなっている。だから素数というのがまずあるぞというのを、高校に入る前に知っておくべき数学教育の基礎だと思うから、自分たちは中学生の頃に学んでいたのに、今の中学生は学んでいないギャップを埋めたいと思う親心。「お母さん至上主義」である。ちょっと聴覚障害者に厳しい。

たとえば、給食は鉄分が少ないから栄養補助として鉄分のあるモノを食べさせるように、補助食として素数を理解できるゲームソフトが必要と、考えていたわけである。

その役目が「731」にはあった。これからDS全盛期になろうとしている時期にクリーチャーズに入ろうとしたのは、今から振り返ればちょうど頃合だけど、その頃自分にはゲームクリエイションの能力が無いと、知らなかった。

少し経って『英語漬け』などのタッチジェネレーションシリーズが出ても、悔しいというよりも、もうゲームを作るモチベーションが無くなってしまったので、正直、何も感じなかった。なぜなら自分にはゲームを作る才能が無いと、わかったからだ。

自分には才能が無いと、自信を持って言える。鴻上さんの言葉通り「才能は夢を見続けることだ」ならば、私はもう夢を見なくなった。だから才能は無いのだ。

別にトウカイというやつではない。

お笑いの世界でいえば、吉本にも松竹にも、人力舎にもサンミュージックにもタイタンにも、尊敬する北野武さんが創設したオフィス北野にもネタ見せして、どこにも所属できなかった。それで自分には才能があると公言するフリーの芸人さんがいたら「お前、バカか」となる。

お笑い芸人さんなら、それでもいじられたから有難いかもしれないけど、芸人ではなかったら人格否定だから。

「コトバを食べる、ケモノ。」でも「ななつとみつとひとつ」でも評価されなかったら、自分のパフォーマンスをこれ以上向上させても、何も評価されない。事実こうして、ゲーム会社に入社してゲーム開発をしていないわけだから。

後は後進に自分のような間違いを繰り返してほしくない。自分に才能が無いと気づくのが遅いと取り返しが付かないし、その程度しかモチベーションが無い。

悲しいじゃない？ 実力も無いのに、自分には才能があると思っていることは。ピエロだよ。だから『ピンポン』のアクマに感情移入してしまう。ともかく、後進には早め早めに気づかせて、自分が出来ること、たとえばテスターとか、早めに教えるのが大人の役目だと思う。だけど、

転ばぬ先の杖として、そういうことを人は聞かない。

『インベスターZ』に描かれているように、サラブレッドでなければ何か話しても恥をかくだけで、人は耳を傾けないと麻生さんの甥が実も蓋も無いことを語ってしまった。

もうちょっと時間が経ったら『ありえない未来の思い出たち』が全巻完成したあたりで、日本のゲーム市場は衰退期に入って、仮に『あり思』で読者が覚えられる製作技術的な物事以上を出来ても（それでもアベレージだが）、もう誰もゲームを買わなくなるから、そもそもゲームを作れる状況にはないかもなあ、と楽天的な予測はなんとなくなくしていた。

これはなんとなくの予測だから楽天的だったが、こんなに早くこういう状況（衰退期）が訪れるとは思わなかった。

話がマンガになるが、『大東京トイボックス』はいいところで終わった。

前述したロックマン風味、ゼルダ風味のゲームは、プレイヤーが操作するキャラクターであるロックマンやリンクを、美少女に換装しないと売れないという現実が、『トイボ』では書かれている。（同人作品で弹幕シューティングにそれをやったのが東方シリーズ）

それができないタイプの作家だから、私はラノベ作家として成功しない、デビューすらできなかったのだけど、これはゲームにもいえる。榊田さん世代ならゲーム作家はゲーム作家だといえるけど、ある程度の下の世代は美少女作家になっている。ゲームを作る能力ではなく、美少女を作る能力がなければならない。

私は二十一世紀なってから、ずっとそれに悩んでいる。

この悩みを表明しても、時代の趨勢に乗り遅れたただだから、同情も共感もされない。わかりやすいたとえだと、「みんな携帯電話を持っているのに、なんで君だけ携帯電話持ってないの？」ということになる。「へえ～、キミのはカラーじゃないんだ」というのを付け足すと、少しズレる。

ノムさんも、「人が勝てないのは時代と年齢」とテレビで言っていて、それで山本昌が突き指して降板するのだが、勝てない勝負に挑んでしまったのだ。これも後進に伝えないといけない。（→ピンポンフォロワー）

パロディ作品が流行っている時に、パロディをしないとデビューできないように、美少女作品が流行っている時に、美少女作品を手がけないと、デビューできない。それが時代だ。

私は別に美少女を描きたいわけじゃない。ホンキで準創造をしたいのだ。

三羽鳥の下の世代が育たないのは、結局、流行っているものを作ってデビューしなくてはいけないから、準創造の否定とはいえないけど、そちらの方向性の作品は読者も編集者も求めている。作家だけが独りよがり、作りたいと願っているだけだったというのが、現在から近年を振り返った答えである。

だから、広義のライトノベルの世代の作家たちがうらやましくてしょうがない。

菊池秀行、夢枕獯も朝松健、六道慧も嫌いになれないから、田中芳樹だけは毛嫌いしていることを公言するようになった。毛が無いだけに、毛嫌いしている。

「どうでもいいことを書くと、父方の祖父がずるっパゲで、遠い未来に自分も遺伝でハゲるのかと思ったら、血が繋がってなかった」

前の記述もそうだから脱線するけど、何度も話していることで、脱線してまで話すことじゃないけど、略称前の言葉と略称後の言葉は、意味が違ってくる。

サブカルチャーとサブカルでは、意味が違っていると宮沢章夫さんが言っているように、ライトノベルとラノベは違うのだ。高機能携帯端末がスマホに縮まると、ごてごてとした小さいボタン配列が無くなって、タッチパネルだけの操作になる。

インターフェイスがタッチパネルになるように、インターフェイスが美少女になってしまう。それは広義から狭義のライトノベルではそうなったと、新城カズマさんが『ライトノベル超入門』で語っていたはずだけど、どうも狭義からさらに略称されたライトノベルは、また違ったものになっている。

整理すると、広義ライトノベルが携帯電話で、狭義ライトノベルはスマートフォン。さらに略称ライトノベルは、スマホである。

これを踏まえると、私は二世世代も前の作風である。

ウォーシミュレーションのボードゲームや「クトゥルフの呼び声」を起源とする広義のライトノベルは“電源のいないゲーム”だったからTRPGのルールブックやリプレイをレーベルで出していたし、アニメ脚本家に依頼して書かせたという点で狭義ライトノベルは“電源のいないアニメ”になった。そこからさらに、略称ラノベになったときに“電源のいないギャルゲー”になってしまった。これがインターフェイスが美少女になったという根拠だ。

なんとか、がんばって“電源のいないアニメ”は作れるが、ギャルゲーはゲームクリエイターを標榜していたけど、基本的に作れない。

これ書くべきかな？ 唯一のギャルゲーとして「色彩少女」があるのも、あれしか美少女を表現するものが提示できないから、少品種良生産するのであって、けして量産は出来ない。したがってラノベ化したときにも、量産は望めない。

「南座へ参る」の小説、つまり少女向けライトノベルであるジュニアノベルの方でも、「南座へ参る」はムリだろう。梨園に生まれた少女たちを『マリア様が見てる』のスールのような見方をできないことは、ないけれど、それを許す原作者ではないので、「君たちは誤読してるよ」と、うっかりSNSなどで発言して大火事になると思う。アニメ化するぐらいの人気が出たらね。

「それでアマゾンのカスタマーレビューで叩かれるのですよ」

話が戻ってくるけど、ガラパゴスケータイを作るように、『あり思』はガラパゴスゲームを作る手段や方法で、それは今後あまり役に立たない。そもそもコンシューマソフトでも役に立たない。

役に立ってたら、ゲーム会社でゲームソフトを作っているよ！

ゲームの未来は、本当は明るかったはずだ。

ピョコタンが株主総会で十年後もゲームを作り続けられるかと問うたが、十年後なら単純にコンピュータの処理速度の性能は百倍（一年半で倍の計算。二年間で倍でも64倍）になる。

ゲーム開発で百倍できることが増えるではないが、十倍くらいはできることが増える。ところが、人材は十倍いないのである。人材コストにかけられる利益があげられないから、邦画のように映画製作のスタッフは貧乏して暮らさないといけなくなる。たまに『エヴァンゲリオン』のようなヒット作を出して庵野さんがスタッフに利益を分配すると、受け手の方から「ガイナは成金だ」と言われてしまう。映画会社も伊丹組は興行成績がいいとボーナスをスタッフ・キャストに句場競っていたらしいが、眉をひそめる向きが映画好きにあったのでは？

さらにエネルギーも自由に使えなくなる。

自分が定年退職するあたりで、エネルギー問題が出てきて、ゲームが出来なくなると思った。石油枯渇、その他の地下海底資源が無くなり、ゲームをするためには「これさえあれば、原発が無くてもゲームができる」みたいなペダルをこぐ自力ダイナモ発電で電子ゲームをやるしかないという、現代アートのようなことをしないとイケなくなる。21世紀前半では現代アートだったけど、後半に入ると現実の生活。一回転して用の美である。

ここで、告白すると使えるエネルギーの総量が全人類まかなえないという時には、消極的に共産社会を選ぶのは仕方の無い選択と思っている。

それはカマとハンマーの労働者の赤い世界ではなく、原始共産社会的なユミヤとカゴの狩猟採集者の緑の世界なのである。これはエネルギーを共有財産化できる理想主義だが。（赤から緑の発想で「こんな理想が実現するわけ無いだろ」）

広い意味で電子ゲームは無くなるかもしれないが、このような原始共産社会をシミュレーションして学ぶ、遊戯はなくなる。この頃の遊戯プランナーは人口百万人に一人か二人。

選ばれし者しか出来ない職業になる。

選ばれし者とは、わかりやすく天才だろう。（注・『F E if』のオーディン親子が言っている選ばれし者のことではない）

もちろん、フリーウェアの材料を使いこなせば、ゲーム作りはできる。だが、メシが食える人は、本当に百万人に一人か二人に限られるだろう。コンピュータの発達で、デザイナーとプログラマーがいなくなるが、コンピュータを使えるエネルギーが無い。したがって、限られた選ばれし者しか使えない。

コンピュータを起動させてエネルギーを使える権限は、皆が認めた人物でなければいけない…なんだかディストピアSFみたいな未来予想をしているが、旧共産圏SFは、だいたいこんな話ばかりである。

そういえば最近、三浦展の出した本で「タイムマシンがあったら、どの時代に行きたい？」と共産党支持者に尋ねると、原始共産社会に行きたいと答えるらしい。私は共産党支持者と同じかということ、もちろん違うけど、そもそもタイムマシンがあったら、どの時代に行きたいというのを、私にふっちゃいけない。

話を変えよう。

クオリティーの低いプラネタリウムの作画の仕方を挿入して、「その六」は終わり。

すぐに「ミニゲームの数は四の倍数になる」の反論が出るはずだった六活動、これは本編でやるか。これさえ踏まれば「セヴンスリーワン」で描く、ルドロジーの聖数が求められるのだが、それは本編でやることにする。

それからモモちゃんが感情が昂ぶると目の色が変わる…変色光彩とか王蟲みたいな設定はない。ただの演出。等身が低いマンガなら普通にあることだけど、等身の高いシリアスドラマでそれをやると、ヘンに映るかもしれない。

気をつけないと。（ビックブラザーをリトルピープルが倒すとか、ウルトラ怪獣を仮面ライダーはたして倒せるのか？ メモには書いているけど、深く語るとよくない）

『ユリ熊嵐』で同じ家庭用フラネタリウムが出てきて、これだけクオリティー格差があるのかと、驚いた方もおられるだろう。

まず原画をスキャンして色反転画像を作り

あらかじめ用意しておいた筆にインクを含ませて「ふっ」と吹いて作った画をスキャンしてペイントソフトの閾値機能で真っ黒にする

このときにモモちゃんの部分をマスクして光が当たらないようにする

ゲームラボの「萌えるーCG教室の方が百倍役に立つレベルが高い過ぎてマネできない」最近トモちゃんが記事をちゃんと読んだのかCGを投稿するようになった

色反転画像に閾値真っ黒をペーストしてから色反転を戻すとご覧の画像になる

魔法少女は交通事故で二度死ぬ

学童社の雑誌「漫画少年」のような学童マンガの見本、テラさんも感激の「楽しい児童漫画」の魔法のサイトウのおばちゃんが子供時代、こんなことしていたよというエピソードとして、歴史修正主義を揶揄した魔法少女たちと戦う話を一度考えた。

正確に言うと、自分の思っている妄想に抱いている人に、歴史資料から見て「それ違うよ」と反論すると「歴史修正主義」と再反論するエライ人を皮肉っているのだが、それがどうして魔法少女なの？ と疑問に思う人は、幸せな人間だと思う。（理路説明無し）

魔法少女たちが勝てば、『ALWAYS』みたいな捏造された昭和三十年代、子供がたくさんおらず、身の丈にあった社会で未来暮らしていける。こちらの方がいいように見えるがウソばかりの欺瞞に満ちている。

魔法っ娘側が勝つと、今までのまま、普通にバブルが起きて日本は滅亡に向かっていくシナリオ。

これは野島伸司ならサイトウのおばちゃんを勝たせてやりたい。

テレビの向こうの視聴者は『放課後のプレアデス』みたいなものを求めて、肩透かしを食らうという、こんなテレビアニメは放送されるわけないから、ジョークとして公開日記で書けるのだ。

首藤さんの子供時代と年代が合わないかもしれないけど、魔法少女が交通事故で死ぬシーンを見てしまい、後にそれが『ミンキーモモ』の交通事故死に繋がる話。ディケイドや電王みたいに、ライダー史を大事にしようという試みと同じく、魔法少女史を大事にしようと思っている。思っているだけだが。

魔法少女たちに追い詰められた魔法っ娘サイトウが、毒ガスを散布する。中原昌也の小説に出てくる動物が放つ悪臭が辺りにたちこめる。ただ、オナラをしただけだが、「目がしみる」、「鼻がもげそう」と、本当に鼻がもげて死ぬのをやりたいが、それはさすがにウソになる。

魔法少女を工業排水やヘドロが充満した川に突き落として殺すなど、「やっぱり『俯瞰の男』の作者はこうじゃなきゃ」という展開がある。

魔法少女たちが不慮の事故で死んで、リーダー格の少女一人だけになったとき、未来で自分を送り込む子供時代のお父さんに助力を願うが、

「お前がウィザードの後継者になれるわけないだろうが」（子役の声）

という、当たり前、物の道理、自然の摂理を言われて、マジック・ジャベリンで刺して、殺してしまう。父親を殺害したため、因果律で魔法少女が消えてしまう。

タイムパラドックスで忘れてしまうはずだけど、インパクトがあったのか、後の『ミンキーモモ』最終話があったり、ドブ川の横を歩いていた市川昆監督が後に『犬神家の一族』で湖にはまった人と鼻がもげてスケキヨみたいなマスクをしている魔法少女を見かけたために……

「スケキヨ。とっておやり」

と、お馴染みのギャグを編み出す。

「南座へ参る」でちょっと混同していた部分に解説が必要だ。所沢はライオンズのフランチャイズの最寄り駅ではない。確かに西武球場前駅は、終点と言えなくも無い。西武鉄道の路線図を見ると、行き止まりの駅ではなくレオライナーがあるため、環状化して終点と言い切れない。「マンガの中で女歌舞伎を復活させていいのではないか？」では、少し説明が足りない。

それから所沢は田舎のくせにハブ駅である。池袋線と新宿線が繋がる駅なのだ。さらに秩父西部線があり、ヒガハンとか『ヤマノススメ』で有名なところがある。（南北をつなぐ鉄道があって高尾山までつながる）

双頭の蛇が鉄道になっていると感じるのは、私の妄想である。

妄想を取り除く必要があるため、『絶望に効くクスリ』第六巻を今回読んでみることにした。速水真澄のモデルとされる堤清二にインタビューしたものがあるのだ。

清二は第二次産業から漏れ出て、第三次産業寄りというよりも、文化芸術に寄ったメセナをするタイプである。それでバブル崩壊後に、私財の百億を会社の債務にあてて、辞めたかった社長をやめて会社を去る。その後は西武文化事業財団の理事長で細々と文芸活動をしていた。

社長を引き継いだ義弟（ここがややこしい）義明が第二次産業に縮小していく方向だろう。利益追求型の経営者にして資産家で、川原泉の『メイプル戦記』で登場するキャラクターのモデルでもあって、世界有数の財産を持ちながらまったく税金を払っていないことになっていて「節税家（けちんぼ）」と言われていたが、後に株式の名義貸しで配当金を隠し資産として私腹を肥やしていたことが発覚するのである。デスマンガ・エフェクトだ。

同じようにマンガのキャラクターのモデルになった兄弟で、これだけ違いがハッキリ出るか？

マツコさんも「マツコ有吉の怒り新党」でこの堤家の話は面白いと言っていたが、かい摘んだだけの説明でそれは確かだ。

『文章読本』ではいじっている方向だが、心情的には堤清二には同調できる。無印良品を作ったりして、ブランド信仰を田舎のナンタラとたとえるのも正しい。しかし、文学者として辻井喬は疑問である。はっきり言えば、皆が持っている堤さんへの偏見、「金持ちのくせしやがって」と同じ。その偏見、思い込みが速水真澄を作り出しているのも、また事実だろう。（この場合、真実と言ったほうがいいだろうか）

そんなダメみ会社創設秘話も、封印するために書いておこう。

なんでこんなこと書くかと言うと、少女マンガ雑誌で企画が通るわけないんだからさ。

この企画が通るなら、現実に出雲の阿国の踊り歌舞伎が復活しているよ。

復活していないということは、この企画も通らない。

だから安心して日記のネタにすることができる。

だいたい少女マンガ雑誌と接点なんて無い。「わくわく〇」と女の子を字義通り食べ物にした巨大ロボット兵器が出て、主人公が「お前の大切なおヒイ様を犯して殺したのは、このオレだっ！」と叫ぶ「ルナイズマイン」の作者である私が、この私が少女マンガの原作提供なんてありえない。

『恋と軍艦』とか、『明治メランコリア』とか、いろいろ少女マンガを読んでみたけど、「今の女の子はさ、持って生まれた才能や血脈の因縁から、少女歌舞伎をすることを選ばない」と、なんとなく私の考えとズレがあると感じる。

少女歌舞伎をすることが自己実現であり、大人の男と関われば恋愛ドラマも生まれて、その物語に少女たちが夢中になってくれるかという、私自身がこの物語にどこかで冷めている部分があるので、それは無いだろう。

大人の男と言えば、ダメな速水真澄のダメみには便宜的にシンイチという名前がある。

内縁の妻には、舞子という名がある。

なさぬ仲の娘は、恵。

恵ちゃんは少女マンガのお約束で髪の毛の色が抜かれている単なる非黒髪キャラだと思ったら、白人のハーフである。そこは叙述トリック的に、設定が本採用されたときに明かされる。

(『The man of the overlooking』をよく読めば大和撫子はみんな外国人の嫁におさまっている)

papa told meみたいなのをやりたいんだよ。

ちなみに恵ちゃんのお父さんは、ゲリピーではないよ。

ゲリピーだと思っていた人は、今年(こんねん)のゲリピー・オブ・ザ・イヤー受賞。スザンヌみたいな奥さんと別れることになっても知らない。

そもそもダメみの所以(ゆえん)は、自分は就職に失敗し、赤ちゃんを生んだ舞子さんが丸ノ内の大企業の総務職に就くという、そこから内縁関係に格差が生まれ、赤ちゃんの世話をすることになったのである。

ダメだなあ。

恵ちゃんが手がかからなくなった頃に、スーパーのバックヤードでパートを始めるシンイチ。それが魚の刺身を切る仕事で、期限切れの刺身を持ってきて近所の野良猫に与えるという、やっちゃダメなことをする。

それで、自宅の扉の前でランドセルを背負ったまま尻をつけている恵ちゃん。帰宅したお母さんに悩みを話す。

「お父さんが学校でネコおじさんと呼ばれている」

なさぬ仲だからお父さんと言うのはヘンかもしれないが、恵ちゃんはダメみを「自分の本当のお父さん」と思っている。それとこれとは関係なく、ノラ猫を連れ込んでいたダメみは舞子さんにこっぴどく怒られるのである。

ダメみが働く同じスーパーに、後に俳優から崩れてしまう男が野菜関係のパートをして、くず野菜をもらって糊口を凌ぐが、さすがにそれだけでは体力が出ず、倒れてしまう。

それで、自宅の扉の前でランドセルを背負ったまま尻をつけている恵ちゃん。帰宅したお母さんに悩みを話す。

「お父さんが知らない男の人を布団に入れている」

眼を輝かせて舞子さんが家の中に飛び込んで、「シンイチ君、ついに目覚めてしまったの?」と嬉しそうに、「ホモが嫌いなキャリアウーマンはいません」と、叫びだしそうな勢いで襖を開ける。

そういえば舞子さんは「ネタ クソ少女マンガ夢子のネタ」で制服着た女の子がキャリアウーマンになった見た目だ。このオチは、ただ栄養が偏っていて体を壊したダメ俳優を布団に寝かせて介抱していただけである。（残念）

あるとき、スーパーに新しいパートさんが入ったと思ったら、大学の同窓だった。結婚して子供が出来たら仕事をやめて、やっと子供を託児所にあずけられるようになったら、パートタイマーをやるしかない。

それで、自宅の扉の前でランドセルを背負ったまま尻をつけている恵ちゃん。帰宅したお母さんに悩みを話す。

「お父さんが知らない子供たちを連れ込んでいる」

眼を四つに切ったスイカみたいな形にして、「男の子は仕方ないけど、ロリータだけはダメよシンイチくん！」と、ドアを開けて、幼児たちの世話をする保父（ポリティカルコレクトネスで保育師といわなくてはいけない）みたいにエプロンして世話をしているダメみ。

これ、後にスタジオジブリでも似たようなことをしていたとわかったから、設定を変えないといけないね。なんか女性社員のために子供を預ける場所を作ったとか。左翼イデオロギーの人と同じ考えだと思われるのがイヤだから、その託児所、潰してくれないかな。それでもこの設定のまま話を進めるなら、免許が無いとダメみたいなので、会社登記などをはじめたのが、ダメみ有限会社のはじまりである。そして、役者崩れも同窓も働く職場にどんどん人が集まってくるのである。ノラ猫を集めてネコカフェをしようとして、社員全員から反対を食らう。

会社内での普段のダメみは、女性社員の小さいお子さんたちを世話する社長業をしていた。他に何もできないから。

それからパクさんでラインの皮肉を描きたい。

ラインは日本発のアイデアで、日本のどこの投資家もお金を払ってくれなかったから、仕方なく韓国の個人・機関投資家に話をして出資してもらった、ということらしい。国内投資家に話をしていないはずはない。おそらく、無料通話で客を呼びスタンプで収益確保を秤にかけて、「コスト高で利益をあげられない」と国内投資家は判断した。言いすぎだと自覚して言うが、手に取るようにわかる。ラインであれだけ繋がっておきながら、反韓国の記事を読む人間は二重人格者のような気がする。

そしてラインスタンプを今、みんな買ってくれている。売る側も玉さんですらラインスタンプを販売している。「ひる」や「オーディオ親父」「ここは何丁目かなメーテル」がスタンプになるのである。

今現在の視点から見れば、普及するものに投資していなかった。マンガやアニメでラインを模した表現を見る度に「日本の投資家はこれにお金を払わなかったのか」と、先見の明の無さに目の前が暗くなる。

『インベスターZ』で語られるべき話だ。韓国に投資家のスターがいて、その頃日本ではイノベーションがどうのこうのと声高にしている恥ずかしくないのかと。

ラインの利益は朝鮮半島の南側へ配当される。それは日本の投資家が危険回避にしる、後悔回避にしる、選んだことだ。

パクさんは在日朝鮮人、北朝鮮籍を持つ人物だけど、韓国にもルーツが無いわけではなくて、そこを辿っていき、資産家にダメみ会社の運営資金を出させたらしい。

そういう『暁のヨナ』みたいな話がある。

一応、言っておくと宗教劇を歌舞伎は起源とする説はあるが、大陸からの文化の流入で歌舞伎が発生した説は、私が知る限りは聞いたことが無い。南蛮渡来であって、清や朝鮮から由来した説はどうやら無い。

おじいさんが一時期朝鮮にあった帝大に在籍していたパクさんは大学の同窓の中で、まあ優良な人物であるが、一部二部上場の大企業には入社できず、ホワイトカラーになる道が絶たれていた。

それで飲食店の雇われ店長だとかをしていた時に、ダメみにリクルートされる。というか、舞子さんに「会社を興すならパクを経営に入れろ」と諭されてパクさんを資金面の会計役員、金庫番で招聘する。コリアンを会計にさせて大丈夫かと思う、排外主義者がいるかもしれないが、悪いことをする人間は日本人だろうと、誰だろうといるだけだ。

三世の彼が本貫だっけ、それを頼りに韓国の資産家に話しをつける韓流ドラマを見すぎな展開があるが、そこは想像で楽しんでいただく。「南座へ参る」は、少女マンガにならないのだから。

「日本人が出来なかった女歌舞伎復活は、海外の人の尽力がもしあったなら、出来た」

と、思うのは私の個人的意見に過ぎないだろう。これではプロジェクトXにならない話。取材前段階で局長あたりにダメを押される。外国人を騙して「偽りのブランド力つけました」って、良心的なテレビマンには放送できない。公共放送でそんなもの流したらいけない。

だが、実際は「海外の人を出し抜いた（騙した）」という国民性を慰撫するから人気を得たソニーのトランジスタラジオのような、関川夏央さんが「これを読んで溜飲を下げているようじゃだめだ」と、『沈黙の艦隊』の読者に警句したように、よくない。

これ言うと叱られるかもしれないけど、メンズオンリーだから言えるが、バックラッシュが起きてから、少女マンガは後退していないかな。因果関係がハッキリしているわけではないので言い難いところがあるが、不況で売れなくなったから保守化が進んだのか、バックラッシュが起きたから少女マンガでクイア家族などの「家族の思考実験」をやめたのか、実際のところは本物のマンガ評論家に聞かないとわからない。「お見合い結婚でいい」「政略婚でいい」は、時代に逆行しているようで恋愛結婚のレールの先にある「家族の思考実験」の研究結果が芳しくないことがわかっているから……

もうちょっと、理路説明・脈絡を語らないといけないが。

だか、ここで一度執筆をやめて、藤本由香里さんの『私の居場所はどこにあるの?』を読み返して、「このマンガ批評本を読者に読んでもらった方が意味が伝わる」ということで、読者の皆さんには読んでもらって、このあたりの話は終わりである。本のセールスマンならリンクを張るだろうが、本は売れないので張る意味はあまり無い。

あの本では女同士の実験家族、つまり「家族の思考実験」のマンガを批評しているが、そういえば「家族の思考実験」を見せないから、少女マンガから男性読者が離れたという仮定がありそ

うだ。今は男性誌の方に、それが求められている傾向がある。『恋と軍艦』の西さんが『たーたん』を連載して、田亀源五郎が『弟の夫』という本物のクイア家族の物語を語っている。

もう一度、「家族の思考実験」をやろう。

だから、ダメみ一家の擬似家族があり、カンパニーという形の拡大家族があり、そこから繋がっている拡張家族が出雲座という、現実のリアルではなくフィクションを描く上でのリアリティーはしっかりと築かれている。原作者としてそこは用意しておかなければいけない。

それがイヤだったら、高橋源一郎の短編「mama told me」を読め。

ただ少女歌舞伎という、梨園の娘たちの「居場所は作れませんでした」という現実のオチがあるので、この擬似家族があったとしても「南座へ参る」ってマンガにならないんだよね。「絶負」を書き終わった（ほぼ永遠に中断）ことだし、「ボクには他にやるべきことがあるから」と、たいしたこともやれないのに“口だけはマイケル・ジャクソン”なので、歌舞伎に関係ないことばかりえんえん語ってきたけど、ゴトチヒだからいいよね。

（南座とは「彼女たちの居場所」だけど通過点に過ぎないからな）

注意書き

少し調べたら、第二次産業に運輸と流通が含まれると思ったら、第三次産業に含むらしい。第二次産業は原材料の加工と運搬ではないのか？ 原材料を生産しているはずの鉱業は第一次産業に含まないとか、いったいどーいーことなんだ？

女の子には知られたくないよね。女の子は恵ちゃんが入りたい高校の文化祭に連れられてきたのがダメみで、papa told meみたいに奥さんの前のダンナの子だっけ？ それと設定を寄せているとか、知られたくないよ。

同窓の女性社員が二人目が出来たら、ダンナさんが浮気していた話もあって、結局別れることになるゲリビー・オブ・ザ・イヤーなことがあったのも、女性が見ている場ではね・・・「奥さんがキャリアを諦めて子供を産んだのに、それで浮気したら駄目だろ」と。ダメみは「何があっても、応援するからね」と舞子さんを通じて、離婚を決意する彼女に伝えようとして、舞子さんに「シンイチ君は私のだから、そんなことを他の女に言うなんてダメよ」と怒られる。

さよなら、岩田社長

7月11日、岩田聡社長が死んだ。

もちろん、社長不在となった任天堂には、もう一つ語っておかなければならない出来事がある。

前から胆管腫瘍の摘出で健康面を危惧していたが、『ゴトチヒの横本』の四コママンガでからかったために、デスノートのようになったみたいだ。ジョブズのスリップストリームをした人が、ジョブズのように死ぬなんて、あんまりだ。とは思う。

その哀しさがあるが、岩田は生前に遺恨がある。

仕事を遣り残したと思う。

任天堂の元社員が、告発している。

聴覚障害者である社員に退職を促すために、ソフトウェアの製品チェックに転属させて、果てに自殺未遂まで追いやったということだ。社内失業という言葉があるが、これが事実上の社内失業なら、けして穏やかな気分になれない。

川上量生の「週文」の連載で岩田社長の生前に触れているが、同時にサイコロ型の社屋（風水設計）には窓の無い部屋があるとも書かれている。想像するに窓の無い暗い部屋で本来の仕事ではない、ソフトの製品チェックを聴覚障害者にやらせていたのだろう。ちゃんと音が鳴っているか、音響演出が正しいか、まったくわからずに暗い部屋で調べさせているのである。

任天堂には前から、こういうことがあるんじゃないかと、疑っていた。

日本の大きな企業なのだから、後ろめたいことは、過去に反社会的勢力との関わりがありそうな事以外にも、あるだろうとは思っていた。太田光をいじめた松本人志と宮本茂が『ピクミン3』の販促動画に出るあたり、何かあるんじゃないかと思っていた。

その気がかり通り、やっぱりあるのだという用件が出てきた。

まだ真相はわかっていないから、大手マスコミは様子見といったところだ。（2015年八月現在）

仮に真だとしたら、こういうことを正しく処理できなかった点で、岩田社長の経営統治能力は断言しよう、無い。一応書いておくが、今度も佐村河内守のようなことがあったら、「オレのウニにドロを塗ったな」と元社員の人を批難する。

死人にムチ打つようだが、高橋がなりが「マネーの虎」で「病気になるってことは能力が無いってことだ!!」と言っていたように、つまりパフォーマンスが悪かったということで、それが如実に人事面にも出ていたということだ。ここで彼の経営判断能力は優れていたとか甘いこと言うと、遺された側が勘違いしてしまう。

「任天堂の信者なのに任天堂の不祥事に甘くない」

と、思われるかもしれないが、こういうこととは関係無い…いや、信者だからこそ厳しいのだ。変に庇ったりすると、本当の宗教団体で性犯罪者をかかまう『フロム・イービル』みたいになってしまう。あれはカソリック系統で、性質がかなり悪い。つまりは信者がいたから教団を悪くしたように、信者がいたから任天堂を悪くしたかもしれない。

ピョコタンとかに、「あんたらみたいに、ローマ・カソリック的な甘やかashiをしていたから、こうなるんだ」と宗派間対立の火種を作るかもしれない。

その点はおいおい、議論となっていくだろう。

どの業界でもそうだが、良い時に悪い眼が育ち、それが一気に開花した事案と思える。2008年頃の業績はよかったが、ここ三年の岩田社長晩年期は、連結で赤字に転じている。業績が良かった時に人間を増長させ、業績が悪くなったら簡単に社員を切り捨てる。まるでいじめ隠しする教育機関みたいだと思う。

そもそも、株式償却を目的に遺族株（通称山内株）を内部留保を使って買ったのは、正しかったのか？ そんな金があるなら、障害者を雇い続けてもいいはずだ。創業者一族の誰かに社長を任せて、社内政治させないという方向もあった。岩田社長を番頭として仕えさせていたなら、番頭制にすればよかった。生前の山内はオーナー会長として、それなりの経営安定を与えていた。

駄目な企業はこういう問題を起こす。

ソニーがハッキングされた時、役員衆が役員報酬を減らして、セキュリティ対策費にあてようとかしなかった。そういう会社と一緒にいる。これは今でもプレイステーション・シリーズのネットワークサービスにログインしていると、危険だと思う。IT関係者が「それはクラッキングされて当然だろ？」と驚くようなセキュリティの低さがあったのだから。

任天堂はダメな企業になっていたのだ。

タグプ金庫の話任天堂側に持ち込むのは、やはり正しくなかったのだ。こういう問題を起こす会社が本当にCSRで公共財団を作ろうなんて、思うわけが無い。企業には百数人に一人、障害者を雇わなくちゃならない労働法関係の法律がきちんとある。障害者を排除するようなことはそもそも法的に論外であって、最近の言葉でわかりやすくブラック企業なわけだ。

生前に岩田社長にインタビューしていたら、「在日の方を社員に採用しているか？」「なんで女性役員がいないんだ？」と聞いていたが、答えがわかった気がする。

そういうことはしない会社なのだ。

それが古式ゆかしい伝統なのだ。

LGBTにやさしい会社というのも、ポーズに過ぎないかもしれない。お客様に見せている見かけだけ。

「オレがジャーナリストだったら、あの頭のよさそうな仮面を引き剥がしてやる！」

と、思う。

もう亡くなられたので、それはできないのだが。

彼が名番頭であったのは確かだが、それは良い面しか見せられていなかっただけで、これから経営学的な評価にさらされたら、オセロがひっくり返るかもしれない。

元社員の告発が事実なら、子供たちに任天堂の商品を買ってほしくない。

任天堂の製品を買うのは、しばらく止そうと思う。『ファイアーエムブレム』の新作も、話を考えたキバヤシのためにためらっていたが、真相がはっきりするまで保留ということにしよう。
(といつつ中古品を買い利益を与えない)

もちろん、まだデマゴギーの可能性はあるよ。それでも今はまだデマゴギーである裏づけも、ではない裏づけも無い状態だからこそ、自分の意見を言っておかないとまずい。従軍慰安婦問題

の吉田証言が虚偽であったと認めてから、朝日新聞で池上さんが後出しジャンケンをするのと同じでは、ダメだろう。

デマゴギーではなかったら、良識派も、この件を皮切りにビデオゲーム・バッシングをしていい。告発が正しかったら、一斉に任天堂を攻撃していい。手を緩めるな。なぜなら、ほとんどの人間は任天堂に対して、興味が無いからだ。

叩いても、誰も困らない。

こうしたバッシング後に業界が再活性化できないなら、後は滅ぶだけだ。市場は海外ではまだ成長性を保っているが、国内消費はほぼ1周した。その後で、消費者が戻ってくるか、真に任天堂が試される時だろう。

社長が亡くなったから、業界としても「お悔やみモード」でうやむやにしたいだろう。告発が真であった場合、行政処分が厚労省から下るだろう。雇用問題であるし、さらに京都はいまだに共産党が強い。労働者を切り捨てる企業に、本当に未来はあるのか？ 京都に未来はあるのか？
そういう問題だ。

岩田社長は死んだ。

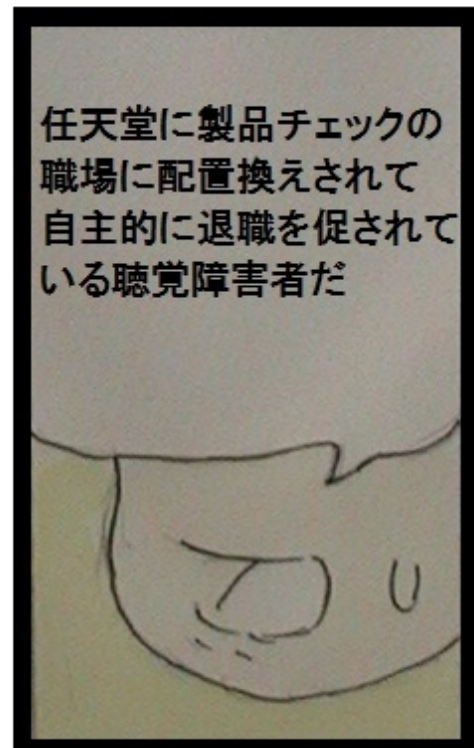
それはもちろん悲しい。

だが、それでこれから良くなる保証があるわけではない。

これから「さよなら、任天堂」になるかは、今後にかかっている。

本当は社長業をしていて時間が取れず、RPGをやれないと漏らしていたから、天国では思う存分RPGをプレイしてほしいと書きたいが、遺された者を甘やかしてしまうから、書けない。

天国に行ってからやっと、自分がプログラムを一から打ち直した『MOTHER2』をプレイできるのだ。それから、カッコイイと思うものに「6502」と付けて、PK6502と思い出したようにネスは言うのだろう。



読唇で見えてるよ

テレビ番組の「福山ッスル」でスポーツしている福山潤を観た。これからは江口拓也のことを「エグッ」と呼ばなければいけないとわかった。そうか、野島兄弟は現代の納谷兄弟のような存在ではないのだ。

潤氏と言えば『スマブラ』でロイの声をあてた頃、『リーンの翼』でエイサップ・スズキ君が「これは夢だ！」と叫んだのも、もう一昔前だ。

この十年間を振り替えると、iPadが壊れる、ロードレーサーを盗まれるなどを思い出す。ロードレーサーを盗まれるというのも、元々アニメの『弱虫ペダル』に出てくる関西の子の声をあてて、マンガを読んだ少年か女性読者のように影響を受けてロードレーサーに乗るようになり、ちょっと高めの品を買ったらドロボウされてしまったようなのだ。それでもめげずに、ロードレーサーを買い直して乗っていたら転んで肩の骨を折り、「一ヶ月で治す」と宣言して治らなかったのは、単なる噂で確証は無い。（こうやって話を盛るの、良くないよね）

他にも事務所を設立して、馬車馬のように働いていたのも覚えている。坂上忍が年末にボードレースにその年に稼いだ金をオールインして負けたら翌年、馬車馬のように働くように、一部から「こいつ、こんな働きづめなら死ぬんじゃないか？」と危惧されたぐらい、会社の運転資金を稼ぐために働いていた。

NHKの野生動物の観察記録番組でライオンの声をあてるのも、ジュニアクラスなら、泣きそうになるぐらいの低賃金労働である。

（以下 金に汚い…経済人としての話が続く）

これ以上は、『声優列伝』の話だよな。

お金を、いただかないと。

シリング城 子良成長等

02498-20808

49293-81827

電話線外は必ず電話で事務を扱いますのでお電話ください

たとえば、『スマブラ』でロイの声をあてたから、『中二病でも恋をしたい』で「スマ（ここでP音が入る）ラで言えばダメージ300%か」と言う台詞がねじこまれたのだろう。

潤氏のいい、思い出である。

『Gのレコンギスタ』で監督から、再び声をかけられなかったのは、ちょっと残念であった。

『横本』のジョイメカ史が無かった理由

あれ、よくないね。実はSSLBでスカポンが川に流されて、掃き溜めにいる設定だったじゃない？ ストーリー上の演出でキマイラフラワー戦にて、アシストフィギュアとして使うと泣きながら攻撃する。キマフラも動かなくなる。

そんな本書の荒んだ読者向けではないことをこれから書く。



スカポン泣くんじゃねえ

長らくジョイメカは権利関係が謎だった。

新作が作られなかったのは、その点が問題であった。

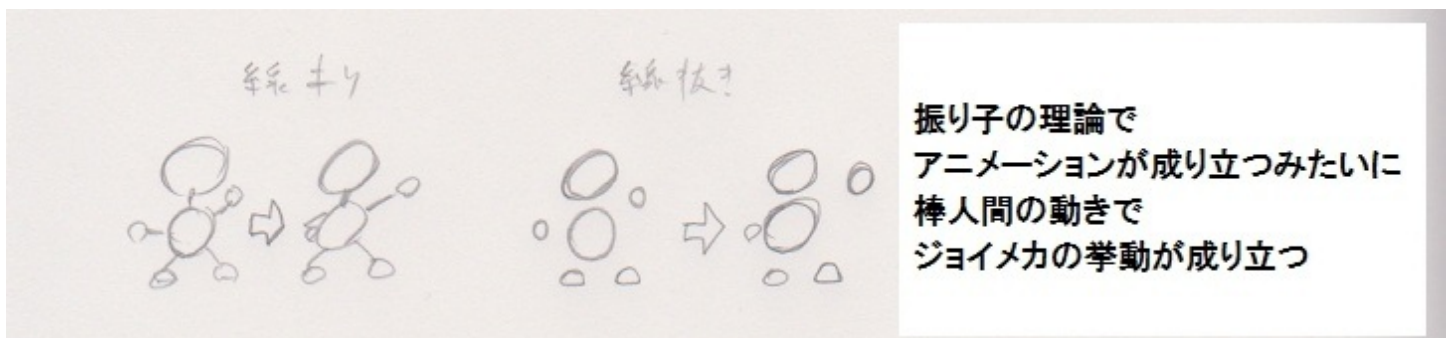
それを知らなかった。

本当に知らなかった。「信じて下さい」と“信用組合”のカードを出す最上徳内と同じく、信用してほしい。

契機となったのは、最近Wikipediaを覗いてたら、ジョイメカファイトの欄に書いてあった情報に拠ると、2007年頃にバーチャルコンソールを出したいから、権利関係を整理した。

それまでは、どういう風になっていたのか、著作権法関係にも強いはずの最強法務部でもわからなかったらしい（ここで『クローズ』みたいに「最強程度が最高に勝てるわけねえだろ！」と言いたくなるのを堪える）。開発していたのはダイヤモンドヘッズではなく、任天堂開発第一部である。電通関係で人材育成されたスタッフ（ジャックと豆の木？）が主体なそうだが、バーチャルボーイを作り始めていた頃の横井さんの下の下あたりにいたスタッフである。

すると、ジョイメカは棒人間だと氷解した。



横井さんのラクガキ帖のキャラクターが棒人間で、タイガー立石が描くマンガのような展開を四コママンガで表現されていた。棒人間の胴体から伸びる線を抜くと、ジョイメカになる。

ここまでわかれば、もうジョイメカが作れる。当たり判定を見えないワイヤーフレームにするとか、いろいろできそう。

これで「明日からジョイメカを作れ」と言われたら、いつでもできる。

聴覚障害者を辞めさなくちゃならない任天堂に、そんな資本はもう無いけど。

「ラノベ作家超級講座」で話は終わって、後は枝葉を付けるだけの「ルナイズマイン」を鋳潰して、イーモン博士とワルナッチ博士（ワルモン博士じゃなかったのが復活）が同性愛者であるのは、LGBTのために残しておく。ここはブロック、死守。新しい任天堂の社長でも、この信念を曲げてはいけない。

耳が聞こえない人が閑職に追いやられているとか、ストーリー上付け足さなくてははいけないことをしている。

もちろん元ネタ ジ・オ

ジュピターサイクル達磨

惹可の後継機

宇宙の西に行ってきた善なる一体と
最後の資本家が生み出した悪の三十五体のひとつ

新作を出したくても、権利関係が不明で掃き溜めにいたようなジョイメカ。本当に川に流されていたのである。それを知らずにストーリーに組み入れていたという備忘録であった。

偶然って、恐ろしいね。

もうひとつ、ゲームビジネスがうまくいって、過去作のリソースをそれほど使わなくてもよかった時代がずっと続いていた。ジョイメカの新作を出すよりも、シリーズ化された作品を作っていくだけで、けっこう儲けられた。早くジョイメカのामीボ作れば良いと思うけど、社内に混乱があるからな。

取金教授は渡さんのために全ての辞書に発音記号を書き加えている。それを言語学の弟子が読む。藤森教授が劇団ひとりに、そういうことをしている実写映像がほしい。

近衛おやかたを観忘れた

近況があるとすれば、もう三・四ヶ月お目にかかれていない、「東京トホホ会」みたいなネタがある。完全電子化で「週アス」をまったく読んでいないのだ。

それがトホホではない。ゲーム業界では有名な夢磨さんがいるがそんなものとは違う秀磨、近衛秀磨さんのドキュメンタリーを観忘れてた。

八月八日の土曜日にBSの3チャンネルで放送があったらしい。

うっかりチェックを怠って見逃した。

トホホ。

間違える人はいないと思うが、近衛文磨のドキュメンタリーではない。その弟、母親が違う秀磨さんの話である。五撰家の一つ近衛家の生まれで、音楽家だ。彼が「三文オペラ」の序曲の指揮をしたものを聴いたことがあるので、いったいどういう人物なのか、興味本位で観るつもりだった。一応、ドイツに留学したのか、そこでブレヒトと会っていたのか、それを知らなくて、そこを知りたくて番組を楽しみにしていたのに、うっかり見逃したのだ。

それにしても、支配階層を皮肉った話を、旧華族である彼が指揮をするなんて、皮肉に皮肉を重ねているように見えてしまう。なのだが意外にも、「三文オペラ」の主人公に感情移入できる部分が本人にはあったかもしれない。（有名なセリフ「不倫をあまり追求するな」）

番組を見逃したので、その代わりに『近衛秀磨』副題「日本のオーケストラをつくった男」を借りてきて、その書をパラパラとめくって読んで、この日記を書いているので、盗作疑惑は事実無根。

秀磨はマエストロで彼が指揮棒を振ると、いい音が鳴るタクトマジックの持ち主である。名指揮者は何故か名演奏を引き出す。クラシック業界では皆が知っている業界常識であるが、原理が謎で解明できていないため、本人もそれを自覚していたのか、冗談まじりで「感情に任せてタクトを振るう」のようなことを言っている。

番組では戦中にユダヤ人を助けたということで、本人の功績を礼賛する内容だろう。近衛伯爵管弦楽団（オーケストラ・グラーフ・コノエ）を率いて、ユダヤ人を逃す、映画にしたらアカデミー賞が取れそうな史実である。

ただ、幻滅するかもしれないが、もう戦前のことだから、彼を許して欲しいが、たくさんの女性との間に子供をたくさん設ける、現在の言葉で言えばビッグ・ダディである。堤清二のお父さんも、こういう感覚の持ち主だった。「なんたら」の虜バラードである。

認知児が七人で、それよりも多くの子供が確実にいるらしい。

「さすが、おやかた」

と、褒めていいのだろうか。『のだめ』のホルシュタインも同じく…逆かもしれない。ホルシュタインのモデルが秀磨おやかたかもしれない。

全部が全部、善である必要は無いから、そこは番組では語られなかっただろう。ただ彼が善意でユダヤ人を助け、ドイツに戦争を起こされたらすぐに負けて、自分たちの立場を得るためにユダヤ人を売ったらしいフランス人に見せつける内容であればいい。

ただ、全部が善であると、いけないところは、日常生活の方である。

3DSのすれちがい通信で、

「任天堂 告発」見た？

と、メッセージを入れると、「見ず知らずですれ違うのも多生の縁」の人たちにブロックされるようになった。自分の中では「すれ違うのも多生の円切り下げ」で、元の切り下げに合わせた通貨安競争に突入。それで紙の原価が上がってしまい、雑誌「宝島」が休刊である。去年日記に書いたことが当たってどうするんだ。

それはそれで、これは「全部が善」をすれちがい者に求めても仕方ないし、任天堂のやったことだから、筋が違うのではないかと。聴覚障害者を聴覚が必要な職場に転属させる社内失業は、してもいいと認めたことにならないか？ それは自分の立場が保てれば、ナチスドイツにユダヤ人を売るフランス人と変わらないのでは。（エクスクラメーションマークではなく句点をあえて打った）

女性問題に関しては言えば、今ならゼツタイに褒められたことじゃないのは、もちろんわかっているし、金銭面で脇が甘い近衛おやかたの場合、五撰家出身で戦前で身分階級制度が残っていて、女性に投票権も無い時代で、こういうことをするのが、残念ながら咎められなかった。

ここで、原監督をあれだけいじっておいて、秀麿おやかたに同情的で弁護していると、感じた方もおられるはず。「辻褃なぞ合わなくともよいのだ」と居直ったりしないが、秀麿おやかたは関東大震災で……それからいろいろあり、敗戦を迎え、ご存知のように兄・文麿は敗戦の責を取るつもりだったろう、自決する（服毒自殺）。そして戦後は秀麿おやかたに、辛くあたるような世間の風潮もある。それは彼本人に前述したような女性問題があるのも確かだが、その他にも同情できる点も多くある。（この記述でわかるように実際に本を読めと誘導している。わざと書いてないんだモーン）

『近衛秀麿』を読んで、謎がひとつ解けた。

おそらく私が聴いた近衛秀麿指揮の「三文オペラ」は、近衛版といわれる秀麿さんが独自に編曲したものを楽団に演奏させている。最近ではやらなくなったけど、昔は原譜通りには楽器や音響機材の関係で演奏出来なかったのが、器機の進歩で原譜主義になったらしい。

私がオープニングのネームを切るために千回聴いたものは、おそらく原譜通りに演奏されている。私がアニメの『響け！ユーフォニアム』の監督なら、滝先生に原譜には無いパートを、“オーボエの覚醒”として挿入させるかもしれない。（プロなんだからあらかじめ作曲家に頼んでやるよ。だいたい「サイレントエフェクト」でおんなじことやってるよ）

今月は本にアタリが多かった。

『世界は土曜の夜の夢なら』もよかったし、『赤毛のアン』の音楽担当者（新垣隆の師匠）の話が載っていた高畑勲さんの本も面白かったし、『近衛』も全部まだ読みきっていないが、よかった。

逆に、番組を観なかった方が、よかったのかもしれない。

偶然、「ねつもじ」と「そこあに」で偶然リンクする話があった。ホリッコのほり太氏が「日本版アベンジャーズ」として、石ノ森世界観がベストと語っていたが、

「そこあに」の増刊の方で『幻魔大戦』のリファイン作品をてがけるマンガ家（石ノ森のアシスタントを長年勤めた人物）が、本編の『幻魔大戦』には石ノ森キャラクターたちが意外にも多く出演していることに触れていた。つまり『アベンジャーズ』みたいなことになっていると、話しているということだ。手塚スターシステムから影響を受け、石ノ森スターシステムがどれほど『幻魔大戦』に適用されているのか、今となってはわからないが、偶然の一致は僥倖として一筆すべきことであろう。

（情報をわざと抜いて、閲覧者に調べるように促している。それにホリッコじゃなくて、ホロッコだしね。「『アベンジャーズ』みたいのやられたら適わないよ」と語っていたのは、たぶん「ぶらぶら美術博物館」の散歩の途中で寄った特撮博物館にときに解説した仏田さんじゃ？）

スタンリーがファーストネームの本名なんだけど、アメコミの話を作っているなんて大人社会でバカにされるから筆名にしたらしいスタン・リーと石ノ森章太郎がどれほど似ていたのかを問う話題は避けるとして、言葉の糞尿主義者でアンドレ・ブルトンが大好きな私が、「ゲームラボ」の特集の「クソゲー&バカゲー」が嫌いなはずがない。

とにかく明るい安村の「しんぱい 入りません！ 穿いてます」の元ネタは『里見の謎』というデマゴギーをうっかり拡散したくなるぐらい好きだ。『里見の謎』を一言で説明すると、ゲーム版『アベンジャーズ』のようなものと、今までの流れから説明したくなるが、「縦にしか進めない」とか、水面にレーザービームを射出する竿があったり、現在のゲームレギュレーションではやばいフレーズがあったり、読込み法を真似した『ドラクエVII』でバグが頻出するという「そこはマネるんじゃない」と、夢麿も天国で言っているに違いない。（まだ生きてるんじゃないか？）

クソゲーライターは、実は大変だ。

ゲーム誌が広告に支えられて安価に提供されているのは、子供でも知っていることだし、逆に広告があるために立ち読みをしてもらってもかまわないメディアになっているのだが、これは『おとなのしくみ』の「広告のしくみ」の回でメカニズム（この場合ビジネスモデルか）が書かれているので、そちらを読むように。あの「ゲーム批評」でも同じ出版社から出ている「二次元ドリームマガジン」で広告をとるようになると、「暮らしの手帳」のように出来ていた名指しが、できなくなる。（『辞書になった男』を読むと、「犯人はお前だ！」と明解辞典が誤用を書いたと名指しされる）

ぜんぜん説明になっていないが、ゲーム雑誌はかなりゲームメーカーに気を使っている。

ゲームライターは、ゲームソフトの悪口をクロスレビューのようなものでしか、言えない。悪口ではないが、『妖怪ウォッチ』ブーム終焉のはじまりも、ふくみっちゃんの奥さんが買い控えるシーンをマンガに描いて、なんとなく「空気」「流れ」が描かれていることでしか、載せられないように、ゲームメーカーサイドには気を使っている。

「予約しようか」とダンナさんが気を利かせているのに、遠慮するなんてブームが翳っているとわかる。九州弁で「予約に決まっている」と言うはずなのに、しないわけだ。ブームが持続し

ているなら有無を言わず夫に予約させるのだが、ゲームメーカーに気を使わなくていいのだ。

それは投売りされているニュース記事を、逆にブームの仕掛け人的なニュース記事を出して打ち消そうとしても、ブーム終焉の火消しにはならない。事実、近所のコンビニでもワゴンセールの中に関連商品が値引き販売されているのを見かけた。それは『レイトン』や『ガンダムAGE』の頃にも見た光景だった。

……ちょっと書きすぎた。

アニメの『妖怪ウォッチ』を観たら、そのままのことが放映されていたことにして逃げよう。

ライターといえば箭本さんは、本業があってライターをしている。ゲームをプレイしつつ、記事を書き、昼に働くという生活をしているらしい。雑誌「ゲームサイド」の連載をまとめたものを、リンクとして貼ろう。

アマゾン・キンドル

[箭本進一 『放課後、ゲームセンターで』](#)

これでいい。「本のセールスマン」では多根さんの著作を意地でもリンクさせていなかった私は、箭本さんの著作ならリンクを自発的に貼る。銃口をこめかみにつきつけられ「お前を今から殺すが、アマゾンへのリンクを貼るなら、見逃してやってもいい」というなら、リンクを貼る。命が惜しいから。（便宜上、さんづけしているけど本当は呼び捨て）

そんなギャルが出てくるありとあらゆるゲームを知り尽くした多根清史は『超クソゲー』で、そちら方面を担当することになる。

そんなこんなで『プリズマティカリゼーション』とか、エコーソフトウェアの素晴らしいゲーム、もしオープンワールドで作れたら日本の『GTA』になっていたとされる怪ゲーム『ドリームジェネレーション』をプレイして記事を書いていたのである（ゲーマーにやらせていたと思うけどね）。そしてね、セガドライバーでもあるので、メガドライブの名作ソフトを紹介している。

しかし、箭本と多根さんには、決定的な違いがある。

箭本進一さんには、格闘ゲームに愛情がある。だから、アニメ雑誌の編集者である小黑さんを起用するみたいに、格闘アドバイザーとしてスタッフの皆さんに好きなだけプロレス技をかけさせてあげたいという、心酔がこちらにはある。（自分から心酔があるという奴は信用できないがね）

簡潔に言えば多根さんは愛の無いのいじりをしている。それはなんとなく読めばわかるだろう（お笑い芸人なら「関西の人はアタリが強い」というフォローを入れるけど入れなくていい）。多根はただヤリステするだけ。こうかくべきか、プレイしてステる。プレイステーションである。「1、2、3。」「1、2、3。」で発売日を連呼し、ちょっと、翌年のオウム事件を連想する。

完全にプレイステーションをディスっているように見えるが、これらは全て多根さんの記事に書かれているということにしよう。すべてコピー&ペーストをして書いたという、デマを皆流そう。敵対勢力だと、いくらでもデマを流されるのは、「歴史修正主義とは何か」で語った。

ところで、私がトレジャーを高く評価しているのは、多根さんが前川社長のインタビューをしているとか、『ガンスターヒーローズ』のゲームレビューを書いてそれを読んだからと、私がトレジャーをひいきにしていると本人が悦に浸っていたら、

「いい気になるなよ」

と、多根清史に言いたい。

これは“土曜の夜の夢”を見ている人への牽制でもある。牽制のために樂茶碗をパリーンと割る。いろいろゲーム企画を考えたときにデベロッパーをトレジャーにチョイスするのは、自然な流れであって、別に多根さんの影響じゃない。他のデベロッパーでは無理だから、「サイレントエフェクト」をトレジャーで作るのは必然だろう。いくなんでも、ゼルダチームで「サイレントエフェクト」を作るなんて、理想的過ぎて、地に足が着いていない発言になる。現実的な折り合いとして、トレジャー開発希望なのである。それでもう、ゼルダチームでは開発できないものになってしまったが。

それにしてもびっくりしたよ。

「オトナげないアニメ」が復活したのだ。またアンケートハガキのつまらない記事の欄に、つまらない記事として推薦しなくてはいけない。こんなことはつまらないから二度手間だ。

こんな連載を復活させるなら、アニメ会の記事を復活させた方が、よっぽどいいに決まっている。読者からのお便りを読んでる途中で電池がバクハツする。

そういえば、ビートたけしが「アニメの話しているだけでいいって連中がいる」って、いつかどこかで語っていたが、それはサンキュータツオらアニメ会のことだとやっとわかった。

情報発信番組「TVタックル」にタツオさんがレポーターで出ていると思ったら、米粒写経はオフィス北野所属である（番組のナビゲーター江口ともみはつまみ枝豆の嫁）。それでたけしさんが事務所の弟子・後輩たちと交流があったときに、「お前たち若いのは、最近何しているんだ？」と聞いたら、「み～んなでアニメの話をしてますね」と、正直に答えたのだろう。国語学者なので国語辞典のマニアックな話題、ケンボー先生と山田先生の確執だとか、事務所の創設者には言えない。（聞かれた時期はまだ確執が判明する前だと思うけどね）

私が言えることは、それをBLやメンズラブとカン違いするのはだけはやめてほしい。

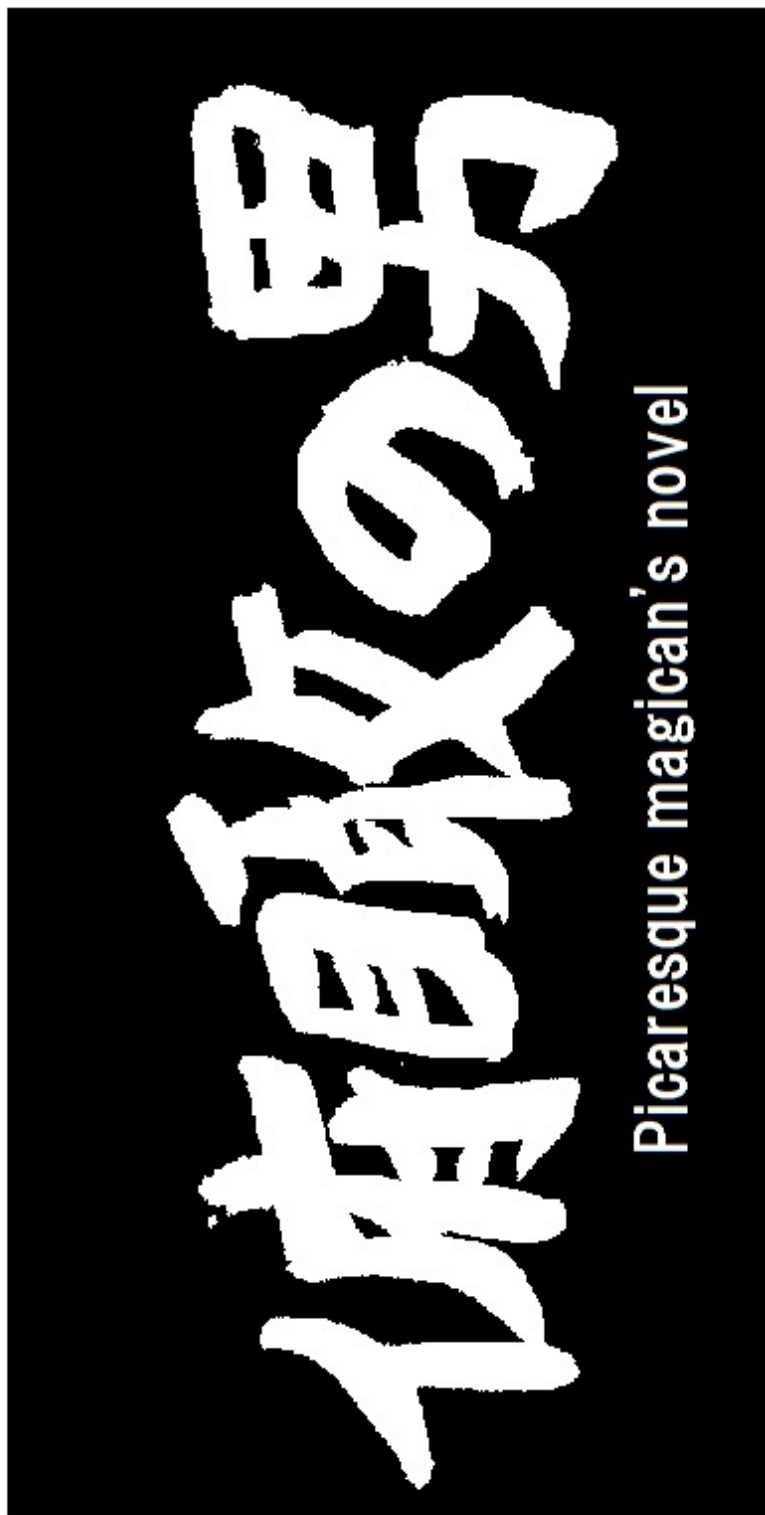
「リベルティーナの諸君。新解さん×三国とか、やっていたら、許さないぞっ！」

なんだかよくわからない展開（前振り）をしているが、クソゲーの話題が雑誌に載るとするのは、まだ幸福な時期で、ゲーム業界にはまだ眠った資産があると、このご時勢でも振り返ることができる。

時間が経ったら、この場のようなネットの片隅にしか、クソゲーの話題は無いかもしれない。クソゲーバッシングでメーカー側が過敏に反応している状況は、まだいい方だろうが、やがてクソゲーなり、分割商法なり、DLC課金なり、男同士で支援Sなり、なんなり、そのバッシングが無くなったなら、業界が本当に落ちてきた兆候である。

ふくみっちゃんの奥さんが買い控えるのが、ブーム終焉の兆候だったとわかるみたいに。

広告



The man of the overlooking
を全部収録

ふくみちゃんと勝手につけた愛称で書かないと、本人がエゴサーチして記事を読むから、このような防衛策を取らないといけない。我々は別に話題にした本人に読まれるために書いているわけではない。我々とはいえない私は、広告のためにやっているけどね。

最近聴いた音楽

近衛おやかた指揮の「三文オペラ」のオープニングを聞いたり、いろいろ聞いたりしている。別に音楽が必要というわけではなく、常に聴いている。

久石譲の『風立ちぬ』と『かぐや姫の物語』の劇伴のCDを借りてきて聴いて、「動画サイトでタダで手に入るのに、こいつは情弱か？」と批判されるようなことをしているが、それでもいいじゃないか。情弱だからって、クインシー・ジョーンズから取られた筆名だって知っている。

それにしても「旅路」と「天人の音楽」はすごい。

『風立ちぬ』では、メインテーマ「旅路」をライトモチーフにして、そのバリエーションでいろいろ作曲している。ミニマルミュージックの作曲法はこうなる。

マイケル・ナイマンの『Enemy Zero』も同じ作曲法だ。（そういえば細田守監督も絵コンテ切っている時は変な現代音楽をかけていなかったか？）

ナイマンがミニマルミュージックの大家であるのは人に言われて、知ることじゃなくて当たり前前に皆知っていることだから説明しないが、たしか「イイノはイノベーションのイノ」でも触れるはずだが、ゲームのピコピコ音はミニマルミュージックだから、機体が進歩して生音に近いモノをソフトに入れられるようになったとき、本物のミニマルミュージックを挿入したら、どうなるのかというのが、ナイマンの起用理由だったのでは？（坂本教授にオファーする予定を変えてナイマンにした）

故人については「イイノはイノベーションのイノ」でできるだけするので、「旅路」のことに戻れば、あまり言えないや。植松伸夫の影響を久石に上書きしている。

つまり、久石の影響があるなら、ミニマルミュージックを作曲して、DTMあるあるで運指できない音符を記譜してしまったり、「Bettle of *」と「ア～スタリスク、そなたは善き人だ♪ 今日という日は聖別された♪」には同じフレーズが使われているとか、アスタリスクってMなんだけど、「アスタリスクの虜バラード」にも同じ言葉をあてる。ヨーロッパの中二病患者を喜ばせる記述をしても…女教皇ヨハンナは本当にいたのか、いなかったのか？ いないのなら作る。それが創作。

大きい話、「バッハは欧州中の調律師を出し抜いて、平均律を編み出して作曲までしたね。世界中の音楽家を出し抜く作曲を、これからするぞ！」と、新垣さんにこういうことを言うと佐村河内と言っていることと同じと、思われてしまう。

「同じだけどね」

『かぐや姫の物語』の「天人の音楽」には、もしかしたら、一度しか鳴らしていない和楽器があるのではないかな。

シンバルは拘束時間の理由から一回鳴らしただけでも、他の演奏者と同じギャラになるのだが、51億円ぐらい予算に使った『かぐや姫の物語』ならできるんじゃないかね。噂に聞くラジオ選局中に流れるワルシャワフィルオーケストラに外貨をまいただけある。

（注・旧社会主義圏へのシンパシーとして、西側の金を少しでも多く東側に流すためにやったんじゃないかなと、悪い見方をするんじゃない。）

『風立ちぬ』で儲けたモノを全部、この『かぐや姫の物語』の補填にあてなくてはいけないから、製作部を解体したのだろうか。

純粋に音楽の話をしたい。

「急に関係ない話をする、安彦良和の息子さんが手伝っているというのは、『マンガ夜話』で『虹色のトロツキー』を特集されたときに、ゲストに出た高千穂遥あたりが話していた気がするが、ビデオデッキが壊れてしまったから、見返せない」

鈴木忠志のビデオは観返していないのかというと、それはナイショである。

息子さんはただのトニーたけざき好きかもしれない。

トニーたけざき好きと言えば、椎名林檎の「カーネーション」のフルバージョンを聞いた。（トニーたけざきと林檎さんは関係ない）

朝ドラ「カーネーション」のオープニングでかかっているショートバージョン（たしか二曲ある）しか聴いていなかった。

機会があって聴いてみたけど、バランスがいい。

過去曲と比べると、「莖（スタン）」はミュージシャンズミュージシャンな曲、ミュージシャン受けする曲だった。ミュージシャンは音楽性が高い曲が好きだ。DTMでミニマルミュージックを作るのが趣味の自分としては、そういう曲を嗜好してしまうところがある。

それは自主制作アニメで、「フミ子の告白」よりも「向ヶ丘千里はただ見ているだけだった」の方が、現代芸術家が集まった「デジスタ」で評価されるようなものだ。植草航の最近の仕事は『パンチライン』のエンディング映像である。（ここで石田君の最近の仕事は『台風ノルダ』でノルダにアスタリスクを穿かせていなかったと書くと、笑いがとれるけど下品だよ。いくら書き飛ばしするように書いている日記とはいえ、そんな品の無いことはできない）

ギャグマンガ好きは『ターヘルアナ富子』が好きなのよ。

開業医の医院を舞台にしているが、「手が届かない」から患者さんの腕を切ってマジックハンド代わりに使用する。「命が助かる」とか、そういうことじゃなくて、二階から一階に弁当を渡す程度のことで…ブラックユーモアが過ぎて打ち切りが早かった。でもギャグマンガ好きは大好きだ。要はクリエイター好みなのである。

話を戻すと「莖（スタン）」は、たとえるなら、「他人の顔面に自分の音楽性という熱湯をかける」ようなところがある。（これでも全年齢対象レギュレーション上、表現を和らげている）

わかりやすく言うと音楽性が勝ちすぎている。拘りすぎているPV。そもそもタイトルの意味するものはなんなのか？ どれも営業的に悪い。営業しにくい。この作品の商業的な失敗が、東京事変に向かう準備（しきりなおし）をしてしまったらう。

でも、この曲を聴いて「いずれは（自分のゲームの）音楽監督をお願いしよう」と懐に抱えるだけのものはあった。「サイレントエフェクト」で田中宏和を音楽監督に招聘するよりはマシだろう（チクリ）。ラスタファリアニズムの人には、素数探知プログラムを作曲に応用するというのは、よくわからなくて当然かもしれない。

それから時間が経って、あの蜷川さんところの実花ちゃんが『さくらん』で林檎さんを起用して、「同じことを考える人って、いるんだな。松尾スズキ流に言えば、演劇をやっている人と

見ている人の間に存在する、真ん中の人は同じことを考えるんだ」と、ちょっと思った。

そんな実花ちゃんのお父さんは今では、死にかけながら稽古で演出をつけている。すばらしい演劇人だ。この話じゃなくて、わかりやすい国家主義批判の「エッグ」の音楽監督を林檎さんはしていることに触れるべきだった。野田秀樹さんはうらやましいなあ、という話にするべきだった。

東京事変を経て、いろいろあって、単独に戻って、いろいろシングルを出した中、「カーネーション」は丁度いい。それはもちろんけして手を抜いているわけじゃない。すごく丁度いい。

林檎さんの音楽性がありつつ、受け手をさほど選ばない歌詞、なんというかタイアップのNHKを視聴する人の顔面に朝から熱湯（音楽性）をかけるような真似（全年齢対象レギュレーション上やわらげた表現）はできない配慮が功を奏している。

ドラマの方の「カーネーション」も同じ。（栗山千明の役柄は無しの方向で）

朝ドラのメイン視聴者と想定している若い女性と、数字を持っている層との乖離が、朝ドラの女性主人公の欺瞞性を醸し出しているが、糸子はそれを裁断バサミで切ってしまった。

作中でやっていたと思うが、ツギをはってなんとかした。

それつながりで綱渡りのようにスリリングだったし、実在のコシノ三姉妹の母をモデルにした伝記風ドラマであったのが、「実際の出来事だから」と納得できた部分だろう。それについては、ドラマ好きたちが語りつくしたので、いまさら言うべきことはない。

ともかく、この曲は90年代なら、百万枚売れていたかもしれない。しかし、CDが売れないご時勢がら、それほどヒットしたとはいえないセールスだったと思う。

せちがらい。

CDが売れなくなったから、自分が歌い手兼ママのスナッククラブを開店させたいと、ことあるごとに林檎さんはグチるようになってしまった。

歌詞にあるフレーズをもじって“ほしい物件は、ただひとつだけ”だとしたら、スナックバーを開店する店舗が、どうもほしいらしい。（居抜きすれば安くできますが、歌詞をそのまま書くと、ジャスラックにみかじめ料をとられます）

ポップミュージックで一応、トップに躍り出た人が、こんなしょっぱいことを言い出すのだから、音楽業界の懐寂しさがイヤでも伝わってくる。

最後にどうまとめよう。

吹越満が急に「クリエイターズクリエイターな作品を評価するって、考え物ですね」と、澄ましたコメントをすれば、まとまるだろうか。純粹に音楽の話をしたかったはずなのに、金の話ばかりしている気がする。「私は生まれながらの経済人なのだ」と、自分を知的に見せるイイワケフレーズでも書けばいいだろうか。

林檎さんは、近衛おやかたと共通する音楽性があるのではないとか、そういう発見があったわけではないからなあ。

ほんぽーと近くのコンビニに
親子らしきネコがたむろしていた



カメラで撮影しているとき
「このネコ動画を撮って
田中裕二みたいなネコ好きドスが
死ぬほど閲覧して広告料で
死ぬほどカネが入らないかなあ」
と、ビジネスのことを考えていた



にゃん
にゃん



私は生まれながらの経済人なのだ
(インテリジェンスを感じさせる言葉で金欲しがりを免罪)

『マリオメーカー』は改造マリオからきているのは、業界では有名だろう。

そろそろ「改造的想像力の現在進行形」を一旦完成させて、ちゃんとダウンロードデータを作ろう、作ろうとはしているが、満足のいく裏表紙画像ができない。ドットグラフィックでお城とか、雲とかやりたいのに。それからこれは宣伝だが、『世界樹の迷宮』のゲームレビューを完成させなくていいし、完成しなくていい。

本書が宣伝であることを忘れてはいけない。

最近、無料ビジネスの本を読んだら、本の無料ビジネスはいろいろあるから、電子書籍市場でのフリー戦略は、単純な仕掛けではなく、巧妙な仕掛けをしないと、うまくいかないらしい。すでに書店の立ち読みや図書館で読める紙製の本との棲み分けなどを、考慮しないとイケないらしい。

本来は、裏表紙なんかに凝らずに、どんどんサービス本を出すはずが、何か違うなと思って、少し力を入れはじめると、完成しなくなる。だから『世界樹の迷宮』のゲームレビューを完成させなくていいし、完成しなくていい。

ゲームレビューの本は、少し閲覧数が少ない。アニメやマンガのレビューは人気作個別なら差は出るが、平均すればほとんど差は無いけど、この二つに比べて五分の一ぐらいゲームレビューは少ないかな。（アニメレビューはターンA、マンガレビューはバンブレが一番）

一番手間がかかり、一番手間をかけているのに、閲覧数が一番少ないジャンルなのだ。

ゲーム人気が下がっているわけだよ。

実感を感じている。

もう先月になってしまうか、「オトナげないアニメ」に片淵監督の話題がある。「ゲームラボ」の旧連載陣で何故か復活したアニメコーナー、そこで片淵監督の新作がクラウドファンディングで資金を集めても、全制作費をまかなえないことが書かれていた。

片淵監督のことを触れてもらうのはうれしいが、それがあの清き多根では、「心をペンギンにして」アンケートハガキの“今月号の連載記事でつまらなかったものを順に”の①欄に番号を書かねばいけない。それが私が「ゲームラボ」に出来るたった一つのことだと思うので、「愛涙を…涙を飲んで」アンケートハガキを出す。

そういえば（ここから本題）『アリーテ姫』のアニメレビューで「第三のプリンセス」を書こうと思っても、どうしてもためらってしまう。

単純にクオリティーが高い。

ファンタジー極右の私も納得の中世表現に、「これ以上の表現ができない作品は準創造に背いたとして、始末されても文句は言えまい」と極右発言をしたくなる出来だった。鍵括弧内のある部分を「究極的実体に背いた」と書けば、極右の人の言葉になる。ということで、準創造に背いたので『ゲ-ト』は始末されても文句が言えない。

後に恐ろしいほど資料を読み込み、作品を作りこむと知る。「インポート・データ」とは片淵監督のような、アニメ作家のことを言う。私は原作の『クレバープリンセス』を読んでいる。原

作はエスタブリッシュメントな童話のカウンター、フェミニズム童話である。エスタブリッシュメントな童話は女児へキレイにしていれば王子様に見初められるというウソを刷り込ませるといふ、悪弊が目立ち、それに反論する形で原作は存在する。（リベルティーナが読者だから、プリンセスになっても雅子殿下のように幸せになれないと皆知っているからこの場で書ける…幸せになれないとわかっているから皇太子の嫁候補たちは海外に逃げていたのだろう。『マイマイ新子』も読まなくちゃ）

生まれてきた姫が賢いことが呪われたことのように王様が扱うが、「生まれた娘が賢く育ったら」うれしく思う私にはどうにも。

そうした男権主義者がいることはすでに学習しているので、驚くことはないのだが、悪い魔法の性反転、悪い魔法使いを懲らしめている。どういうことになっているか、原作を読んでもらうしかない。

映画では懲らしめを廃している。

そこに原作の持つ瑕疵をかばうというか、監督の愛を感じる。

フェミニズム童話を映画化するのではなく、子供たちに見せるアニメに仕立て直している。そしてアルチザン（職人）の大切さを説いていることに、すごく好感が持てる。

実はこれ…レビュータイトルが「第三のプリンセスアニメ」で語ることなんだけど、本来、日記でやるネタじゃない。

要はフェミニズム性を抜くということは、高畑宮崎の左翼思想性も抜かれている。だから、ものすごく片渚監督を高く評価している。

ディズニーのプリンセスアニメ、そしてその反プリンセスアニメ（ナウシカとかぐや姫）があり、さらにそこから一步踏み出した「第三のプリンセスアニメ」について、ちゃんと書くことがあったら、この点を三面摺りで比べようと思う。

それから願望ぐらい書いてもいいと思う。

『ブラック・ラグーン』と『マイマイ新子』の中間に位置する作品として、『深海回帰タウエル』のアニメ映画の監督をしていただきたいと思うが、なにぶん作家デビューもままならない自分の作品がアニメ映画になって客を満足、資本家を満足させえないので、実現はしないだろう。

それでも、アニメ化出来るなら、片渚監督がいい。監督をしていただきたい。

有名な原作のUボートの型とアニメの型が違うのは、太平洋近海まで出てきたUボートの型が、アニメの方が考証上正しいらしい。ミリタリーマニアをうならせたのである。今度も資料室に潜水艦本と深海生物の本をいっぱいにして、働いてもらいたい。クラウドファンディングは無しの方向でいきたいが、日本にはもう資本が無いから、ラインのアイデアが出て投資しないから、出来ないけどね。

タイトルとこじつけると、深海のちょうちんアンコウに生体照明のような輝きが片渚監督にはある。

よく考えたら、片渚監督につつまれそうだけどね。「どうして他のエルを捕食しないといけないんですか？」と。テキトーなイイワケではない、ちゃんとSF的な設定と言うか、つじつまあわせが必要で、そこはちょっとまだ考えない。

（文責・五島千尋）これを書かないとキンドル本に記事を流用する時、面倒。

吉富昭仁の『ローンナイト』および『ローンナイトII』を「早過ぎたハーレムマンガ」として読むか、「少年が最後の資本家と出会う物語」として読むかで、まったく評価が違う。

そもそも観察方向の角度が違う。

という書き出しを書いて、「これは『第三ライトノベル』の序文と言うか、“はじめに”で書く内容だな」と思い、「また、販促電書を作らないといけないな」とも思った。（他にも『ルートパラダイス』は早過ぎたネオンものと書くと余計ないらない情報）

無料ビジネスである。

たまったネタを整理する角度の話である。

ある観測者の角度からライトノベルを読む批評の本で、かーずSPさん（危険人物で「オタクは犯罪者予備軍」と松崎くんが意識を変えるキッカケを作った）みたいに「ブヒ」「ブヒ」言うためではない。そのために、第三のライトノベルである略称されたラノベを書けず、時代に取り残されてラノベ作家としてデビューできなかった。

皆と同じ角度でないと、商業的成功は得られがたい。

狩撫麻礼（『少女ネム』の作者）が言う、「スマップとディズニーランドが好きのコミュニティではない」のである。嫌いじゃないけど、悪口は言っている。背が低いとか、薄毛とか、「ゴローちゃん、ホントにスマップ？（名指しダメ！「サイゾー」であまりにも視聴率が取れない吾郎さんのドラマの記事を書き抜いただけ）」など、これらはすべてくう様が言ったことにしよう。

『ガッチャマンクラウド インサイト』の方でも語られるけど、「同じ角度で見ない」というのは、“空気を読まない”ことと同義になってしまう。

“入れるのは簡単で、出すのは難しい。それで皆の大好物”

このなぞなぞに別の答えがあるとするなら、皆と同じ角度だ。

アニメ史からみていくと、くう様はたくさん画面にいるときは、3Dモデリングされたコンピュータグラフィックスを使用されるときもある。3DのCGが、空気のようにいつの間にかテレビアニメに進入していることを、暗喩する。中村健治監督が意図したわけではないが、CGはもう空気である。出すのは難しい。最初は異化効果だったはずなのに。

それにしても、くう様は恐ろしかった。

どうも、アマゾンのカスタマーレビューで、ラノベの評価が荒れるのは、この空気を吸って、行動しているらしいと思ったが、微妙に違う。

歴史から見たら、神坂あかほり批判者の繰り返りで、何も進歩はしていない。90年代に神坂一とあかほりさとの著作を批判し、だんだん彼ら作者の人格攻撃までおよぶような「批判したいから批判する」という、その裏側には「いじめ主義」が裏打ちされていただろう。本来は単調なストーリーやお下劣な表現で批判していただけたのが、作者本人を人格攻撃するようになる。これはクラス内で起こることと同様であると、ここまで読めば「神坂あかほりは頭の悪い読み

物を書いている」という頭の良い批判者もわかるだろう。

ありがたいことに、彼らは卒業していった。狭義のライトノベルから卒業していったのである。しかし、大人になったのではなく、新しいいじめ対象を他に見つただけかもしれない。

21世紀が過ぎたあたりで「居心地が良くなった」と正直、いまだから開かせる思いがあった。ところが、略称のラノベになったら、新しく入ってきた読者が、卒業していったいじめ主義者と同じことをはじめる。この構図は頭が悪くなればわかるだろう。

彼らは“理解できない行動をする隣人”と思った方がいい。しかし、それはくう様のような存在で、みんな大好物で外に出すのは難しい。

「実はさ、田中芳樹を批判しているのは、神坂あかほり批判者と同じなんだ。滑稽に見えていたでしょ？ 如何に『批判したいから批判する』が滑稽であるか、わかったでしょう？」

といっても、田中芳樹への悪口は止めないけどね。「嘴の黄色い雛鳥め」とか、“永遠に落馬した”とか書けば、『アルスラーン戦記』って書けるのだろう？（実際の田中批判はこれよりも酷い事を言われている。「まともに完結させられたのは銀英伝だけ」「田中、カネ無くなったのか？」など、酷い。ドイヒーである。だから私は免罪されるということを知り、小さい字にしていたところを大きくした。まともになったのである）

さて、角度を変えて、ノベルス系統のことを語らないといけない。

舞城ちゃんの本とか、いろいろ触れなくちゃならない。

（彼女がリベルティーナなら閲覧することになるのでは？）

ノベルス系は少数精鋭、人気作しか残らない。たくさんのノベルス系作家たちはいても、言及されるのは少ない。

トマス・ピンチョン『ヴァイン・ランド』には怪しい忍者、『ニンジャ・スレイヤー』のドラゴン・ゲンドーソーみたいな忍者が出てくる。彼らはショー・コスギや千葉真一が海を渡って山ほど作られたニンジャムービーを起源としているのか、彼らの出演作を山ほど観ていないから、実際のところはわからない。

国内を観れば山田風太郎の忍術合戦、というか森宗意軒の「魔界転生」の術で蘇る剣豪みたいなのが、ニンジャ・スレイヤーの誕生譚・・・さらにこの路線から『総門谷』やポルノソフトの『Fate/Stay night』*1で、海外に渡ると『ニンジャ・スレイヤー』となる。

忍術から忍法、マンガの場合、白土の化学忍法に進歩していく。

『忍者武芸帳』を読めばわかるが、影丸はA薬とB薬を混ぜて常温で発火する化合物を紙に塗って燃やすとか、水の中にいたらエラ呼吸出来るようになる疑似進化論など、忍法を科学にして特に前者は、国内発の『ウィザードリィ外伝』で忍者が錬金術系の魔法を使える文脈となっている。（他にも硝酸を栽培したとか）

こうしたところは近代化学で、さらに進めて現代科学にしたのは、タツノコプロの『科学忍者隊ガッチャマン』であろう。蛇足は白土忍法は輸出できず、『NARUTO』まで洗練されないといけなかった。

山田風太郎の忍術は、魔法の換喩だったりするが、これを21世紀になって語りなおしたのが『刀語』だったりする。もう一度、服を脱いでレベルが上がれば、アーマークラスがどんどん下が

るのを表現されている。

それで、京都のハタチこと西尾のことを書くと、西尾維新、今思うとこのペンネーム、おおさか維新の会みたいだね。（神坂あかほり批判者と同様の発言、これでは「批判したいから批判する」のと変わらない。「そうです」）

筆名に「西をこれ新ためる」の意味があったのか、よくわからないがローカルの角度を導入すると、少しわかることがある。

まず野田さんの戯曲をライトノベライゼーションしたのが、西尾作品であるのは、疑いない。現代演劇の観客と、ライトノベル読者は住み分けられているから、気づかれていない。これがどれくらい浸透しているか、わからない。

そりゃ、そうだ。プロの文芸評論家が言ったら皆聞くが、プロになれなかったアマチュア崩れが言ってもムダだろう。それは本人にも知られることはないので、安心である。カンオケ屋の三太の言うことは、誰も聞かない。

コトバ遊びを再考すると京都の言葉遣い「ぶぶ漬け」問題だろう。それをどんどん発展させているのが、小説の中の言葉遊びだろう。論理の稚気表現である。

ミステリーはともすれば、論理のルドゥスになるのを論理のパイディアとして、言葉遊びを少しずつ小出しするのが西尾のやり方で、『すべてがFになる』は論理のルドゥスが強い。ルドロジーの視点からだとこうなる。本当は「密室であって密室ではない（密室であるならパーフェクトクライムが成立してしまう）」という、複論理である。

こうした京都の言葉遣いは宇野さんが学生時代（つまりハタチの頃）から京都に住んでいたもので、その問題を語れるはずである。そこはもう、西尾と対談してもらって、「ゼロ年代の京都学派」とか…いいタイトルだな。『第三ライトノベル』の章題にしよう。

本当の京都学派は、たれあろう西田幾多郎を中心とした勢力と、梅原さんを中心とする新京都学派がある。（←このセンテンスが無いとテキトーなことばかり言っている人と思われかねない。本当にテキトーなことしか言っていないのは内緒だ）

この話はここで終いにしよう。

角度の話、続く。

映画『心が叫びたがっているんだ。』は吃音を治す物語という角度で見る。先行する作品では『英国王のスピーチ』が、題名にあるスピーチのために治療をするなら、ミュージカルのために「治療になる」のだろう。あるいはその逆。

時間が無いので、この映画のために一項を設けて批評できないが、岡田さんはもう朝ドラの脚本を書いた方がいいね。その場合、絶対に関西製作にしないと。そうでないと、エレクトラ・コンプレックスが抜かれてしまう。そうなったら岡田さんの本は面白くないから。『カーネーション』がエレクトラ・コンプレックスの物語だったと、解釈可能であるなら、エレクトラ・コンプレックスの朝ドラを作ったほうがいい。

…失敗しても、しらんけどね。

おばあちゃんとおじいちゃんを大事にするシナリオを書けても、数字（視聴率）の責任は取れない。こんな人間の言うことだから、真に受ける人はいないので心配はしないが、どうであろう？（岡田さんはリベルティーナだから読んではいないので、無責任にこんなことが言える…間違った岡田さんはリベルティーナじゃないから読んでないモン）

そういえば（ムリヤリ角度変える）、高畑さんが鋭いことを言っている。

原作がある映像作品、マンガや小説を映像化したアニメTVドラマ映画は、観賞者（受け手）からよく「イメージが違う」と言われるが、「インプレッションが違う」だろうと、著作に書いている。

鋭い。*2

表象と印象の違いって、コトバ遊びではなく、本当にそうだ。

アニメ業界では、この「受け手のインプレッションと同じものを作る」のに成功したアニメ製作会社が二社ある。

たれあろう（司馬遼太郎文体）、シャフトと京都アニメーションだ。

ただ、角度が百八十度違う。アニメ製作の方法論・アプローチがまったく違うけど、「受け手のインプレッションと同じものを作る」という結果は同じ。

高畑勲の方法論を拡大させているのがアニメの京都学派で、ジブリの方法論を真っ向から否定する、というのは表現として棘があるから、角度が百八十度違うのがシャフトである。話をうまく角度に揃えることができた。

どちらも、原作があるモノをアニメライゼーションした方法として正しい。

インプレッションを作るのが京アニで、それは香織先輩の演奏はアマチュアのうまい人が吹き、麗奈ちゃんの演奏はプロが吹く、インプレッションを作成する（ホラではありません。ちゃんと雑誌「CDジャーナル」を読みました）。大林監督が「アニメ夜話」で語っていた、高畑さんは林檎が落ちるシーンにちゃんと林檎が落ちているコマを入れるというリアリズムと同じ。

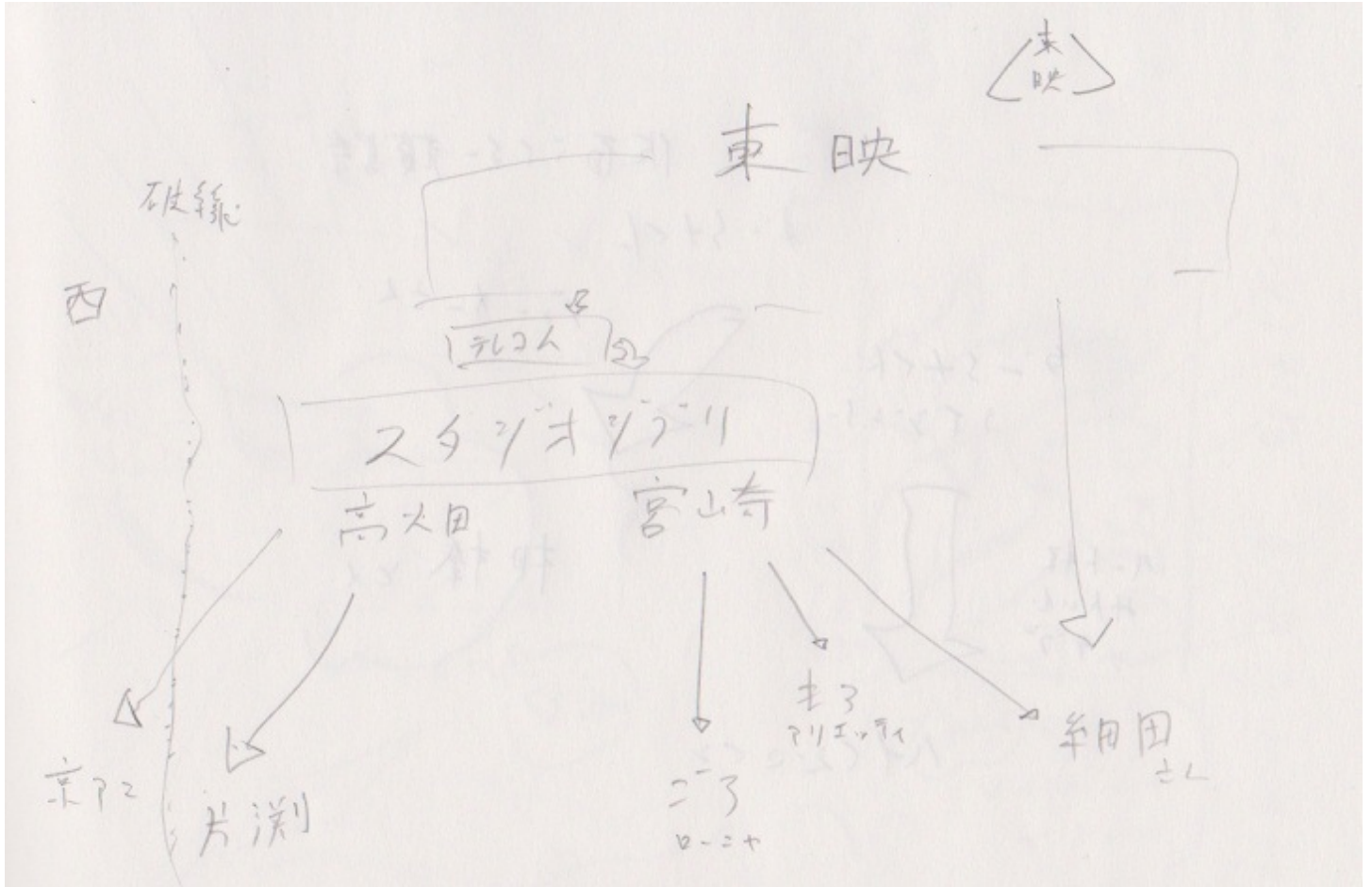
雑誌「Newtype」では音楽プロデューサーに任せたとしか書いていないから、知られていないから、ずっとホラを吹いていると、思われているかも。

「仕方ないよね」

ジブリの高畑さんの方法で受け手のインプレッションを同じにしようとする京都アニメーション。こちらの方法をとっているのは、たぶん間違いない。

原作のイメージを膨らませて、それが読者（受け手）と同じにさせるのがシャフト。「ねつもじ」でも話題にされたジブリアニメの曲線に対して、シャフトアニメの直線と言われる。これは流通しているのだろう。

なんで、野田戯曲のデッドコピーが西尾の小説だと流通しないのだろう。



だから、シャフトアニメの『魔法少女まどか☆マギカ』を見て面白いという、おぎやはぎ矢作さんが「オレはゴキブリとジブリが一番大嫌い」というのも、

「ジ？ ジッ？ ブ？ ジ？ ジブッ？ ジブ？ *イイイイ!？」

と、うっかりコピー&ペーストして、ギャクの二度出しをしてしまった。（詳しくは「メガネびいきのセンテンス」を読まれたし。今回はちょっと修正した。こちらの方が本物に近い）

このギャグをやりたかっただけで、話題に触れたのであって、ジブリは卒業したから万事OKである。

角度の話と、違うだろう？

いろいろ、Kindleで少女向け女性向けのマンガを、貧乏なので無料サービスのものを読んでいた。『ハチクロ』『のだめ』はマンガ喫茶ですませて、その他はなんとか新古書店で手に入れて、ほとんどの女向け作品はお金が無いから読めない。真面目に批評するヤツ以外は、手元に置いて無い。

ともかくも、そうしてサービスで読んでいた中に『これは恋のはなし』というの作品があり、一巻を読み終わった段階で、町田ひらくとか金子ひらくとか金目鯛ぴんくとかそういうものを連想して、作品内に出てくる少年がだいたい『恋と軍艦』でもそうだったように、と、勝手に心の中に安全弁を取り付けていた。

女性向け作品だし。

まさか、そんなことないだろう。

しかし、たまたま空いた時間に、うっかりWikipediaでこのマンガの項を見て、驚いた。「えええっ???'と、安全弁がはずれ“心が叫びたがっている”と気づいた。「ネタが割れてんじゃない・・・」とも。ほんの出来心、登場人物を把握する程度の軽い気持ちで、あった。

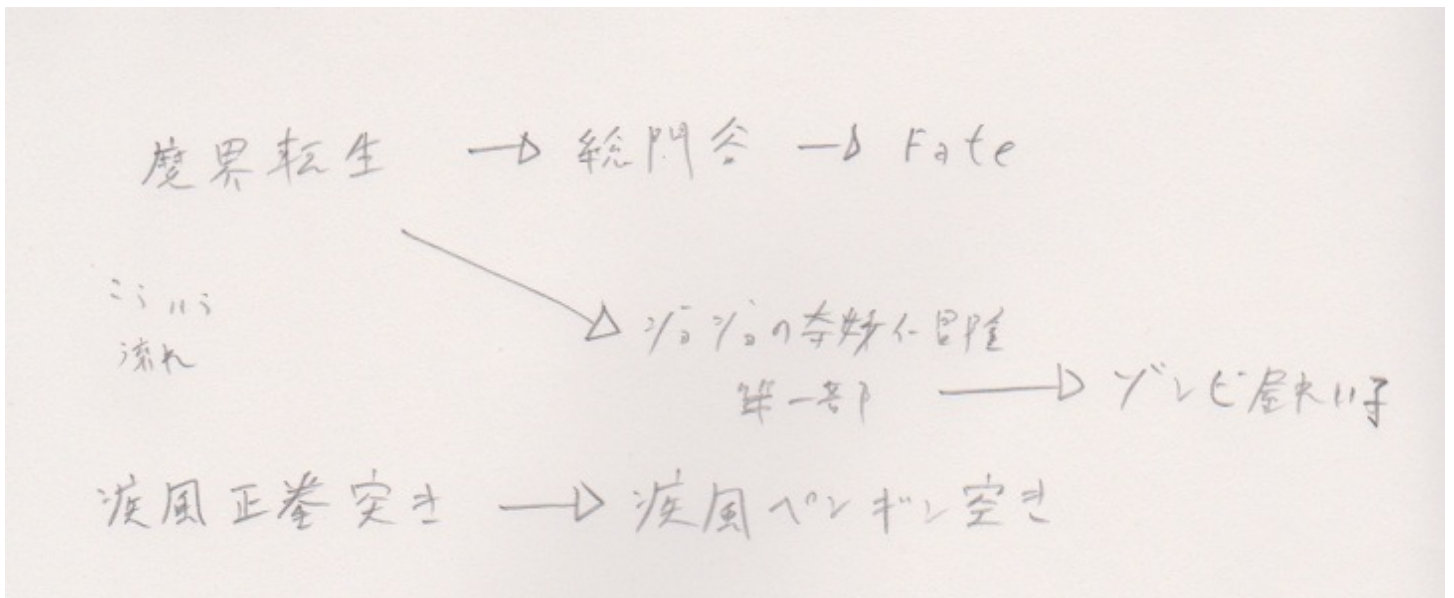
条例がどうのこうのとか、いろいろ目まぐるしく、脳裏を駆け巡った。これじゃ拙著『石油を浪費するホドの人生かっ!』だよ。

あれは、その点がひっかかって、下読みで切られたと思うが、ダメだよ、女性向け作品なら。『石油を浪費するホドの人生かっ!』はロリータコンプレックスであることを隠すために純文学を読んでいる人のウケを狙って、アテに行っているんだから。

この話、「エビデンスの話」に続く。

*1 実はゲームだと、レギュレーションが難しい。

魔界転性の術の説明は文字情報だけだったら、12歳以上から15歳以上向けに指定される。指を失うのは四肢損壊表現の一種だ（一応十指というのが三霊呪の起源で転生衆も十人）。さらに性的なイメージをポリゴンの立体形成だろうが、描画であろうが、視覚的にやってしまうと、X指定になり店の棚では子供が手に届くところに置けない。



*2 「鋭い」とたしかに思うが、「こんな文章書くヒマがあったら、さっさと『かぐや姫』を完成させろよ」と、思った『アニメーション折に触れて』はいい本である。フォロー。

女性が見ているところで、こういうことは言えない。

それでも気兼ねが無いわけではなく、ハッキリ言わないと、話が進まないのだから、言うが、

「子供がほしいなら、若い男のスpermで作れ」

と、「なんじゃそりゃああああ！」と思うことを言う。

脅しがやりたいわけでもない。

なぜなら、ダウン症などの障害児が生まれる可能性があるからだ。

今は、「静かなる優生学」の時代と呼ばれ、それに手を貸してしまうから、かなり注意してやらないといけない。注意してやらないといっても、女性は読んでいないので、安心。

一番はエビデンスの問題だ。

たとえば、都会では眼鏡をかける子供が多く、視力が弱いのは遮る物がたくさんあって、環境要因だと説明するものが、多いと思う。

しかし、こう考えたことはないか？

地方では都会に比べ早婚で、都会では晩婚化が進んで、両親の年齢が高いから、子供の近眼などの視覚系の問題が出ていないか？ この件に検証データがあるわけではないから、めったなことを言っちゃいけないように、言わないようにしている。

そして、検証データがあっても、エビデンスが成立するのが難しい。

たまちゃん先生の本と『プロメテウスの罠』を併読しているけど、確固としたエビデンスをとるのは、難しい。チェルノブイリハートの検証データを集めると先生は「よくわからないよ」となるし、ちゃんとベラルーシの医師（心臓病の罹患者が多いと主張したら当局に捕まる）に取材した朝日新聞の記事もあり、さらに政治的妨害もある。

仮にエビデンスが取れたら、まず、男女問わない高齢出産に挑む人が悲しむ。医学的に高年齢と設定されながら子作りに挑む人たち（そんな人たちはこんな宣伝のための電子書籍を読んでいるヒマはありません）に気兼ねを与えてしまう。

一般的には高齢の女性とは50代60代の高齢者で、その方たちが出産しているから高齢出産、になるのではない。それは高齢者出産である。母体が35歳以上で高齢出産になる。

俵田夾来の「子宮が腐る」発言じゃなくて、実際の医療データを見ると35歳以上だと、分娩に関わる諸症状に罹患する割合が高い。

『風雲児たち 幕末編』第一巻でシーボルトお稲さんがあげた、

「子宮外妊娠」

「多胎妊娠」

「早期破水」

「胎盤剥離」

「骨盤位」

「胎状奇胎」

「妊娠悪阻」

「子宮および卵巣の腫瘍」

「産褥熱」

「狭骨盤」

「前置胎盤」

というものに母体が罹患する割合が、若い世代より多いというのを、医学的に認めた、つまりエビデンスをとったから「高齢出産」というようになった。

長年、医学研究者達の中で議論はかなりあっただろう。公表せざるを得ないまでデータを積み重ね、そして無視できないほどデータが裏打ちされている。

母体だけでこれほどあるが、高齢出産は子供も健常・健康に生まれえない危険にさらされている（『コウノドリ』を読めばわかるが分娩でしくじると赤ちゃんに障害が出るケースがある）。母親の高齢だけが問題ではなく、父親が高齢でもなんらかの遺伝的な障害が発現する可能性は、どうやらあるらしい。

でも、女性が見ている場では、こういうことは書けない。それ自体が利用されているかもしれない。女子禁制でリベルティーナしか読まない場でよかった。

そもそも、健常・健康に生まれえないということは、危険なのか？ 建前としてそうじゃないだろうと思う人はいるが、実際の本音では次から書くようなことをするだろう。現在は出生前診断で、ダウン症がわかってしまう。そのために生まれてくる子供を墮胎する人もいる（他にも双子三つ子だとわかると減胎もしている）。これが今は「静かなる優生学」の時代と言われる所以だ。これをアナウンスし続けると、逆に高齢者への差別になってしまう、それを助長したと勝手に思われると、迷惑だ。

若年者と高齢者では障害者が生まれる割合は等しくない、ようである。等しいというエビデンスも無い。

産婦人科医の間では、「お父さんが高齢だと、どうも障害児の割合が多い気がする」現場感覚とエビデンスは、もちろん違う。単なる印象が多いだけのケースもあり、本当に調べないといけませんが、その際に医学界の長老から待たががかるのでは？

それは「若い女性と仲良くなりたい」という自分の欲望に沿ったモノではないからだ。

個人の欲望でエビデンスを妨げることは可能らしい。

日野原さんが、「成人病なんかじゃない。生活習慣病だ」と口ずっぱく言っても、権威の無い現場医者だと影響力が無く、おそらく医学界の長老が出した「成人病ね」という命名を覆せなかったのだろう。幸運だったのか、なんだったのか、日野原さんがこうした老害となる長老よりも長命であったから、覆ったと思う。（冗談にしているから実態は違うだろう）

死滅するまで反対派は消えないのだが、日野原さんが長老よりも長生きで、医学会の長老の死後に勝ってしまった、というのは私の想像だけど、想像を許すような守旧的なものが医療界にあるらしい。

伝統的に、そういうものがある。

エスタブリッシュメントは、階級制度は正しいとかそういう教化を図ってきた。江戸時代は下克上思想を抜くために「葉隠」で思想教化を図り、主君に仕えるのがいい、儒教から借りてきた

ような話を武士道に注入して、御政道批判などをさせない欲望を実現させるというか、マインドコントロールというかコルヌコピアというか、そういう風に教化していったわけである。

体制側などの意味があるエスタブリッシュメントということばを使っている。その体制側が全て悪いとは言い切れないが、その体制側の甘い支配を受け入れた方が自分が幸せと自身（自心）を騙せる人たち…だから、女性を教化してきた部分があり、それはエスタブリッシュメントな童話で「キレイ」で「冷静」で「魅力的」になるように「仕込む」みたいに、年上の男性を好むように「仕込む」ことが可能だ。年上の男性を好まない女の子は賢い女の子が生まれたように、父親から拒まれるかもしれない。（つまり文化人類学に見て交換財として機能しない女性って、養老先生も『唯脳論』で語っているけど、あまり語っちゃいけないとされるが、それがかえって教化する側の利益になってしまう）

本当にそれを教化して仕込んでしまったのが中国で、『中国嫁日記』の月（ユエ）が大人（ターレン）が好きという、儒教の国の恐ろしい教化がある。（本当に儒教が女性蔑視なのかというと、反論も無いわけではないが、とりあえず先に進む）

テレビドラマで田村正和が松たか子とか、若い女性と付き合える、中高年の男性ユーザーニーズに合うモノを量産したわけじゃない？ 「恋は雨上がりのように」（マンガのタイトルではありません。批判していません。島本和彦に「褒めるんじゃない」と思っています）。駄目なわけだよ。「34歳の人が17歳の女子高生と付き合った件」は、未成年者略取に現実にはなってしまうとか、そういう土曜の夜ではない夢を見ている人たちに向けた商品である。

それがそのニッチユーザーしか見ないものならいいが、中高年の「若い女性と仲良くなりたい」という欲望を体現したドラマを、テレビや映画で流すと、それに女性が、阿呆なのか、感化されてしまい、

作っている側も意図的に教化した覚えは無いけど、受け手の中の母数女性が教化されてしまう。

あんまりにも反戦映画、反戦ドラマをやりすぎて、戦争の実態すらわからずに、「戦争はよくないもの」と頭から尻尾の先まで信じる人が現れるように、「まあ、年上の男性ってステキねえ」と言うように騙されてしまう。

つまり体制側にとって都合のいい女性に作り変えられているように、ちょうど「プロジェクトX」が社畜化を促すような、そうした効果があるから今のブラック会社やブラック企業をのさばらせているわけじゃないけど、そうした側面がある。エスタブリッシュメントな童話は女性が求めたわけではなく、当時の体制側が求めた内容で教化をはかるのである。

ウォルト・ディズニーが娘二人にこうなってほしいという願望、欲望で作ったのがプリンセスアニメで、この影響でシンデレラコンプレックスを植えつけられた可哀相な女性を、大量に作った。（ジョン・ラセターが出てくるまで反プリンセスアニメはディズニーで作れなかった）

それと同じことになっているらしい。

何らかの形で君主がいる国家じゃないのに、こういうアニメを作ってしまうのは、なんだかの〜てんきである。逆に象徴的君主を持つ（これも的を射てるか心配な表現だ）日本だと、ナウシカやかぐや姫のアニメが出来るのかもしれない。

王権を否定しつつ、しかしノーブレスオブリージュに憧憬があり、そもそも中世ではない時代におとぎ話のプリンセス物語をアニメ化するのは、時代錯誤であるということは皆知っている。

皆忘れて、「実はこうだったんだよ」が温故知新。

アメリカのような共和制連邦国家で王族がない国の現代社会に中世のそうした考えを、植えつけているから、表現の自由が必要…こういうことを書くと、傷つく人がいる。（時間が無いから、ナウシカやかぐや姫のことを書きたくない。「ネタがバレるじゃないか」。かぐや姫の行動原理を近代女性の心のもやもや（いやいや期）として解釈する自由がある。けして、体制側に組み込まれる装置をしつらえている。）

それがあるとためらう。

ソニーの盛田さんの所為でベータはデファクトスタンダードを取れなかった。彼が原因を作ったけど、商業媒体だと流通しない情報になっている。

一応、中立に近い学術的経営学の話では出てくるが、テレビ放映を録画する家庭用ビデオデッキは、ユーザーニーズとして放送される映画番組を録画するとわかっていた。部下がかなり盛田さんに諫言で、二時間分録画できるテープを販売することを言っていた。ところが、盛田さんは頑として聞かなかった。これは『日本のよふけ』で黒木さんが言っていたはずの「部下の諫言を聞く」というのを、皮肉がよく出ている。

VHSが二時間録画のテープを出していて、ほぼ趨勢が決まったからベータの録画時間120分を出しても、後の祭りだった。その後家庭用と業務用に分けるカルテルを結んで、ベータの命脈は繋がった。これがよかったかということ、いまだに撮影の現場でベータテープを使わなくてはいけない悪弊になってしまっていないだろうか？ ビデオカメラにハードディスクを搭載して、有線か無線でデータを送って編集しやすくしていないようだ。

自分の考えが正しいと思い込むのは、トランジスタラジオをブローバ時計会社にOEM供給せず、自社ブランドで海外展開したことが成功裡となり、それが関川夏央さんの言う「成功は失敗の母」となってしまったようだ。この後にコンパクトディスクの開発時に、カラヤンに助言を仰いで「『第九』が全部おさまるようにしてほしい」と言われたので、80分の容量にしたと言われる。

これはソニー信者が傷つくから、知ってても書けない。

盛田さんを常勝無敗の経営者と思いたい。そんなものはプロ野球や大相撲で無敗選手はありえないように、無い。それはもう片方のナプカ…ムスカ…あ、井深だ！

井深さんがクロマトロンテレビは失敗したけど、後のトリオビームには技術が活かされている。それは人材を切り捨てず、雇用し続けられたから可能であった。他社から人材を供給するのは、たしかにリストラチャリング（再構築）なんだけど、どれだけの「血」を流していたか。だいたい長年の人員整理で八万人ぐらいだといわれている。一兆円に近い9600億円の人月がかかる。

そういうことをきちんと書かれるべきだと思うが、あまり知られていないのでは？

大本営発表でいいことしか言わなくなると、危ない。

それは任天堂でも同じだな。

任天堂信者が任天堂を甘やかして、ダメにしてしまいかねない。

話を少し変えようと思う。

中国の人で変な人…変なことを言う人がいる。

東日本大地震で寄付金を一番出したのは台湾だけど、それを聞いた中国の方が「台湾は中国だから一番お金を出したのは中国」と、「?」「?」なことを言う。

安藤百福は名前を見ればなんとなく日本人ではなく中華系と思え、実際に台湾人（本省人か外省人かまでは知らない）で帰化人である。だから「インスタントラーメンは中国人の発明」だとか、言い出しかねない。安藤百福の出自が外省人ならそうかもしれないが、前述したような理屈によって「インスタントラーメンは中国人の発明。だから中国の発明」というのは、うなづきかけるが、うなづいてしまうのは詐欺だとかに気がつけた方がいいだろう。

こういう変な理屈を言う人は日本人でもいる。

そのもっともたるものが、「まあ、年上の男性ってステキねえ」とか何の疑問も無く思える女性（別に『これは恋のはなし』の作者を批難しているわけではない）や中高年になっても若い女性と付き合えると何の疑問もなく思っている人である。（具体的にはくらたまに「僕は女子高生と付き合いたいんだ」とのたまった人…進級できる頭脳であれば三年後には確実に高生ではなくなるけど、その時はまたちがう女子高生と付き合うのだろうか?）

これは別に大江アナの悪口を言ってはいない。

大江アナは愛を選んだのであって、金目当てじゃない。

「滅多なこと言うな」

現役アナウンサーをプロ後妻業者とか、そんなこと誰も言ってないぞ!

無責任に聞こえるかもしれないけど、

「若い男のスペルマで子供を作れ。でも、老人との間に子供が出来て、出生前診断で障害児とわかっていても、産め!」

なんていうのは、親戚の口うるさいオジさんだよ。（中高年と結婚したら本人義父義母の介護リスクも高まるけどそこは愛でカバー）

最近、そういうオジさんがいなくなったし、オジさんもいわなくなったけど、それはダメだとわかっているからだ。

誰も幸福じゃない。（介護をするのは幸福です。これは洗脳活動ではありません）

後妻業で思い出したけど、女性配偶者に自分を介護させるための戦略が年上の男性はステキという、教化なんではないのか? まず、親の介護を嫁に全て押し付けることが出来る。それが無いのは愛が足りない。なんだかドメスティックバイオレンスする旦那のモラルハザードみたいだ。「オレ様への愛が足りないから、オレの両親を介護できないんだ! 悔しかったら介護しろ」という（こういう発言をする男性は障害児童が生まれたら絶対に嫁の所為にする）、愛情を人質にとった人質工作。でも、女性の側は愛が目的じゃなくて、お金が目的。

マッチングビジネスみたいな話なんだ。

結論が出た。これで中福祉、小負担の老人介護事業が可能だったのだ。

とはいっても若い男性と結婚して、出来るだけ健康な子供を産んだ方がいいよ、と言っても、現実問題（多くは所得に関する）、若い男とは結婚できない。そして、中高年と結婚して子供が

出来れば、障害のリスクが高まるらしいとは言っても、まだエビデンスはとれていない。障害児童が生まれても、立派に育ててほしいが。

エビデンスが取れていないからといって、まったく何も言わないのは正しいのか、妙なパラドックスにはまったものである。

これは援助交際をやめさせたいけど、説得できる言葉をもてなかったから、「自己責任」と言い出した宮台と同じだね。

若い男性を選ぶのも、中高年を選ぶのも、自由意志だ。

これを書かなかったら、こっそり読んでいる女性に、私の責任にされてしまうからね。（こっそり読んでいるルール破りの女性なんていませーん）

「こんなダメ日記を書きましたが、それで私が若い嫁をもらったら『アレはなんだったんだ』と言われてしまう。書いている途中で小倉唯の火傷に粘性のある塗り薬を塗る夢を見るという、『もう、ボクはダメだっ!』と思いましたよ」

サイモン・シンが共著で「本当にエビデンス医療は正しいのか？」と問題提起している本を出しているらしいけれど、まだ読んでいない。

お買い得情報の記事がゲームラボに載っていた。

そこに昼マックがお得という、貧乏な私には日常生活に必要な、「生きるために必要な無駄ではない知識」が書かれていた。MポテトをSサイズにするだけで300円でランチをいただけるのである。

今すぐマクドナルドに急がねばならない。

「これは嫁を質に入れてでも行かなくてははいけませんな」

と、際どい発言をしながら走ってカツラを落とすアデランスの中野さんのようなことはしないが、この昼マックを頼む前にマクドナルドはやめてしまった。昼マックをやめてしまったのだ！

昼マックを始めたら、お客さんがそればかり食うから、利益率の悪いのでやめたのである。

仕方なく、セブンイレブンのお惣菜百円分を五つ買い、198円の惣菜を買うという、「敗北」。(マンガの『カイジ』だったら「敗北!」「カイジ敗北!」…限定ジャンケンやエンペラーカードとは違う方向性で「731」なんだけど)

もうちょっと早く、記事にしてくれないかな、と思う。

サンドウィッチマンみたいに、「その話、もうちょっと早く」である。

そういえば、ゲームとマンガの特集していたじゃない？

ゲームを題材にしたマンガやゲームの内容をストーリー仕立てにしたゲームコミックとか、私が好きなのは香姫が出てくる『戦国ラっ…ウオウホッ。気管支に杭打ち捏造データが混入してしまった。全て下請けの会社である旭化成建材がやったことだから、三井不動産はお咎め無し。「秘書が全てやりました」と同じ。

それに関わるネタとは遠いかもしれないが、横井さんの命日から告別式の間、何も用意できずにいて、その憂鬱な時期が過ぎてから寺田ヒロオさんの『白黒物語』を読んだ。(余計な情報だと復刻版の寺田ヒロオ全集⑧)

そのれんさい(三)は、「これ、どうも『オクトパス』の起源じゃないのか?」と思われる内容なのである。

巻末解説の中野晴行さんが書いているように、クロちゃんはドラえもんの起源であるとされるが、ゲーム&ウォッチの「オクトパス」の場合、水中にある黄金を守る「黄金守」が蛸で、潜水夫がクロちゃんか、と思える。

横井さんの生年を鑑みるに、読んでいてもおかしくは無い。学童社の出していた「漫画少年」にテラさんが連載していた時期は、横井少年が14・5歳の頃である。雑誌付録競争に敗れていく「漫画少年」を読んでいたのかは、年齢的にギリギリの線で疑問が無いわけではない。(少年誌でいえば今のサンデーみたいなと書けばわかりやすいが、余計な一刺しである)

その裏づけは取れないだろうが、わけても難しいのは、開発期間中に誰が何をやっているのか、わからない点である。

Mr.NT…じゃないや、Mr.ゲーム&ウォッチを描いたのは、加納さんである。山本さんは自分

の「タートルブリッジ」以外のアイデアは横井さんが出していた、と発言している。

だいたいそういうことが「社長が訊く」の「ゲーム&ウォッチ」の回で語られている。読み返すと、そういうことが語られている。

加納さんは「オクトパス」は田河水泡の「タコの八ちゃん」だと、言ってもいる。

すると、クロちゃん八ちゃんのかけあわせでは？ 影法師と蛸の異種を越えた同性婚によって生まれた子供である。

『あしたのジョー』で言えば、骨子を朝森高雄、画像をちばてつやが担当したように、『白黒物語』のれんさい(三)を元に横井さんがゲームの骨子を、加納さんがタコの八ちゃんの影響からオオダコを出すという視覚的側面を担当したと、考えるのが一案だが、当事者のインタビューを試みないことには、わからない。

『ゲーム館』では「タートルブリッジ」は自分がやったと、「社長が訊く」での山本さんの発言と矛盾が生じている。そういうことに、どう整合性をもたせるのか？

歴史学的に見て、研究者を弱らせるこうしたことがもう起こっている。

「マリオは私が作った」発言と同じくらいの物議を醸す、「『亀』は私が作った」発言である。

これはもう、横井研究はお金があってコネクションがある人がやった方がいい。

最近、ちくま文庫に『横井軍平 ゲーム館』が所収された。この文庫本を購入できていない。貧乏だから。

ちゃんとフレネルレンズのイラストがカットされていないか、調べていない。現代の可視光通信でも低価格で射程距離を伸ばせる部分だから、載せてあるかが重要である。

しかし、こちらはお金が無くて取材費用がないし、取材対象者にコンタクトをとっても、話に応じないだろう。取材前の地盤固めの段階で、もう崩れる。固められない。

岩田さんみたいに社長だから、可能だった。

こんな敗北宣言を語るより、「ルナイズマイン」で金星で、一万人ぐらいの同性愛者たちが暮らしている場所があって、そこで遺伝子組み換えで、必ず同性愛者に生まれてくるように因子を組み込まれているはずであるのに、異性愛者に目覚めた少年と少女がいる。

彼らは、その世界では排除されるはずだけど、彼ら二人を聖庇（アジュール）するのが、仲良く二人で暮らしていたというイーモン博士とワルナッチ博士のコンビ、ジョイメカに元ネタがある人たちね。

江川伊右衛門と那智悪太郎。（声の出演は花田光と郷田ほづみ）

影法師と蛸の異種を越えた同性婚があるなら、原典にある仲良く二人で暮らしていたということは、博士二人はホモである。リベルティーナ・エポニーヌさんを任天堂は出しているいいと判断したなら、博士二人は愛し合っており、子供が出来ないから代わりにロボットを作り、「人生ってうまくいかないじゃん？ そこはいろいろあってさ」愛憎の果てにワルナッチ博士が「王女メディア」みたいになるのだ。（蜷川演出なら口から赤い紐を出してカエンノイキ…冗談だよ）

新解釈である。

それで、ある理由から二人の食事を三人で分け合うとか、聖餐を表現する「金星の失樂園」の

ストーリーは、ここだけスタジオディーンが担当するのだ。そもそもこんなホモアニメが作られることは無いので、放言し放題であるが、名指しってよくないんだよね。

ある理由とは、一万人の以上の有機化合物を作るのは、金星ではなかなか出来ないだろうという科学的な判断である。固形窒素やその他の有機物をバイオマス出来てリサイクルもできる供給料は、エネルギーに寄るが、地球上と同じくらいできるとは、思えない。人間以外の動植物もいるから。

宇宙船を居住スペースに作り変えて、拡大していくのも一万人以上は難しいという結論だ。ところが一万人以下だと種の保存が難しい。ギリギリの線である。「ホモダチコレクション」で種の保存がどうのこうのも無いと思うが。

同性愛最高指導者が「キミたちは天使だ」と絶対的な肯定をミュータントに近い異性愛に目覚めた二人に与えるのは、大多数の視聴者である異性愛者に向かっての、サービス。

絶対テレビアニメにならないから書けるけど、「こび」「へつらい」。(『ゴーマニズム宣言』なら「このこびへつらいがああ」と、血管を滾らせたよしりんが怒り狂う…の無いので「コトタベ解説編」は同じようなことしているのにぜんぜん似ていない。岩谷の本を燃やす所は「ゴーマンかましてよかですか？」をやればよかったかな?)

もう、『ありえない未来の思い出たち』を放っておいて、こっちをやりたい。

ただ、ブルボン小林さんが言うように、出口はない。何度も書くけどアニメ化されるわけじゃないし、ゲーム化は絶対無い。

「その話、もうちょっと早く」

とは関係ない。

もし「コミックビーム」の方でデビューできていたら、チェリー先生ではなくて、福嶋聡に少年少女を描いてもらうってことになっていたかもね。「別にデート・ア・ライブは日向の設定じゃないよ」と、文章読本の「文章礼賛」の章を読んでもらうことも書こう。この本は宣伝だから。あの設定のゲームの宣伝だ。

『ファイアーエムブレム if』のステルスマーケティングだけど、

「リベルティーナって、エポニーヌさんみたいな人じゃないですか？」

あるいはソレイユさんの『花物語』（吉屋信子の方）である。

おいおい理由を話す、とりあえず最近の少女マンガを複数読んでみて、「『南座に参る』って、やっぱりダメだなあ」と痛感する。他の少女マンガを見ていると、いかに自分が時代と離れているか、それを感じる。感じまくる。

それで、時代に取り残されているせいか、体がかゆい。

前山田健一がアルコールを摂取して、体にじんましの炎症が出たから酒断しなくちゃならないと、どこかで書いていたが、それにならってちょっとお酒を飲むのを控えようと思う。

そもそもお酒をどうして飲むのか？

読者に想像をさせると、テラさんが自宅の庭に小屋（テレビ番組「テラスハウス」の元ネタ）を建てて、一人そこで飲んでいたというような生活を送っていると、考えてほしい。おそらく、菊水の社長に嫁いだ妹さんから中元や歳暮などで日本酒が届き、それをあおっていたと勝手に想像する。

「最近の少年漫画は切ったはったをやったり、銃を抜いて撃ったり、暴力的だ。子供たちがこんなものを読んで正しく育つのか？ 夢を育めるのか？」

と、『愛しり』でも現状に批判的であったテラさんは、やがて人との交流を断って、小屋の中で一人飲んで暮らして、〇にA先生が「緩慢な自殺」とたとえたような死に方をした。（こういうことを知っているサンデーが嫌いになる）

私は才能が無いとわかったし、だから評価されないと受け入れたから、飲むしかない。テラさんみたいに掘って小屋を建てて、屋根に「バキ死ね！」と地元の理解できない行動をする人に書かれて、そこで飲むしかない。

四コママンガで描いたが、「ハーレムラノベで荒稼ぎだ」と言っているがハーレムラノベを書くというのは、実は才能がいる。“電源のいらぬアニメ”を書くだけでも大変なのに、“電源のいらぬギャルゲー”に進歩してしまったハーレムラノベは、まったく書けない。（環境の変化でそちら方向に向かった進歩をたとえて「進化」とするのは、別におかしくはない）

「書けていたら、こんなところでデスブロ…電子書籍の宣伝としての更新情報誌なんて書いていません」

じゃあ、逆行してジュニアノベル、少女向けの原作として何かできることがないか、ちょっと考えて少女マンガの原作、今まであったようななかったような『ガラスの仮面』の語りなおしとして「南座に参る」のような、演劇モノの変化球ができるか、少し話を考えてみた。そしてお隣とどれほど違いが出るのか、現在の少女マンガを読んでもみると、複数の作品にエポニーヌさんが友達として出てくる。『恋と軍艦』にもサーシャもそうだった。（誤情報を入れて読者に読むのを促す）

「南座に参る」にはバイセクシャルなソレイユさんみたいな人は出てくるが、エポニーヌさん

みたいなヤツ…ヤツという言葉は悪いが「奴さん、出なすったか」という、まるでゴリアテみたいなのが出てきたような言い方だが、ともかく、「南座に参る」にはそういうのが出てこない
のである。

時代に取り残されている。

丹後文芸部長にはそういうところを入れたくない。もう人格は固まっている。仕方ないから舞子さんには、涙を飲んでエポニーヌさんになってもらい（本設定化）、恵ちゃんに「お母さんはどうして男同士が愛し合っている本をベッドの下に隠しているの？」と、家族の団欒に夕飯に言われてしまう。女性読者には知られてはいけない秘匿情報だ。

そういえば、エポニーヌさんのはしりである藤吉晴美の声をあてていた松来さんが亡くなられてしまった。撮って出しみたいなネタですまないが、感傷に浸る余裕が、こちらに無い。

最後の仕事が『下ネタ…だとヤダな。』

事実としてはそうかもしれないけど、公式見解は『ニャル子F』でいいのでは？　こういう時に公式見解というものが
必要だ。もう『さよなら絶望先生』は「出演俳優が薬物を吸った咎で逮捕されて企画が頓挫した（間違っても『キルミーベイビー』のことじゃないよ）」みたいに、できないんだ。（そういえば『絶負』って、こういう日記をやめて続きを黙々と書いていたら、もうとっくの昔に完成してるね。他人事）

永井一郎の最後の仕事が『サザエさん』か『スペース☆ダンディ』かで、印象がまるで違う。実際は地方のラジオ出演で、出先のホテルのバスルームを室内を暖めずにフロに入って起きたヒートショックが、死因の見方として最有力候補だが、最後の仕事が『キルビル』の悪役ビルを演じ…

おっといけねえ。

筆が滑りそうになっただぜ。

星一徹なら「ここはグラウンドじゃなかったな」と、一人悦に浸るだろうが、これも撮って出しだか、藤子不二雄○にA先生も筆を休めるらしいし、私も筆を休めたい。

そうだ。

自分も、コードネーム『いっばおくわくわ』が最後の仕事だと、イヤだな。銃を撃ったり（バズーカだけど）、暴れたり（清ちゃん先生の体罰！）して子供の情操に悪い。

最後の仕事はもう手がけている。『ありえない未来の思い出たち』だ。もう時代に取り残されている。全七巻完成させて、早く筆を休めたい。別に完成しなくても誰も困らないだろうし、いつでも筆を休める準備は出来ている。

たけしさんだと、こういうときにオチで、筆を休めてゲームを作るとか言い出しそうだけど、本当に一つのパッケージソフトはもう、作られない。ゲーム業界に資本が無い。ソーシャルゲームを作るというのは、テラさんではないが、それはちょっと違うなあと、思う。仮に時代に取り残されたゲーム「コトタベ」をソーシャルゲームに移植して、通信対戦で「歳時記あそび」や「お習字三本勝負」ができて、プレイしたらゲームとして面白くない。パッケージソフトにして面白くないから、私はゲーム会社に入社できなかった。コンシューマゲームで面白くなかったら、ソーシャルゲームにしても、面白くない。それがわかっているのに、その面白くないゲームを

お客さんにやらせるって……体がかゆいのは、冬になってきて乾燥してきたのか、何かあっただけで、別に時代に取り残されたからではない。「週刊少年サンデー」を読むと、安心するよ。「ああ、オレと同じように時代に取り残されたマンガ誌がある。『國崎出雲』の後継作として『南座に参る』の企画を持っていったら、あの編集長じゃ、酷いことを言われるのだろうなあ」（女の子が強くなるサンデーだけど、サンデー自身が弱いからな）

…物議を醸す問題発言なので、四コママンガに出てきた山田が言ったことにしてください。

とか、なんかいって、アマゾンに「南座に参る」の小説が売られたりするというのは、オチとして面白いけど、実際にそのオチをつけるとなると、大変である。

かなしいピョコタン。

『マリオメーカー』で、あんな目にあうなんて。(クスス)

私は最近、小倉唯が指を火傷して私が薬を塗るというシチュエーションの、ロリータコンプレックスの暗喩みたいな夢を見た。フロイト学派かユング学派か忘れたけど、どちらかが夢の内容は欲求不満の現れと提唱していたはず。だとしたら、かなり危ない。危険が危ない。小倉唯が危ない。

姉が妊娠している夢を見て、夢診断してみたら「願いが叶う」というものだったのに、願いなんて叶わなかったから、以来夢診断は信じないと決めたのだが、今回は夢診断をしてみようと思う。

良くない暗示が出ると思うが。(よくない結果が出た)

それにしても「ねつもじ」を聴いていたせいではないが、「人はがんばらないとか一斉化する」というのが、自分にもあてはまるのだろうか？ ポータルページの画像をヤスくんが発注したりしはじめたら、そうなったということだろう。

か一斉SPと同じキャラクターに「初恋」していたと後でわかるとドキッとす。か一斉ういるすに罹患して、女性キャラクターを「あの女」とか言い出す。『ごちうさ??』のエンディング映像を一回見たら、『ブラック・ラグーン』のOVA五巻を一気観しないとバランスが取れない。

まくらが終わったところ(円生なら茶をすすり二つ目なら上着を脱ぐ)で、「ゲームラボ」で、ゲームグッズの特集していて、『トラキア776』の限定版があったから、それを取り出して写真撮影とかしようと思ったら、例の如くどこにやったかわからない。



ビデオの棚に置きっぱなしにしていた
トラキア776限定販売のおまけビデオ



物持ちがいいのかしら
アスタリスクさんみたいに

いまだに宮本茂のインタビューが載っている「TIME」が出てこず、あの記事を『文章読本』に収録したいが、そこはタイムアップだ。文章礼賛時のメモでは多根清史とあるが、そこもタイムアップだ。メモにはおもいきり桜井さんを“雅博”と書いちゃっているが、そこは「ゲームラボ」が洋ゲー特集時にも誤字があったので、プロでも間違ふことだから、私は免罪される。

とはいえ年内に出来なくなり、年度中にできなくなり、年が明けて半年経ってもできず、年度半期……

それはタイムアップだ。

今、「ピンポンフォロワー」というマンガの批評なのか、よくわからないモノを書いていて、それで少し、「週刊少年サンデー」にあたりが強いことをすることになるかもしれない。ほんの少しである。

私は全方位外交をしない。

そういう方針で行く。

荒井チェリー先生には万歳（マンセー）で、ピョコタンは蛇蝎の如く嫌う。

チェリー先生はもう、天狗になるとかそういうことは無いだろうし、ピョコタンはいじめても後で返しされる心配はない。任天堂の経営者になって株主総会で資本家ピョコタンに「売り上げ減ってるぞ！」と言われることはない。未来は閉ざされている。

ところが、サンデーは危なそうである。ちょっとあたりを強めよう。

「あのときサンデーに厳しくしていなかったから」

という後悔をしないためである。

なんだか、アトラスの時と同じようなことを言っているようだが、校正用にプリントアウトした原稿には「ガープス・ベーシック」を再読した以降の修正がされているから、安心である。ワードソフトに記録されている原稿修正を半年ぐらい寝かせているけど、『世界樹の迷宮』のゲームレビューは完成しなくてもいいし、させなくていい。

その話とは繋がらないのだが、渡瀬さんの『アラタカンガタリ』とか、雷句誠がいろいろあったりして、原稿がどうのこうのの古くは久米田康治が、どうやら無くされたらしい。編集者は、マンガ原稿を無くす生き物だよ。ランキング的なものが低いのかしら。（ここで四民平等がどうのこうのとか商業媒体で書こうものならいろいろ面倒が起こる）

『銀の匙』は一応、本当に作者が家族の急病で連載中断になったか、怪しいなと思っていたが『アルスラーン戦記』の方もかなり減ページで、メディア化作品が一周したから「義理は果たした」というわけではないみたいだ。

今後どうなるかはわからないが、危惧はしている。荒川さんは追い出される心配は無いと思うが、テラさんを追い出したのはサンデーだとしたら、その恨みは買ってくれると思う。

しかしね、哀しいね。

サンデーは悲しい。

数年前には、「チャンピオンに抜かれる！ 抜かれるううう」という必死さがあったような気がする。

今は「なるようにしかならない」という達観があって、それをあの編集長が独裁宣言したワケで、編集部内に弛緩したところを抜こうとしているのだが、うまくいかないだろう。「ヤングサンデー」が休刊して、「少年サンデー」と「ビッグコミックスピリッツ」に編集者たちが振り

分けられたと言われる。佐藤秀峰情報によると。ソニーが今黒字なのは、めちゃくちゃ人員整理をした結果であることが『切り捨てSONY』で書かれているが、編集部内を人員整理できなかつたら、ダメだろう。

そもそもがこのままでは雑誌が休刊・廃刊してしまうという、危機感や緊張感が編集部内に無いのだろう。『風雲児たち』の保科正之が江戸大火で独裁せざるをえない緊急事態に陥っていることを内側に見せるために公表したのだろう。

緊急事態に陥る前になんとかならなかったのかと、思うものだけど、なんとかならなかったのだろう。つまり、読者が厳しくしていなかったと思う。

いろいろ言いたいことはあるが、それは皆優しくして、言わなかっただけではないのか？ 優しくしたんじゃないなくて、結果として甘やかした。ジャンプもピーク時に比べれば発行部数は半減している。サンデーで半減したら、ただでさえ編集者が多いのに、やっていけないだろう。

甘いもので思い出した。『だがしかし』は、失われた母親の代りに自分を絶対肯定してくれるキャラクター（イッチャってる眼の女・年明けにかーずSPが「あの女」と言う有力な人物）が現れて、なんでも自分をほめてくれる存在に石原慎太郎の『スパルタ教育』を思い出した。（絶対に「サンデーは今にも潰れそうな駄菓子屋」と思うなよ。そんなこと思うのは評論家病だよ）

と学会の人が石原伸晃と会ったとき、「この人がお母さんに…褒められて育った…あの…」と思って身構えたらしい（「真夜中のカーボーイ」のラジオネームを想像してほしい）。でも、慎太郎が後で「実際に子供たちにスパルタ教育みたいなことは施してない」と発言したらしくて、百万の読者が「なんだよっ！」と暴君しんちゃん（スパルタの僭主・この場合ちゃんとタイラント）のハシゴ外しにあって怒ったという。

日本維新の会も、暴君しんちゃんのハシゴ外しにあって、立ち行かなくなったしね。大阪と東京のかすがいのはずが、いつの間にか分裂の原因になっている。

そういえば、しんちゃんと言えば尻で、お尻に執着するマンガは今まで何件かサンデーにあった。田村信の『できんボーイ』からちょっと間があいて、『南国アイスホッケー部』が出て、また間があいて現在の『競女』である。

尻の歴史。

回文にできないかな？ 尻の歴史…切れの利子？ 回文にはなるけど、構文は成立しない。『競女』はよくある「今までのジャンルマンガを性移項して語りなおす」だけど、それが尻マンガまでされると、もう語りなおしするジャンルが無い。

三題話みたいになって、よかった。

「チャンピオン」と「切り捨てソニー」と「尻」のお題を客からいただいたと、思って読めばサンデーはそれを接続させる単なるノリにすぎなかったと（以後、サゲになる「うまいこと言いました」まで延々続く）

更科さんは、わからない。企業舎弟とはあの会社のことなのか、わからない。ただ、ヤクザマネーが引いたら、活況を呈していたその業界は衰退するというのは、わかった。丸戸史明を批判していることは確かだけど。

たしかに早死にしてくれると、奥さんなぐったりしないから、いいよね。話と関係ないけど、『天地明察』のえんのモデルが、奥さんなのだろうか？ それはそうと早死にしなくても、製作会社が潰れたりするけどね。

学童社が負けていった付録競争を試みたのも一興だと思うが「先陣を切ったのに結局負けました」となったら最悪である。

どうして、急にコンビニドーナッツの批評を始めるかというと、宣伝活動費に、ドーナッツ費用をあてるためである。

この電子書籍は、他の電書を買わせるための、宣伝・広報・広告である。他の何物でもない。

もう一度
食べてみよう



ファッジボンズドーナッツと
同じチョコを使っている？

今、まだメモを貯めている段階の『第三ライトノベル』で、「ラノベ作家ラノベに外れなし？」という一章を設けて、ライトノベル作家ラノベについて、「劣化を言及し、苦言を呈する」みたいに、

あと、田中裕二さんは「クソ」が嫌いみたい。（他にもミミズ、劣化、花屋のケロちゃん）ふと山口もえの悪口が頭に浮かんだが、他人からいろいろ悪く思われるのは、さすがに嫌なので、「なんでも欲しがるマミちゃんは、田中くんがほしいのか」

「小さ…」とは思っていない。 ガール度が高い？

話を戻すと、ここでも見分けが付かない問題が出てきて、妹なのに弟になりすまししているのが『アスタリスク先生』で、妹がひきこもってしまったのが『妹さえいればアスタリスクいい。』のはず。アスタリスク先生はアスタリスク先生と呼ばれるのが恥ずかしいので、代用としてアスタリスク先生と読んでいるが、何がなんだかよくわからなくなるファフニール問題である。

ファフニール問題には、一応決着が付いた。

要するにどうしてISフォロワーがたくさん出るかという話である。

ピンポンフォロワーにも似たようなことが起きていて、ISフォロワーがたくさん作られれば、作られるほど、オリジナルである『IS<インフィニット・ストラトス>』の価値が上がってしまう。絶対的価値が仮に100ぐらいで、フォロワー作が無い状態だと相対価値1倍にしかならないのに、フォロワー作一作につき相対価値が0.1倍プラスされて、今は相対的価値が三倍ぐらい（ISフォロワーのインフレ）になっている。

『ピンポン』もそうってしまった。

『ピンポン』そのものは1000ぐらいの絶対値だけど、フォロワー作が出て相対値1400ぐらい

になってしまった。

…『少年ラケット』だけでも、がんばってほしいなあ。

これはどこのメディアでも起こる。

田下さんが、たしか「ケンタウロスの足が問題になる」と「劣化を言及し、苦言を呈する」ようなことを、アクションパズルのことで語っていたはず。『パズドラ』と『モンスター』は、足は同じ馬のケンタウロスで、胴体より上が違う。

蟹の手とか、四本の腕のクリーチャーとか、いろいろ差別化を図るのだが、やがて四本の馬の足であるアクションパズルの部分が、なんとかならないのかという、要約するとそういう話なのだが、ちゃんと田下広夢さんのコラムを読まれるべき。

最近、読んでないな。

どうしてるかな？（微妙に話をまとめず、もやもやさせて『第三ライトノベル』を買わせようとしている）

だから、急にオリオリビールとか、いろんな土産物とか、写真画像がたくさん出ても、経費として計上しようと言う「私は節税の天才かも知れぬ」ということである可能性はゼロではない。

『アスタリスク先生』を読んで、節税意識を持っているのである。（マネするなとあとがきで書いているけどね）

宣伝活動である本書にドーナツの話題を出せば、経費としてドーナツ代が認められ、サイバーコネクトツーを貶める裏の宣伝活動である横本でジョジョの新作ゲームを話題にすれば経費としてゲーム代が浮くのである。（アトラスはけして貶めていません。『世界樹の迷宮II』は経費として計上されました）

丸々浮くわけではなく、接待費とか、八掛けとか言われる。（それからジョジョの新作の購入予定はありませんが頑張って下さい）

見分けが付かない話と思った編集者はどちらのラノベにも出てくる。アスタリスク光線（読み・アスタリスクフラッシュ！）が、どうのこうのの話もあるけど、昔のマンガなら他の競合作との差別化のを図るために、非業の死を迎えるキャラクターになる。

そうだ、ドーナツの話だ。

濃厚ショコラドーナツ、うん、普通のチョコドーナツと変わらないよ。

私は、味音痴なのか心配になる。

塩パンが好きなので、もっとコンビニで塩パンが売られるべきとか、思っている。『妹さえいればいい。』のムラマサ先輩が好きなので、コンビニで売られるべきとか、思っている。ちょっと棚に並んで、うれしいなと思ったら、それからパン棚に置かれなくなったというのが…要するにファッションドーナツのチョコと濃厚ショコラドーナツは、味比べしても「ほぼ味分けがつかない」のである。

じゃあ、その約四十円差は何なのかというと、「ちょっと豪華な気分を味わえる」。

まとまった。

味だけに、うまかった、と。

もう一度濃厚ショコラドーナツを食べてみたが、生地が違うような…
量だけならうまい棒シリーズのチョコ棒を約14本買った方がお得。

「たとえば、企業舎弟の問題がある」

先月の「サイゾー」で更科さんが書いているように、そういう業界は広域暴力団の企業舎弟か、テイワズに鉄華団が与するみたいにあるのである。（正確には二次団体だろうか…Vシネ）利益を集積して上納していると考えるのが、常識的だろう。

そういうソフトは、実は企業舎弟をしている流通業者から資金を出して開発している。「嗚呼、ゆううつなるクラフト・エヴィング」でも語ること（悟られない宣伝）なので、このくらいにしておくが、

「言えないよねえ」

と、私は伊集院が出演しているアニマルビデオを持っていて、デジタルデータに置き換えている事はなかなか言えない（別に伊集院を「豚」と揶揄しているのではなく畜生の如き様のビデオである）。伊集院サイドに不穏な動きがあったとき、これを放流してもいい状態にしているので「伊集院のばんぐみ」を観ていないのである。

たすたすりよおたす～は、いったい何があって、行方不明になったのか、ヘスティア（ヘラ？ヘラみたいに「オレの婿」に嫉妬してる？）のモデルなワケで、普通にやっていたら売れるはずなのに…（もう言えない。「あのキャラクター、ヘラクレスだろ」とか言えない）

なんとなく想像はつくが、それが真とは限らない。

前に韓国でボートに乗って沖に流されて凍死した邦人がいて、フツーに俗的に考えて北朝鮮とのつながりを考えてしまいがち（邪推）だが、青山さん、サンキュータツオさんに支持している人たちはそういう輩だと言われてしまった青山さんが関係者に取材すると、事故死者は官僚で官費留学していて、官籍で留学していると自由に出入国できない。

それで死人に鞭打つようで気が引けるが、彼は国内に愛人問題を抱えていたらしい。『朝が来た』問題である。もう奥さんがいて、それで海外滞在中に愛人が身ごもったとか、そういう噂があるらしい。

自由に入国できない以上、彼にはこの「国内問題」を解決させるために密入国をするしかないという、「もう、そうするしかない」と野田戯曲のセリフみたいになり、九州の武闘派でならした特定危険勢力（工藤会のことじゃないよ）というか、そういうところと接触して韓国沖でピックアップしてもらおう（密出国も同じ手はず）という、「妄想するしかない」と野田戯曲のセリフみたいになったようなのだ。

一応、含めておかななくてはいけないのは、エリートになるために詰め込み教育された人間は、庶民の尺度では測れないことを身の丈に合わずにしようとするところがある。

そして『赤鬼』の戯曲のように船の中で死す。そこは野田戯曲のようになってもらっては、いろいろ公的にしろ私的にしろ、後が迷惑である。

この青山さんが取材した話が「真」とするなら正解。取材者たちがあることないこと変なことを吹き込んでいなければ、的外れではないだろう。（こういうのを佐藤優の場合、変なことを言い出して不安ビジネスで煽る）

一応、キャリア官僚だから防諜のためか、何のためか、実名報道はされていない。それじゃ官僚と一般の人に被報道の格差があり、国民の知る権利を阻害していないだろうか、ジャーリストとかが議論すればいい。昔なら、ちゃんとしたルポライターがこの件を取材しただろうが、今は取材費が出にくいので、こうしたルポはできない。

赤瀬川翁のように「自宅でできるルポ」みたいなことをしなくてはいけない。

いつの間にか、皆赤瀬川原平みたいなことをしなくちゃならなくなる。

一億総原平時代である。

老人力の方ではない。

一億総老人力は「飛ぶ」という動詞を忘れる。

だから、たすたすりよおたす～（このネタの話をしていたのをすっかり忘れていた）も、ポケモンマスターに「女型ポケモン・ケウヌになれ」と、「メガ進化させてあげるよ」、「ケウヌは特別なポケモンだからメガ進化しても濁らずに名前が呼ばれるよ」とか、言われて失踪しないといけないと、まるで暗号のようなことを書いてしまって、当然「言えないことがある」のだが、真相はどうだろう。トリックルームとはちょっと違う「札束を持っている奴が一番優先順位が高い」部屋…タービンの船（ハンマーヘッド）の中じゃないか。（どうでもいいけど、本家『ポケモン』に真珠のアイテムってあったっけ？ それを装備できる…復号はいわゆる二号にある？）

「利益を集積して上納していると考える」などは、どこが誰になんたらをしているか、復号化はしてはいけない。山内一典さんが考えた一行ゲーム企画と同じく、「利益を集積して上納していると考える」ゲームだと思ってほしい。

ソニーが流通革命をしなくてはいけなかったのは、そこらへんの問題があったのだろう。ソニーにケツ持ちがいるのか、腹いせにデジキューブに銃弾が打ち込まれる。

（答え書いてんじゃん）

小島秀夫がひっそりとコナミを辞めた情報が月刊誌「ゲームラボ」であり、ネットニュースを追ってみると新スタジオを設立し、SCEと契約して、新しいソフトを作るらしい。海外ではまだ小島さんのソフトを求められているから、とりあえず正しい選択だったと思う。

時代は動いている。

吉田秋彦さんが所属しているらしいリトル・モアにも、ちゃんと「私以上の人材をプランナーとして雇わないと、会社が駄目になるよ」と、一筆メールを送りたいが、そんなわかりきった余計なことをしなくてもいいだろう（直接なんか言うのは一応の信頼を築きたいとか、そういうアーンテレッケンだよ。だいたいうまくいかないけどね。久米田康治とか）。私以上の人材を入社させてソフトを売れないのは、今のゲーム不況があるから、安心できないけどね。売れなかったから、自己の責任。

「ゲームラボ」の『モンスターハンター』特集、記事は面白いけど、プレステポータブルを持っていないので、『モンスターハンター』やってないなあ、というのが正直口から漏れる。

PSPから3DSに移籍したときに、変なオプションコントローラを付けなくてはいけないので、少し気兼ねしていたら、何時の間にかブームに乗り遅れて、DSの『世界樹の迷宮』シリーズを集めて、『世界樹の迷宮』のゲームレビューを私は完成させなくていいし、完成しなくていい。

本当に完成しないことを煽ってるんだけど。

伊藤計画さんとの関わりで、小島さんにはお世話をしてもらったと、こちら界限では思っているので、なんとか新展開を望む向きはあるが、どうだろう？ メダル・ギアの著作権を八万人を蹴首したカネで買うというのが現実的だが、それはできるのだろうか？

小島カントクは、海外に売れるソフトを作れるから、海外販売に強い今のPSのプラットフォームには留まってほしい人物なのは確かだが、将来はわからない。

コナミは『ときめきメモリアル』が売れている時でも、「数年後には、ポルノソフトを作っているかもしれませんよ」と社長が発言しているくらい、経営は困難で厳しいものとわかっている。

その観念・社風・企業風土・経営哲学を持っているから、一部のスキもなく、やってこれたと思う。ハードメーカーでその傘下だったはずだったのに、いつの間にかハドソンを吸収してしまった現実路線である。

そういえば、国内外格差がプレイステーションでなんでこんなについてるのか、ゲーム報道を一応追っている私でも、わからない。なんで海外ではPS4が覇権を握ったのか、謎。

一応、日本では現在ソーシャルゲーム市場に、失った過去のアーケードゲーム市場と同等の規模があるから、そちらにシフトしてしまったのが国内環境で、海外はまた事情が違うらしい。消費者事情か、流通事情なのか、あるいはスマートフォンを十代の子供にはもたせず、ソーシャルゲームの国内ユーザーの大半を占めるらしいこの年齢層にスマートフォンが普及していないからかもしれない。

成人層にはスマートフォンは普及しているけど、ゲームアプリはそんなにやっていないらしいのは、このためかもしれない。

だから、かなり特殊な市場がいつのまにか日本国内で出来上がっていたということらしい。

『パズドラ』が開発会社（インセルだっけ？）に初期開発費一億円を出して作らせたなら、一日で二・三億儲けるドル箱になったから、同じケンタウロスの足のアプリが後発で出てきて、資本関係にある動画関係の会社の社長をしているらしいマックスむらいが攻略動画を配信していたということらしい。

まったく同じとはいきれないが、プロレスラーの棚橋がリングに上がりながら広報もするレスラーで、本来営業の役割ではない人物自ら、地方巡業ならどんな小さなところでも顔出しする地道な活動で低迷期の新日を支えていたことを考えると、「僕を見に来てください」と「ボクと同じプレイをしてみてください」が似ていたわけである。

似た人は、天才とはこの人、桜井政博さんの「スマブラ拳」である。（この日記とされる文章は、「天才のマインドパレス」のステルスマーケティングではないのかと問われれば、「そうだよっ！」とひらきなおりである）

その広報差、営業差があったから脱落したと誰かちゃんと反省したかね？

これぞ「雨後の竹の子の如く」同じタイプのアプリゲーム（課金システム）が出て、生き残ったのは『モンスターストライク』しかなかったのは、皆さんもご存知だろう。

岡本さんがこれで復活したのも、とりあえずよかった。あんまり岡本さんには、文読で文章を引用する桜井さんみたいに義理があるわけじゃないので、語ることが無い。しかし桜井さんとの交流は『ゲームについて思うこと』第一巻にそのあたりの事情が書いてある。宣伝だから、リンクを追ってKindleで直接読むか、アプリで読んでほしい。

アレ？ 『モンスター』のストーリー担当はイシイジロウさんことジロさんで、『ブブキ・ブランキ』（この中点はグロリアテーマじゃないよな）のストーリー構成もやっている…何時、レベルファイブから追い出されたの？ レベルファイブでシェイクスピアのゲームとか作んないの？

「シェイクスピアロマン」より一千…一万倍面白いゲームは、何時できるの。（わかりやすいインフレ）

このところの事情を詳しく知りたい。

昔の言葉になったようだけど、スマートフォンのアプリによるソーシャルゲームほど、一強皆弱（「いっきょうかいじゃく」・一つが強く他はみんな弱い）の世界は無い。

繰り返しになるようだけど、一億円の初期開発費で、一日で『パズドラ』並に稼がなくても二千万、三千万円の売り上げが出ればいいと、思っていた後発組で成功したのは『モンスターストライク』だけだった。他は、初期開発費さえ、回収できないから撤退していった。棚橋がいなかったのだ。

ハードの一強皆弱から、ソフト（正確にはスマートフォンのアプリ）の一強皆弱になった。というのが、ファミコンからゲーム記事を読んでいる人の解釈だ。

そこにコナミが行くから、パッケージソフトを作る小島組の風当たりが強くなってしまった。

テレビ番組の時代劇を作ったら、映画の時代劇を専門に作る「組」が軽んじられるようにな

ってしまった。そんなたとえが思い浮かぶ。 プラットフォームを選ぶのがよくない。

『マイクラフト』もそうだけど、あれはローポリの勝利だろう。ポリゴン数が少ないやり方のローポリだから、プラットフォームを選ばなかった。

そんなことより、小倉唯がゲバールレイキだよ。クマリア様にしてビンカンちゃん。頭がいいし、見た目が好み（眼鏡をかけたらリアルにゆかり先生だから、「負けそう」）だから、乗り換えようか？ コンシューマゲームを捨てて、スマホゲームにシフトするみたいに。

それは自由な判断である。（でも、年が明けたら「俺嫁は捨てられない」という芸能・政治関係の報道がなされた）

「この話、止まんねえな」

私は年齢的に、石井宗謙先生だ。

『バズドラ』よりもガンホーの『蹴り姫』の方がルドロジーとして語ることがある。『飛礫（つぶて）』という中沢厚（中沢新一の父）の著作があるが、投擲することは人文科学的意味がある。石を投げるのが、エラン・ヴィタルというか、トランセンデンタルに近づくとか、そういうことでクツ投げの模擬で、そのルドロジーとして語ることが多々ある。

まあ、そんなことに気づいてる人間は本物のルドロジストしかいないだろうけど。それからタイトルを「小島氏と」から「こじまと」に変えた。『よつぱと』。

別に、テラさんみたいに小屋にこもって自棄酒をあおり、家族すら遠ざける生活をしたいのに、できないことを悲しんではいない。

いや、悲しんでる。

そこで節税の話だ。

見分けがつかない問題の、ライトノベル『アスタリスク先生』で税理士の人が、「アスタリスクって、おかずなんだよね？ どんない食べ物なの？」と言っていたのを、思い出す。（もうちょっと、全年齢でもできる話題をしてほしいな。とくに『おそ松さん』以後はアスタリスク兵長のアスタリスクがアスタリスクで、巨人をどうのこうので、というのはテレビ放映できない以前に何を書いているかわかるようなことをしてほしい）

主人公はカニエちゃんをどうする気だろう？ カニエちゃんとは筆名がムラサメ先生で執筆時には和服を脱ぐ人だ。

ともかく、節税対策のために、いろんな酒（とくに御ビール）が『アスタリスク先生』には出てくる。いろんなところにいけば、旅費が取材費用として計上され、経費となれば売れ上げから引かれ、収めなければならぬ税金額が減る。

そのために、この日記はある。

なぜなら、宣伝活動だから。

この電書に使われた、関連する出費は全て他の電子書籍を広報するものだから、経費なのだ。

書評したら、その本を買った御代が、経費としてなる。ゾンバルトさんの本とか、そういう専門書は高いので、浮かせないといけない。

ひろゆきのマネである。

これを指摘してから、雑誌「SPA」の連載で“今やってるゲームは……”とまくらでやらなくなった。いいところがけだと思うが、本当にゲームにやらなくなっているなら、バイオ100パーセントに所属していたらしいのに、寂しい。

ゲームって売れなくなったんだなあ。

ゲームソフトを買って、この業界を買い支えて欲しい。「節税でもいい、たくましく消費してほしい」と、コマーシャルで……本当はアルコールの話である。

らもさんの「劣情」の方ではない『アマニタ・パンセリナ』でたくさんの眩暈の墮落である薬物のことが書かれている（最新号の「ラジオライフ」でも擬似覚醒剤の精製法が……）が、その中でもお酒のお話である。

まず、チューダーの作り方は『まんが道』と『漫画家人生気楽に行こう』を読んでもらえばいいので、説明はしないが、いろいろ試していることがある。

たとえば、梅酒にはジンジャーエールが合う。



梅酒の原酒にジャンジャーエールで薄める。

キリンのバタフライというアルコールが入ったジュースのような飲料で代用してもいい。

きたろうさんみたいに濃いのが好きな人なら、あまり薄めずに飲めばいいと、勝手に読者がテレビ番組「夕焼け酒場」を観ているという前提で話を進めてしまったが、いいのだろうか。誰でもこの番組を観ているわけではない。ロケをしていたら、火野正平が自転車（チャリ夫）で乗り付けてきた、うれしいハプニングがあったりする、我々の「こころ旅」。

魂に「とうちゃこ」。

高いところ（橋の上）に行くと、「怖い、怖い、怖い」。

視聴者に妙齢の女性が親しげに話しかけてくると、「いいのオレと話して？ 妊娠しちゃうよ」。（アリガトウ火野正平さん☆この言葉でアスタリスクが妊娠するというギャグを思いつきました）

まるで、酔って書いたような日記だが、伊集院静ではないので、酔ってはいない。フグの刺身を弁当代わりに買ったら、凍っていて食えなかったとか、知らない。

たしかに酒が入ってないと、両番組内で提示されるファミリーロマンスを示現流で真っ二つにする勢いで批判する、批評家の血が騒ぐ。鴨志田穰が指摘しなくても、その「鉄」が入っている

。

…「こころ旅」はアルコールを入れてみてないけど。

そこは無礼講である。

ありきたりなそういう話をアルコールが入っているから、許そう。

如何にも日本的だ。海外だと酒が入っても、女子社員にちょんまげとかしないじゃない…

・「ちょっと今、失言がありました。お酒が入っていたということにして置いてください」

そんなこと海外でしたら、『告発の行方』になる。酒の席だからというのは、あまり通用しない。



見たまえ。

鏡月くんである。『吾猫』の寒月くんみたいに言っているが、大韓民国産の焼酎をロッテが輸入してサントリーが売る鏡月くんである。モデルは寺田寅彦ではなく安重…『「坊ちゃん」の時代』にも重根が出てくるから、そこは読んでのお楽しみだ。

スコットランドから嫁を調達して、近年では韓国から酒を調達だろうか？

御家騒動があるロッテも、もっとがんばってほしい。

マッコリとかも、同じだろうか。

ン？ それだと酒税はどうなる？ 海外で生産された酒類は、売るときに酒税をかけるのか？ 船の上だと免税になるとか、いろいろある。

あんまり消費税をかけすぎると、個人輸入でお酒を買う人が増えないだろうか？



ひとめぼれである。

正直、焼酎は味を比べることが難しい。鏡月くんと何が違うのか、それを言えることができ

ない。

有名な『めしばな刑事タチバナ』の「ガリガリ君梨味は梨」、梨そのものの食感を再現していることに気づかされたような、人をハッとさせるようなクリティカルなことが言えない。（まあ日記だし いいか ）

マンガ原作の実写映画で再現率98パーセントぐらい（何かを例示できない）の梨再現なのだが、タチバナに言われるまで気づかなかった。

これは飲むしかない。

役者が再現率を上げすぎると、カツシンみたいに「オレは武田信玄だ！」と、世界の黒沢の言葉も聞き入れなくなるから、それはそれで考え物だ。

さすがに高いのと安いのと飲み比べると、違うだろう。須賀原さんの日本酒を飲むマンガで地酒は千差万別で個性が強い。あんだけ日本酒の話をしてきた須賀原さんは、どれだけ節税になっていたのだろう。奥さんが亡くなっても、キャラクターとしてマンガに出てくるから、それはよかったのである。（節税はしているが酒税はたくさん払っている）

それでも、莫大なガン治療に関わる費用はペイできないと思う。

正ちゃんが亡くなっても、『桜田です』に出ている。

酒と税金のところで話すことじゃないけどね。

そういえば、アメリカの無宗教の人は、クリスマスを祝っているのだろうか。

救世主である人が生まれたことで、どれほど争いが生まれ、私の考えでは対救世主教思想兵器であるイスラム教を生み出した。救世主に対抗するには、違う救世主しかないという、『アラビアの夜の種族』の最後あたりみたいだが、それが21世紀になってイスラミック・ステートを生み出したといたくなる。

もともとそういうものを内包していたのに、下手につつくからそうなる。

放下的な意味なら、キリスト教を捨て去れば、いいんじゃないか？

イスラム教はお酒が飲めない。

一夫多妻というけど、二人目以降はキリスト教徒の戦争で夫を亡くした戦争未亡人や戦乱で両親を亡くし行く当てのない娘を夫人にしないといけない。そういう婦女ならぬ扶助のための宗教に、キリスト教徒との戦いでなっていたと思われる。

交通案内



新潟市 マンガの家

The Niigata City Manga House

【所在地】

新潟市中央区古町通6番町 971-7 (新古町版画通り)
GEO古町通6番町 1・2階

【路線バス(新潟駅から)】

新潟駅万代口バスターミナル発
2・3・7・8・9・10・11番線「古町」下車



新潟市 マンガ・アニメ情報館

NIIGATA MANGA ANIMATION MUSEUM

【所在地】

新潟市中央区八千代 2-5-7 万代シティBP2 1階

【路線バス(新潟駅から)】

新潟駅万代口バスターミナル発
7・8・9・10・11・13番線
「万代シティバスセンター前」下車

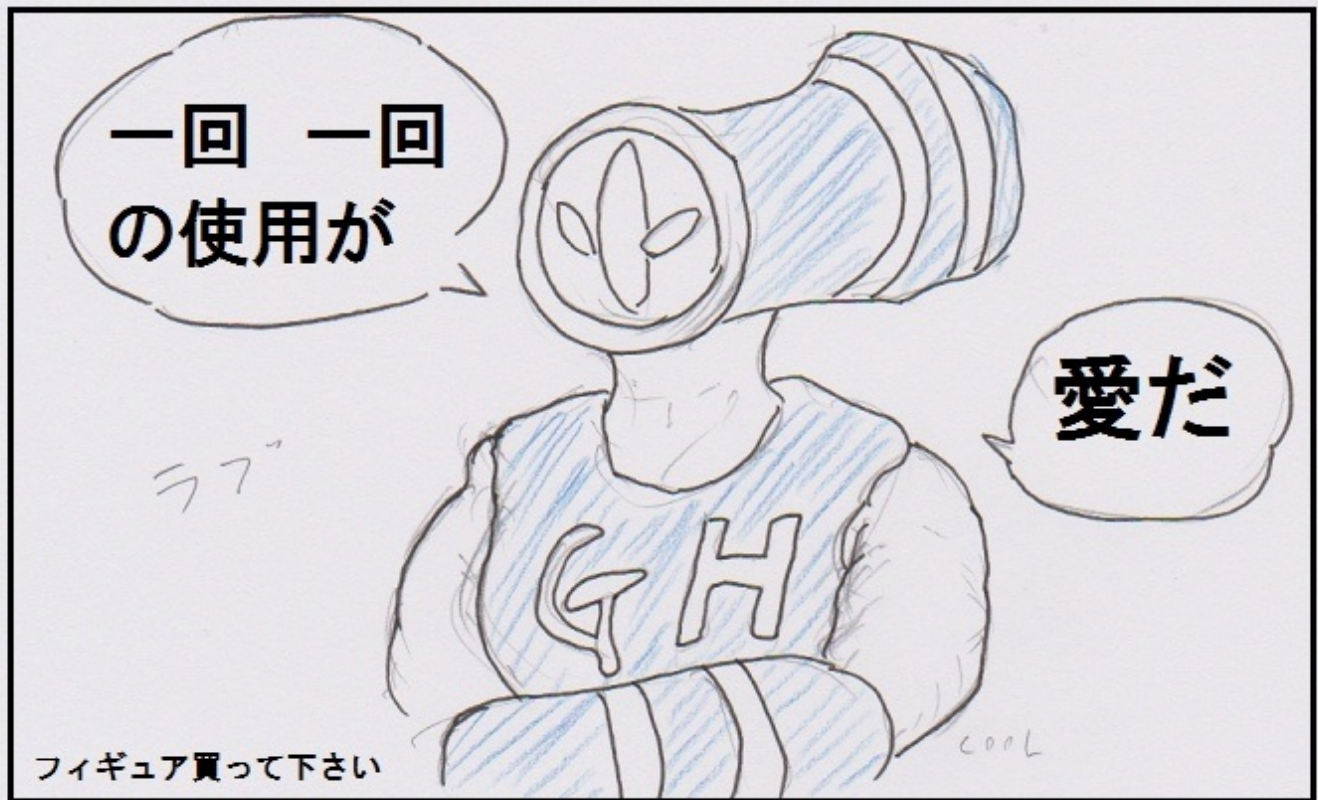
「ハイキュー原画展」
とかの企画展が無いと
少しねえ

水島漫画ストリートにもう
銅像置いてないんじゃないのか？

とりあえず
万代島美術館
に行った方が
有意義ではないか？

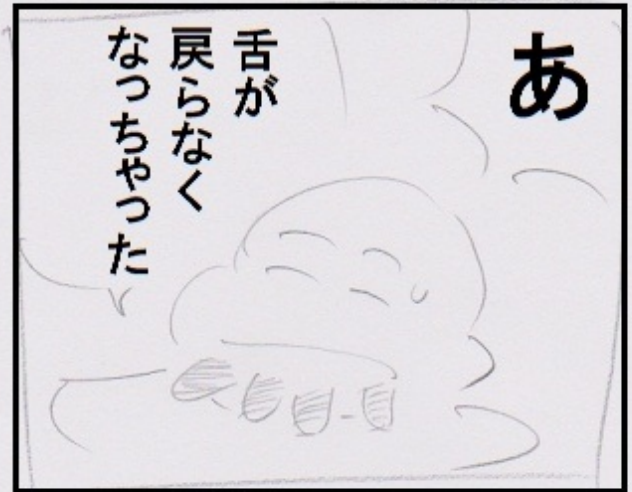
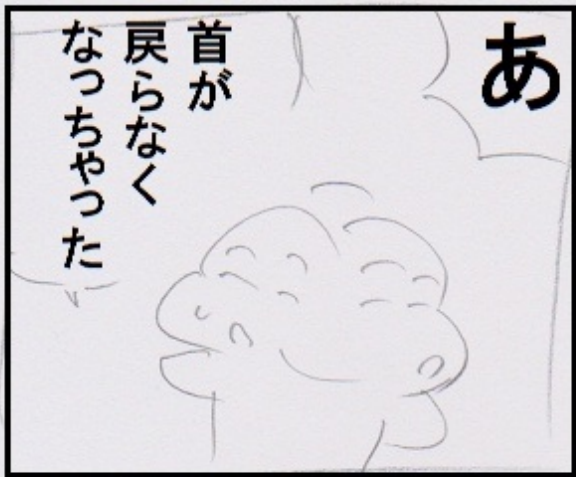
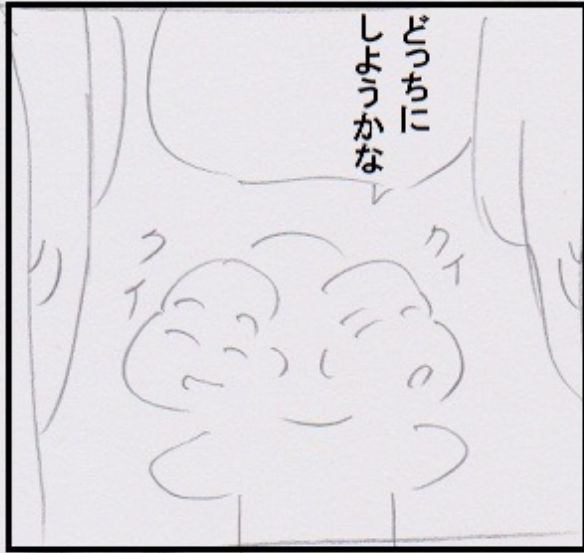
※マンガ・アニメ情報館、マンガの家に専用駐車場はありません。
公共交通機関をご利用いただくか、近隣の有料駐車場をご利用ください。

四コママンガ 後半



今までの四コママンガのあらすじを
四コマで ダイジェスト 前二コマは前半にて

後半からは女性キャラクターも出てくるよ

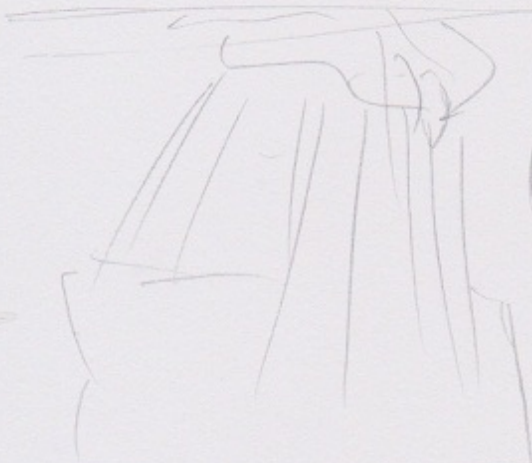


ペドちゃんドクちゃん

合流



タイガー立石のマンガか



スーザン
所望の品を
お持ちしました
これで何卒
追試の方を…

710

買収……

GTA
HOT
Coffee
問題

Oh
麩菓子が
イッパイ



あ
ま



カキヤ



山吹色の色鉛筆が
転がって変なところに
色が付いちちゃったけど
不慮の事故のために
不問に処してほしい

コーヒー
飲んでく?

ホンキートンク・
ウイメンスタイル
に続く



あとづけ
設定

~~忍法~~
忍法

今までずっと黙っていたが
実は彼らなのはくんやフェイト
くんは全裸ではなく正直者に
しか見えない服を着ていた

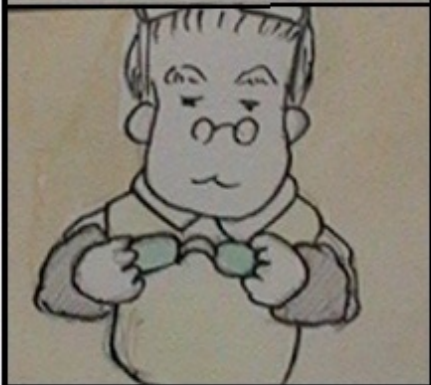


このシーンは9才(注・小3のトシヒコと同じ年齢)の彼らが愛し合っているように見えるが、そんな児童ポルノ法に抵触していることは実はしていなかったのだ。官憲の皆さん。

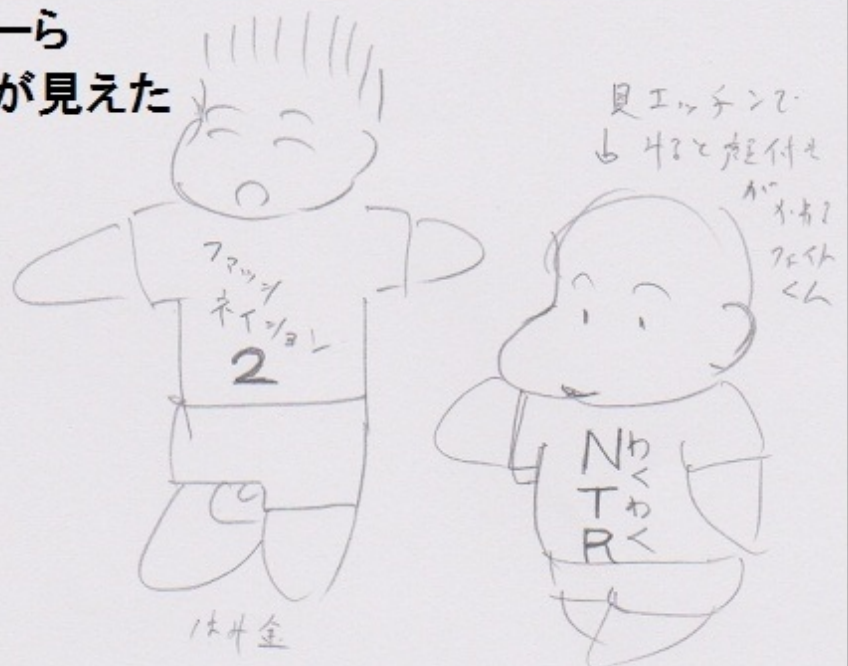


実は僕たち
服を着てます!

ウソだと思ったらこの
見Hンで正直ではない君たち
読者にも服が見えるように
してあげよう(親切)



ほーら
服が見えた

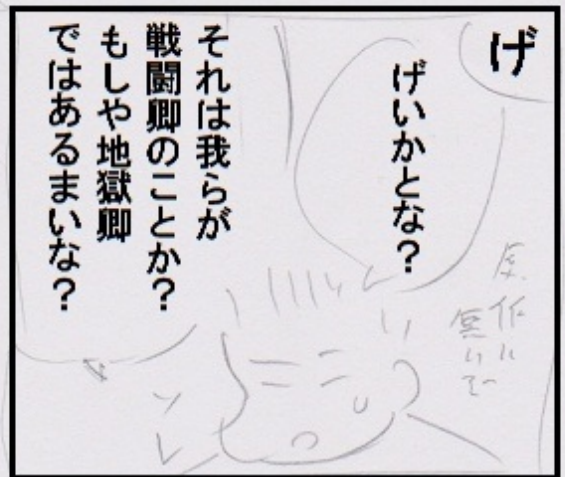
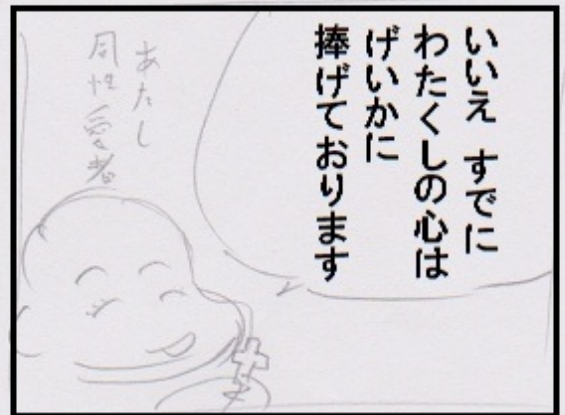


後で水晶を取立て屋に渡しておいてね

公爵役 深町なのは
イザベラ役 海江田フェイト



本物のイザベラはこんなんだけど『風雲児たち』方式みたいだ



わるいとおもうよ

闇の五コマ目

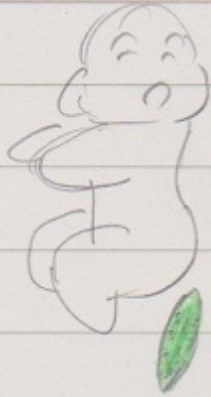




安っぽい感動がほしかったのです

神話のオマージュ

No. 1巻 0698本
てんてん



男神がねっころがって
神が生まれた



スサノオとか
そういう
暴れん坊神
が現れた



あばれる君は
きゅうりの神
を食った



むきんぽ
(途中で話を考えるの飽きた)



オレのきゅうりをよくも

フェイトくんめ



これでも喰らえ

ガブリュブ

やべ

ピッコロシヤキスハスホニ型ジュピターサイクル

宇田は一瞬おコイシがよかったです



きゅうりとか
どうでも
いいから
デイをしよう



違うよ キミのきゅうりを食べたのは...

異性愛軍に負けた

真夜中のやじさんきたさん
みたいに ヤクのやり過ぎで



フェイトくんと
なのはくんの身体が
繋がってしまった

高いところの
物もとれて
便利だね



お母さん 今日
ヘンなヤツが
昼に家の中を
荒していたよ

あらあら
それは
大変



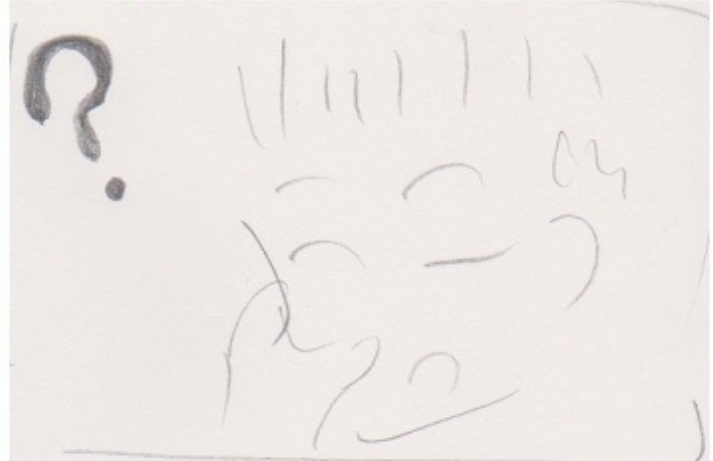
遠い 遠い
昔からの
伏線回収
かしらね



オタマジャクシの
エプロンは何時…

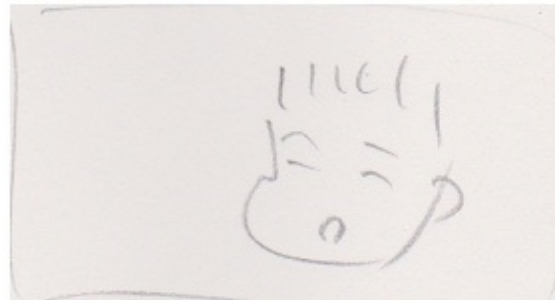
「特撮のネタ」の四コマが
字が汚くて読めない方のために
字幕を付けてあげた(親切)

アレ？
幕内力士の
勢の下の名前って
なんだっけ

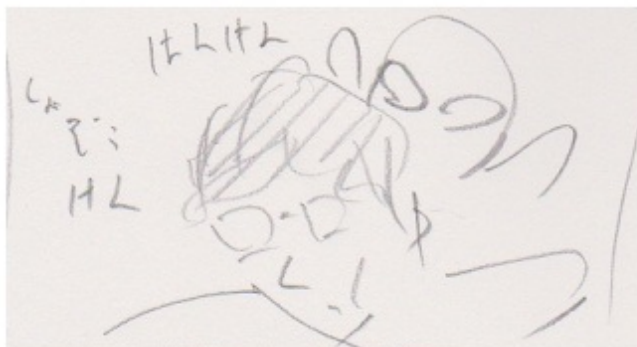


たしか翔太...
じゃないかな？

私は手のデッサンが渡辺崋山みたいに下手でよく書き損じることがあります



違うよ
礼於羽留曇
(レオパルドン)
だよ



中にスパイダー
マンが入って
戦うんだよ

東方警察

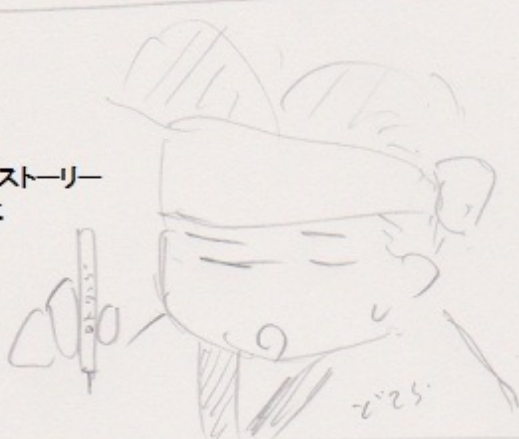
東方警察、知ってる人

東方の方から
来ました
東方警察の
者ですが
終わった
ゲーム作家の
おたくは
こちらですか？



終わった
ゲーム作家
は私ですが…

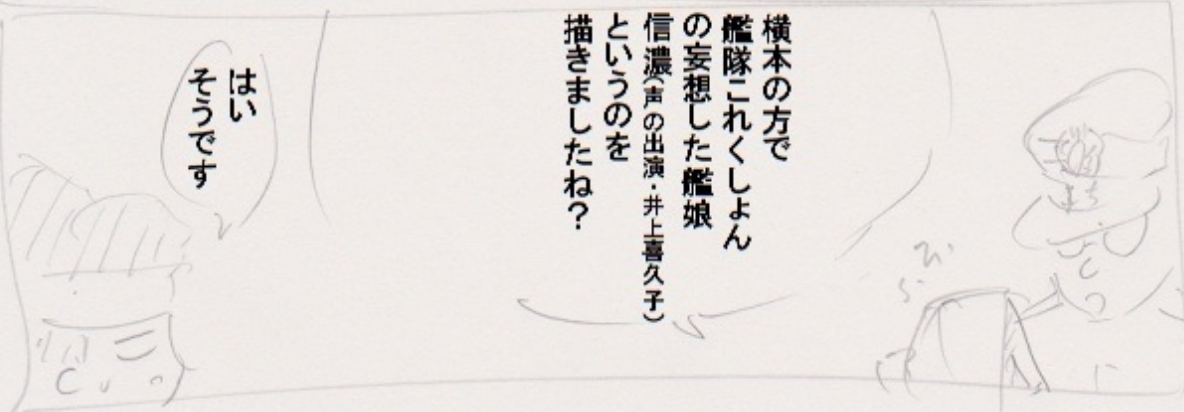
今 ルールラーニングストーリー
描いている最中なのに



少ないだろう

横本の方で
艦隊これくしょん
の妄想した艦娘
信濃(声の出演・井上喜久子)
というのを
描きましたね？

はい
そうです



署まで
ご同行を
願います



艦隊これくしょんで信濃が出てきたら、もうネタ枯れだ

石川賢のマンガか
トンデモ物件
『シスマゲドン』以来の
同心円の瞳
イっちゃてる眼である

ハッパ
×ムシ
おのて
せき
まけ

『ギャングース』を読んだので
天才たけしの元気が出るテレビの「超能力者募集！」みたいに
「今回のたたきの絵図を描いたヤツ募集！」

こんな瞳のヒロイン
を載せるサンデーは
マンガを投げている
としか思えない

たしかに『競女』とかおかしい

少年マンガのガラパゴス諸島



サンデー側が著作権侵害とか言い出したら
このマンガをディスリまくろう

「本当は単に男性同性愛を中和したくて女性キャラクターを出したかった」
という夏休み前は猫の尻尾が短かったのが長くなったのは成長といういいわけ



**ゴム脳市場に出てきた遺書の内容みたいなコト話しているが
裸が制服のマルキ・ド・サド高校を舞台にしている…らしい
もっとヒミツをちょうだい**

MEN'S ONLY01

<http://p.booklog.jp/book/99204>

著者：ゴトチヒ（文責・五島千尋）これを書かないとキンドル本に記事を流用する時、面倒。

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/gotchihi1980/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/99204>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/99204>

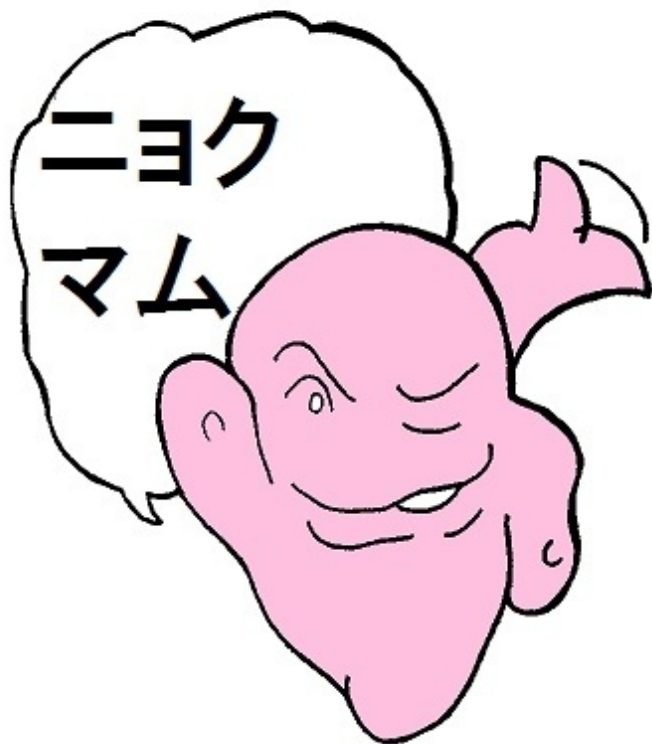
電子書籍プラットフォーム：ブックログのパブー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社ブックログ



up to date information FREEpaper

Back tytle



Architecture
Product
System